

II. 景気の先行きに対する判断理由

景気の先行きに対する判断の理由について、その主だったもの及び特徴的と考えられるものを取りまとめると以下のとおりであった。

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北海道)		観光名所（従業員）	・今年、例年よりも雪解けが早く進みそうなことから、春の行楽シーズンも長くなり、インバウンドも含めて観光客でにぎわうことが期待できる。特にインバウンドの個人客は、消費額も大きいことから、今後の景気が上向くことを期待している。
		その他サービスの動向を把握できる者〔フェリー〕（従業員）	・今後については、予約が順調に入っていることから、景気が良くなると期待している。
	○	一般小売店（経営者）	・少しずつ社会全体の雰囲気が明るくなっていることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	スーパー（企画担当）	・これから雪解けが進み、客が活動的になってくる。春闘での賃上げも期待できることから、消費が上向くと期待している。
	○	衣料品専門店（エリア担当）	・ここ数年、春が短く、夏が長くなっていることで、北海道においても、本州と同じような時期に春物、夏物が売れるようになっている。本州とのタイムラグがなくなっていることで、販売促進が効果的にできるようになっており、今後の売上増加につながることが期待できる。
	○	家電量販店（経営者）	・蛍光灯の製造終了がＣＭなどで流れ始めるようになったことで、ＬＥＤ照明の受注が増えている。また、エアコンの2027年問題の影響で、エアコンの販売も順調に推移することが見込まれる。
	○	乗用車販売店（従業員）	・車両取得時の環境性能割が3月で廃止されることで、購入時の客の負担が減ることから、今後の販売量増加を期待している。
	○	旅行代理店（従業員）	・これまでの買い控えの反動もあって、4月までの先行販売数が堅調に推移していることから、今後の景気はやや良くなる。
	○	通信会社（企画担当）	・3月は、年間で1番の商戦期であり、進学や就職などによる春の新生活需要を期待できる。また、3G通信サービスの終了に伴う顧客獲得や若年層向け料金プランの強化などの販売促進策による効果も期待できる。ただし、今後も、高い目標に向けて努力が必要な状況は続くと思われるため、劇的な改善までは見込めない。
	□	商店街（代表者）	・減税や給付金の支給、賃上げなどの効果で、国民の所得が増加することが見込まれる。それに伴って、景気も上向くことを期待している。
	□	商店街（代表者）	・中国からのインバウンドが減少している一方で、他の国からのインバウンドが減少分をカバーしており、来客数に大きな変化がみられない状況となっている。ただし、国籍の変化により、客の買物志向が大きく変わり、売れる物が変わったため、品ぞろえとのかい離が生じている。売上につなげていくためには、客のニーズをもう少し把握する必要がある。
	□	商店街（代表者）	・百貨店などの閉店に伴い、中心街では小規模の専門店が中心となっていることから、今後、来客数が大きく増加することは見込みづらい。
	□	一般小売店〔酒〕（経営者）	・酒類の販売量が上向いてくるまで、しばらく時間が掛かるとみられる。
	□	百貨店（販売促進担当）	・依然として、物価高騰が消費者の生活を圧迫していることで、客の購買意欲が上向いてこない状態が続いている。今後についても、急激に状況が好転することは見込みづらいことから、しばらくの間は横ばいでの消費行動が続く。
	□	スーパー（店長）	・今後、食料品の消費税引下げなどに向けた具体的な動きが出てくるまで、景気はさほど変化のないまま推移する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	☐	スーパー（店長）	・食料品の消費税引下げに向けた動きについて、先行き不透明な部分があるため、今後、消費に対して客が慎重になることが懸念される。
	☐	スーパー（店長）	・今後の情勢次第の面があるため、現時点では景気がどうなるか判断が付かない。
	☐	スーパー（企画担当）	・ガソリンの暫定税率廃止、電気・ガス料金支援などによるエネルギーコストの負担軽減はあったものの、実質賃金が物価上昇に追いついていないことから、今後も客の財布のひもは固いまま推移する。
	☐	スーパー（役員）	・値上げに伴い、商品単価が上昇していることから、売上は増加傾向にあるものの、買上点数が減少している。今後も客の節約志向は続くと思われる。
	☐	コンビニ（エリア担当）	・生活支援を目的とした商品券の配布により、一時的に増えた客に対して、継続して来店してもらうための動機付け、仕掛けづくりが、今後重要になってくる。ただし、取組内容によって、店ごとの差が出てくることも見込まれる。
	☐	コンビニ（エリア担当）	・おにぎりを始め、値上げが続いていることで、客が価格に対して敏感になっている。客の節約意識は高いままであり、余計な物を買わない状況にあることから、今後も景気は変わらない。
	☐	コンビニ（エリア担当）	・観光地では、今後も、中国からのインバウンドが大幅に減少したまま推移するとみられることから、売上の回復は見込めない。客の消費行動が回復するような見通しも立たない。
	☐	衣料品専門店（店長）	・今後、新年度の買換え需要のピークを迎えるものの、先物オーダースーツの需要が低迷していることから、客の購買意欲が大きく低下していることがうかがえる。そのため、今後も景気は変わらない。
	☐	乗用車販売店（経営者）	・今後も、物価高の影響は払拭できないと見込まれることから、景気動向は変わらない。
	☐	乗用車販売店（従業員）	・今後については、タイヤ交換の繁忙期となる。客の利用が、タイヤ交換だけで終わるのか、販売にもつながるのかは、現時点では予測しづらいものの、新型車の販売が少しずつ増えてくることから、多少は受注が増えると期待している。
	☐	自動車備品販売店（店長）	・生活必需品以外の売上は、今後も大きく変わらないと見込まれる。
	☐	住関連専門店（役員）	・消費動向に変化がみられず、これから大きく変わるような要因も見当たらないことから、今後も景気は変わらない。
	☐	その他専門店〔医薬品〕（経営者）	・新規客の開拓は厳しいものの、既存客からの相談や健康指導に時間が割けることはプラスである。健康相談を希望する客を1人でも多く増やすことで、売上に繋がっていききたい。
	☐	その他専門店〔造花〕（店長）	・例年であれば、これから繁忙期を迎える時期であるものの、物価高の影響が懸念される。ただし、これまでの客の雰囲気から、今後も落ち着いた状態が続くとみられる。
	☐	高級レストラン（スタッフ）	・地元客による高級店利用が減少しつつあることから、できるだけ売上を落とさないような対策を講じたい。飲食業界全体の景気は、円安の影響でインバウンドが多いうちは大きく変わらないとみられる。ただし、ここに来て、世界や国内の情勢が刻々と変化していることから、先行きが読みづらくなっている面もある。
	☐	高級レストラン（スタッフ）	・インバウンドについては、さほど変動がみられないものの、国内観光客の動きが鈍くなっている。国内景気が回復すれば、観光客全体の底上げにもつながると期待しているものの、現状では変化がないまま推移するとみられる。
	☐	観光型ホテル（スタッフ）	・3月はイベント開催に伴う来客数の増加、単価上昇を期待できるものの、4月は観光のオフシーズンとなることから、需要の減少が見込まれる。全体としては、今後も景気は変わらない。
	☐	旅行代理店（従業員）	・直近の動向に加え、消費税の引下げが行われるとしてもしばらく先になると見込まれることから、今後も大きな変化のないまま推移することになる。ただし、国内外の社会情勢の変化により、景気が大きく変化することも考えられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	旅行代理店（従業員）	・今後について、物価上昇や為替の動きなど気になる点はあるものの、身の回りの仕事や消費動向に大きな変化はないまま推移すると見込まれる。そのため、今後も景気は変わらない。
	□	タクシー運転手	・例年と比べて、温暖な天候が続いていることで、人流が増加している。そのため、今後、住民の消費行動が活発になることを期待している。
	□	タクシー運転手	・物価の高騰が落ち着くまで、しばらく時間が掛かるとみられることから、当分の間、景気は変わらない。
	□	観光名所（職員）	・来客数の動向が変わるような要因が見当たらないことから、今後も景気は変わらない。
	□	美容室（経営者）	・値上げによるマイナスの影響が、ここ半年で徐々に解消してきた雰囲気がある。今後については、多少ではあるものの、売上が増加することを期待している。
	□	住宅販売会社（経営者）	・現政権下で経済対策が進むことを期待しているものの、住宅に関連する対策が余りみられないことから、今後も厳しい状況が続く。
	□	住宅販売会社（従業員）	・建築単価が高止まりしていること、住宅ローン金利が上昇基調にあることから、客が購入を様子見する傾向がみられる。そのため、今後も景気は変わらない。
	▲	百貨店（売場主任）	・ボリューム層の消費マインドが低迷している。ファッション関連では、これから春物や夏物が動き始める時期となるものの、引き続きボリューム層の購買が苦戦すると見込まれる。
	▲	スーパー（従業員）	・値上げの動き次第の面はあるものの、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	コンビニ（エリア担当）	・地方自治体の物価対策としての商品券配布により、一時的な需要が発生しているものの、4月頃には効果がなくなるとみられる。その後は、先行き不安などから、販売量が落ち込むことが懸念される。
	▲	乗用車販売店（経営者）	・人口減少や高齢化の進展に伴って、耐久消費財を購入しない又は更新しない世帯が増加するとみられることから、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	乗用車販売店（従業員）	・車両取得時の環境性能割が3月で終了することから、3月の車両登録を控える客が多く、決算に向けての数字が厳しくなっている。
	▲	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経営者）	・イラン情勢の影響により、今後、原油価格が上昇することが懸念される。
	▲	高級レストラン（スタッフ）	・2月はインバウンド需要が好調であった。3月以降は、インバウンド需要が落ち着くことから、景気はやや悪くなる。3月以降も観光客が当地を訪れるような魅力ある施策が打ち出されることを期待している。
	▲	旅行代理店（従業員）	・今後については、ゴールデンウィーク期間を除けば、主たる観光コンテンツもないことから、航空機利用による北海道への人流が減少することになる。初夏を迎え、観光需要が増加してくる6月まで、景気は低調に推移することになる。
	▲	タクシー運転手	・3月までの雪の降る時期は、タクシーの利用が多く、前年の値上げ効果もあって、売上にも期待できる。一方、雪解けが進み、暖かい日が続くようになると、タクシーの利用が減り、売上も減ってくる。特に今年は、前年の値上げの影響で、タクシーの乗り控えが生じることが懸念される。
	▲	タクシー運転手	・4月に、運賃の引上げを実施する予定であることから、その後の客の乗り控えが懸念される。
	▲	タクシー運転手	・今後については、雪解けに伴って、タクシーの乗客数が減少することが見込まれる。
	▲	美容室（経営者）	・今後の景気はやや悪くなる。景気を上向かせるためには、消費税の引下げよりも社会保険料の負担軽減が望まれる。
	▲	住宅販売会社（経営者）	・一部の投資向けマンションを除くと、物価上昇率を上回るような賃金の上昇がない限り、実需としての分譲マンション市場はますます縮小するとみられる。
	×	衣料品専門店（経営者）	・物価高の大きな要因である円安が続いていることから、今後の景気は悪くなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	観光型ホテル（経営者）	・全国的に中国からのインバウンドの団体旅行が減少したことで、他国からのインバウンドの奪い合いが生じている。そのため、集客も単価も厳しい状況となっている。国内客は、物価高の影響により、旅行需要の減少が顕著にみられる。これらのことから、今後の景気は悪くなる。
企業 動向 関連 (北海道)		-	-
	○	食料品製造業（従業員）	・今後3か月程度で、中国からのインバウンドの動きが大きく変化することはないとみられるものの、国内観光客の動きが上向いてくる時期であるため、今後の景気はやや良くなる。
	○	建設業（経営者）	・公共工事における労務単価の上昇率は、物価の上昇率を下回っているものの、設計単価の引上げが予定されている。このため、今後の景気はやや良くなる。賃金も多少は引き上げることができるようになる。
	○	建設業（役員）	・公共土木工事については、新年度案件の入札が続いていることから、今後の新規受注の増加が期待できる。さらに、現政権による積極財政の推進により、公共投資の着実な執行も期待できる。民間建築工事については、次年度繰越し分と新規着工分により、新年度が始まった時点で、年間計画水準を確保できる見通しである。これらのことから、新年度はこれまでよりも一段と好調な滑り出しとなる。
	○	輸送業（支店長）	・春を迎えて、物流量が増加することを期待している。
	○	金融業（従業員）	・大企業において、4年連続となる大幅な賃上げが見込まれ、中小企業においても、人材流出防止に向けて賃上げが進むことが見込まれる。物価上昇率伸びも鈍化していることから、今後、実質賃金がプラスに転換し、消費マインドが上向くことを期待している。
	○	その他サービス業〔建設機械リース〕（営業担当）	・労働力不足、資材価格の高騰などの懸念事項はあるものの、今後も高水準の建設投資が継続すると見込まれる。スーパーゼネコンを中心に、受注環境が高い水準で推移すると見込まれることから、当面は好調に推移すると見込まれる。
	□	農林水産業（経営者）	・3月になると、りんごの貯蔵品が出回り始めるとみられるものの、4月には在庫水準が低下し、出荷量も先細りになると見込まれる。
	□	食料品製造業（従業員）	・受注量が大きく増減するような案件が見当たらないことから、今後も景気は変わらない。
	□	食料品製造業（従業員）	・製品内容の変更について、幅広く検討しているものの、実際に動き出すまでまだ時間が掛かることから、今後も販売量などは変わらないまま推移する。
	□	金属製品製造業（従業員）	・人口減少局面に転じているなか、円安、原材料価格高騰などの影響が続いていることから、今後、新築着工棟数が増加するような要因が見当たらない。
	□	建設業（従業員）	・業界的に、設計部門も施工部門も人員が不足していることから、今後しばらく景気は変わらない。
	□	広告代理店（従業員）	・景気が良くなるような要因が見当たらない。
	□	司法書士	・売買や新築などの不動産取引と関連した案件の受注が減少しつつあることから、今後も景気は変わらない。同業者においても、同様の傾向がみられている。
	□	コピーサービス業（従業員）	・仕入価格が高騰していることから、販売価格の引上げを行っているものの、それが利益につながっていないことから、今後も厳しいまま変わらない。
	□	その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	・新年度において、仕事量が増えるの見込まれるものの、秋頃からの話であるため、まだしばらくは現状と同様の水準で推移することになる。
	▲	司法書士	・現政権において、食料品の消費税引下げに向けた検討が進められているものの、防衛費増額に向けた財源確保の動きや金融所得課税の見直しなどで、将来の税負担が重くなることも考えられる。全体的な税負担が変わらない又は増えるようなことになれば、景気がいつまでも回復しないことが懸念される。
	▲	その他サービス業〔ソフトウェア開発〕（経営者）	・つい最近までの人手不足がうそのように、仕事量が不足し始めている。今後の景気はやや悪くなる。
	×	-	-

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
雇用 関連 (北海道)		-	-
	○	-	-
	□	人材派遣会社（社員）	・新年度を控えて、企業では業績の拡大を目指し、人員体制の強化に動いている。4月になると、新卒者の入社により、企業の人員数は増えるものの、新卒者は飽くまでも将来の戦力であるため、現状は即戦力となる中途採用を積極的に進めるとみられる。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・衆議院選挙の結果を受けて、経済に新たな刺激が生じることを期待したい。ただし、物価高を解消するような政策が打ち出されない限り、状況は変わらない。
	□	求人情報誌製作会社（編集者）	・企業の人手不足が慢性化している一方で、新規投資や採用拡大に踏み切れないケースが多い。求人を出しても、応募が限定的なことから、企業では採用難とコスト増加が進行しており、先行きの回復材料に乏しい。観光や季節需要で一時的な動きはみられるものの、地域経済全体を押し上げるような力強さはみられない。
	□	職業安定所（職員）	・ここ4か月のうち、新規求人数が大幅に減少した月が3回あったものの、今後も同様の傾向が続くとは考えにくい。
	□	職業安定所（職員）	・当地の1月の新規求人数は前年を4.4%上回り、3か月ぶりの増加となった。一方、月間有効求人数は、3か月連続で前年を下回った。産業や業種によってその度合いは異なっているものの、今後の物価上昇の状況によっては、経済活動、消費行動が先を見通せない状態となることが懸念される。
	□	職業安定所（職員）	・今後の景気の良しあしにつながるような環境の変化が見当たらない。企業数社へのヒアリングでは、生産量が落ち込んでいるとの話であり、今後の利益確保に向けて、省人化や省力化を進めるよりも、現状を維持することがメインの考え方になっている。
	□	職業安定所（職員）	・求人企業も求職者も堅実に活動しているものの、慎重な動きとなっている。当地の景気が好転するような情報は聞こえてこないことから、今後も景気は変わらない。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・今後の景気が回復するような要因は見当たらない。ただし、求人数が落ち込むことも考えにくい。
	▲	求人情報誌製作会社（編集者）	・世界情勢や国内情勢の劇的な変化がない限り、景気は横ばい又は下向きで推移することになる。
	×	-	-

2. 東北（地域別調査機関：公益財団法人東北活性化研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (東北)		コンビニ（経営者）	・近隣の商業施設が再開店する7月までは、乗客数は前年を超える状況が続くとみている。
		衣料品専門店（経営者）	・天候も良くなり、春夏物の動きが活発になるとみている。
	○	商店街（代表者）	・雪解けが進み、大雪の影響の反動で来街者数は増加するとみている。
	○	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・繁華街は人が来ないと盛り上がりがない。この先、暖かくなり日本人観光客が当地を訪れるようになると、景気もやや良くなると期待している。
	○	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・客の来店が少ない雪の時期が終わり、外出の機会が多くなる。また、季節の変わり目を迎え、関連商品が動くようになる。
	○	一般小売店〔茶〕（経営者）	・春に向けて大雪の影響は解消に向かい、景気は回復していくとみている。
	○	一般小売店〔酒〕（経営者）	・卒業入学シーズンに入り、天候も良くなれば人の動きは多少なりとも出てくる。ただし、4月からは酒米の高騰を理由に値上げを決定している酒蔵も多く、他の飲食品に関しても値上げが実施されるため、それが消費にどこまで影響するかは不透明である。
	○	一般小売店〔スポーツ用品〕（店員）	・暖かくなってゴルフ場がオープンすれば、数字も上がってくる。しかし、各メーカーの商品が値上がりしており、どこまで影響するか予測がつかない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	一般小売店〔書籍〕 (営業担当)	・衆議院選挙が終わり、政権の公約実現が期待できる。
	○	百貨店(営業担当)	・大雪の影響から脱し、来客数の回復が見込める。
	○	百貨店(経営者)	・来客数の増加が期待できる。
	○	スーパー(店長)	・近隣自治体で住民への商品券配布を予定しており、消費が上向きになるとみている。
	○	コンビニ(エリア担当)	・来客数の伸びと売上の好調を維持し、景気が良くなることを期待したい。
	○	コンビニ(エリア担当)	・気温上昇や花見シーズンの到来により、来客数の増加が見込める。
	○	乗用車販売店(従業員)	・年度末に向けて拡販期に入り、メーカーからの施策も充実してくる。また、道路状況が良くなることで来場のキャンセル等も減少し、遅れた分をばん回できるとみている。
	○	乗用車販売店(従業員)	・12月頃から販売台数が伸びており、この先も続くともっている。
	○	乗用車販売店(店長)	・政権継続が確定したため、顧客からも業界の新税制に対する期待の声を聞く。特にガソリン車の大幅減税の報道もあり、新年度の商談が増えてきている。
	○	自動車備品販売店(経営者)	・除排雪業者の車両補修等が見込まれる。また、雪害で損壊した住宅の火災保険による補修なども行われる。各従事者の一般消費も活発になるとみている。
	○	一般レストラン(経営者)	・主に歓送迎会とみているが、3月は4～5割が予約で埋まっている。
	○	都市型ホテル(支配人)	・国内客、インバウンド共に桜やゴールデンウィークなど春の行楽シーズンの先行予約が好調である。
	○	通信会社(経営者)	・新生活応援キャンペーンの実施によりテレビ、インターネット、電話のセットプランへの加入者数の増加が見込まれる。また、通信サービスの集合住宅への一括導入が増える時期でもあり、学生や転勤者のネットサービスへの加入増加も見込まれる。
	○	通信会社(営業担当)	・新内閣発足からの勢いが続くともっている。
	○	通信会社(営業担当)	・来客数が少しずつ増加している。
	○	テーマパーク(職員)	・3～4月は春休みがあるため、学生や3世代家族の利用が見込まれる。
	○	観光名所(職員)	・予約客がインバウンドから日本人団体へと移行しつつあることから、やや良くなっていくとみている。
	○	観光名所(職員)	・定期便の増便などによりインバウンドの増加が見込まれる。
	○	ゴルフ場(支配人)	・政治の安定による影響が身の回りに波及することが期待できる。
	○	その他サービス〔寮管理〕(管理人)	・3月は入学、転勤、引っ越しの需要があるため、消費が上向きになり、景気は良くなる。また、新年度予算が執行されると良くなる。
	□	商店街(代表者)	・物価高騰が収まらず、景気回復のめどが立たない状況が続く見込みである。
	□	一般小売店〔寝具〕(経営者)	・仕立てやカーテンの予約もなく、先行きの見通しも付かない。
	□	百貨店(企画担当)	・ここ数か月、来客数の減少傾向と客単価の上昇傾向が続いている。来客数の減少に歯止めがかかる見込みもなく、厳しい状況は変わらないとみている。
	□	百貨店(経営者)	・春に向けて生活防衛意識は更に強まり、消費者それぞれの価値観のなかで節約していく動きが続く。一方で、株価上昇に伴い資産価値の高い高額商品の動きは更に活発になっていくとみている。
	□	百貨店(従業員)	・賃上げなどの好材料もあるが、物価高改善の見通しが立たないことから、生活防衛のための購買行動に変化はないとみている。
	□	スーパー(経営者)	・新年度予算の執行は4月以降、初任給を含む給与の改定も4月実施となれば、消費に影響を及ぼすのはそれ以降になる。人件費、物流費に加え、4月からは光熱費も増加するため、製品原価は上昇し、価格転嫁もあるとみている。しかし、家計所得が増えるのは一部とみられ、消費の好循環の実現は時間を要する。消費環境はすぐには変わらない。国、自治体等の予算・各事業の早期執行に期待したい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	☐	スーパー（店長）	・米の価格高騰による客単価上昇に起因する売上拡大は既になく、消費は非常に落ち込んでいる。この状態のまま推移するとみている。
	☐	スーパー（店長）	・値上げは継続して実施されるため、客単価が前年を超える状況は変わらないとみている。
	☐	スーパー（店長）	・良くなる要素も悪くなる要素もないため、現状と変わらない。
	☐	スーパー（企画担当）	・物価高に加え、除雪費など身の回りの維持管理のための負担が増加しており、食費に回す金が減少している。今後の見通しに変化はない。
	☐	スーパー（商品担当）	・買上点数の前年割れが続いており、回復の兆しがみえない。
	☐	スーパー（業務担当）	・政府の具体的な対策がまだみえていない。
	☐	スーパー（店舗運営）	・更なる物価高騰が予想されるなか、単価上昇や内食への需要移行も継続するとみている。
	☐	コンビニ（経営者）	・売上が前年比10%プラスの月が10か月以上続いており、現状の好調を維持するとみている。
	☐	コンビニ（経営者）	・商品価格がかなり上がっている。当地域では会社勤めの人賃金が上がっていないため、売上は徐々に落ち込んでいく可能性が高い。
	☐	コンビニ（経営者）	・現在の売上が良い状況は変わらないとみている。
	☐	コンビニ（経営者）	・春になり来客数も多少は戻るが、経費の増加により経営が厳しい状況は変わらない。売上が大きく伸びる要素もない。
	☐	コンビニ（エリア担当）	・天候が良くなり、気温の上昇とともに季節トレンドは高まっていくが、外的環境の変化は望めない。
	☐	コンビニ（店長）	・物価の上昇や人件費の高騰など小売業にとってマイナスなことが続く。
	☐	衣料品専門店（経営者）	・国の方針や米国の動向に景気が左右される懸念があるため、注視していきたい。
	☐	衣料品専門店（経営者）	・物価高騰による個人消費の停滞は続くともみている。
	☐	衣料品専門店（店長）	・新生活需要は見込めるが、消費は天候に振り回され、安定しないとみている。
	☐	衣料品専門店（店長）	・物価上昇により消費マインドは確実に低下している。改善する見通しが立たない。
	☐	衣料品専門店（総務担当）	・冬物商材の処分と春物商材の構成のなかで、処分品の購入が見受けられる。この傾向が続くとみている。
	☐	家電量販店（従業員）	・衆議院選挙の結果を受けて、消費者は今後の政策に期待している。
	☐	家電量販店（従業員）	・4～5月は特に大きな需要がない時期である。ゴールデンウィークの気温が高くなれば、早期のエアコン取付け希望の客が増える可能性があり、気温が高くなることを期待しているが、現状と変わらないとみている。
	☐	乗用車販売店（従業員）	・新型車がなかなか出ないため、決算期に売りたい車がない。先行きは不透明である。
	☐	乗用車販売店（従業員）	・3月は決算期だが、3月末の環境性能割の廃止を前に登録控えになる可能性もあり、収益的に二重苦三重苦になる恐れもある。
	☐	乗用車販売店（従業員）	・決算期に販売した分の受注残による売上が見込める。
	☐	住関連専門店（インテリアコーディネーター）	・新内閣に期待しているが、景気が急激に上向くことはない。小雨による作物の生育不良や水不足といった懸念事項もあり、良くなる理由が見つからない。
	☐	その他専門店〔白衣・ユニフォーム〕（経営者）	・各企業ともコストダウン、コストカットに敏感で、購入に際しては相見積り、ネット比較などが日常であるため、非常に厳しい状況が続くことが予想される。さらに、新卒採用の数も少ないため、前年並みの売上を確保できるか不安である。人の動きはあるようだが、制服に金が流れるのはもっと後かもしれない。現在抱えている大口の案件も全て人の減少により売上が減っている。
	☐	その他専門店〔靴〕（経営者）	・県内の自治体でも物価高騰対策として商品券を配布するところがある。いかに取り込めるかがポイントと捉えている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・例年どおり3～4月には館のリニューアルを予定しているため集客が見込める。インバウンドの売上は前年比120%と伸長が継続している。中国は元々インバウンド全体の1割に満たないため影響は少ない。台湾は前月は全体の4割であったが、直近では5割に伸長しており、全体を下支えしている。
	□	一般レストラン（経営者）	・予約が入らない状況は変わらないとみている。特別な日がない限り外食はしないということが定着してしまったのではないかと懸念している。
	□	一般レストラン（スタッフ）	・メニューの値上げもあり売上は前年を超えているが、来客数が前年を超えることはないとみている。
	□	観光型ホテル（スタッフ）	・生活するに当たっては、引き続き物価高の影響が大きいとみている。
	□	観光型ホテル（スタッフ）	・好転する要素が見当たらない。
	□	観光型旅館（経営者）	・どのような景気対策が出てくるか期待したいところだが、現段階では変わらないとみている。
	□	観光型旅館（スタッフ）	・物価高による消費控えが目立っており、新政権の政策に期待する以外、良くなる要素が見当たらない。
	□	旅行代理店（従業員）	・先行契約は前年並みで推移している。旅行に行く層と行かない層とで2極化している。
	□	旅行代理店（従業員）	・4月以降の先行予約の数値も良くない。
	□	旅行代理店（従業員）	・先行受注の動向を見ても、極端に良いとか悪いといった傾向はみられない。
	□	タクシー運転手	・新入生や新入社員の歓迎会、花見などが行われるため、利用者数は増加する。
	□	通信会社（営業担当）	・好転する材料に乏しいため、現状維持とみている。
	□	通信会社（営業担当）	・衆議院選挙は終わったが、物価対策は進まず先行きは不透明である。
	□	通信会社（営業担当）	・販売見込みに変化はない。
	□	遊園地（経営者）	・3月から34年ぶりに入園料を値上げするが、物価や賃金の動向から売上が増加するかは見通しにくい。
	□	競艇場（職員）	・ゴールデンウィークまで来場促進イベントなどの計画はない。新規客の来場が見込めず、固定客に限られるため、売上の増加は期待できない。
	□	美容室（経営者）	・米国や中国との政治的関係により先行きが見通せない。消費行動に変化はないとみている。
	□	美容室（経営者）	・料金改定により、オプションメニューを注文する客が少なくなっている。単価が上がらない状況は続くともみている。
	□	美容室（経営者）	・客は髪が伸びれば2～3か月に1回は来店する。
	□	住宅販売会社（従業員）	・国内の住宅販売においては、販売量が増加していく要因が見当たらない。
	□	その他住宅〔リフォーム〕（従業員）	・混み合う時期が来る前に実施したいと、エアコン交換に関する問合せが増えるともみている。
	▲	商店街（代表者）	・3月以降の予約状況も変わらず良くない。消費は単価が低い方にシフトし、単価が高い客は少なくなる傾向が続いている。景気は少しずつ悪い方向に向かうともみている。
	▲	商店街（代表者）	・回復しているものの以前の状態には戻らない。
	▲	商店街（代表者）	・物価高と人手不足の状況は変わらない。
	▲	コンビニ（経営者）	・来客数の微減が継続していることに加え、更なる価格上昇も見込まれる。景気が上振れする要素は見当たらない。
	▲	衣料品専門店（店長）	・食料品を始め、引っ越し代や家電などいろいろな物が値上がりしているなかで、着るものは消費の優先度が低くなっている。物価高と収入のバランスが崩れたときに服は苦戦する。
	▲	住関連専門店（経営者）	・受注生産をしており、2～3か月先の受注量は確定している。売上は現状より悪くなる。
	▲	その他専門店〔酒〕（経営者）	・4月以降も値上げは続くため、食料品や生活雑貨等の生活必需品以外は鈍化傾向が強くなることが予想される。
	▲	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・軽油引取税の暫定税率廃止と激変緩和事業の縮小という変動要因があるため、動きは鈍くなるとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（営業担当）	・穏やかな天候が続き、販売量が落ちている。春に向けて気候が良くなると更に落ち込む。
	▲	都市型ホテル（スタッフ）	・桜が咲くまではインバウンドの動きは鈍くなるとみている。
	▲	その他サービス〔自動車整備業〕（経営者）	・利上げによる好景気の失速が懸念される。
	▲	設計事務所（経営者）	・官公庁の建設予算額は減少していないというが、資材価格や人件費などの上昇が継続しているということは、実施できる事業数が減少することを意味する。また、民間事業者は建設費の高騰で採算が合わないため発注を控えている。必然的に受注量が減少する。
	×	一般小売店〔医薬品〕（経営者）	・ここ数か月、当店近隣の昔ながらの個人商店や地元の有名専門店などが立て続けに廃業している。閉店後は店舗がそのまま放置されているか駐車場になっており、新しい店舗や事業者が入ることはほとんどない。景気回復の要素は見当たらず、底はまだ先にありそうである。
	×	スーパー（経営者）	・消費税減税を含む物価対策の議論がようやく始まりそうだが、食料品の消費税が減税されなかった場合、消費者マインドが低下する恐れがある。
	×	一般レストラン（経営者）	・鉄道会社の特別企画乗車券の期間も終了し、現在の景気の良さの要因である県外客がいなくなるため、景気は悪くなるとみている。
	×	一般レストラン（経営者）	・新政権の政策には期待できるが、地政学的リスクが景気の底上げを妨げている。一般家庭でも消費より貯蓄に回す傾向がみられる。景気は悪化するとみている。
企業 動向 関連 (東北)		観光名所（職員）	・予約数が増えていないため不安がある。
		農林水産業（従業者）	・降雨量によって変動する可能性はあるものの、果樹の収穫が始まるため期待できる。
		建設業（従業員）	・現在競争中の案件を含め、複数の民間案件の受注契約を見込んでいる。
	○	金属製品製造業（経営者）	・新年度の受注は少し良くなる見通しである。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	・現状の受注量は横ばいか若干減少しているが、今後は景気が良くなることが期待できる。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	・米国の中国に対する半導体輸出規制緩和により、半導体設備の部品需要が増える可能性がある。
	○	広告代理店（経営者）	・どの企業も人材確保が難しい状況で、企業プロモーションのニーズは今後も高まるとみている。
	○	経営コンサルタント	・米国との新たな関税問題が懸念材料だが、景気は全体的に上向くとみている。
	○	その他非製造業〔飲食品卸売業〕（経営者）	・衆議院選挙も終わり、新政権の経済政策への期待感から消費マインドが向上する。
	□	食料品製造業（営業担当）	・販売量の前年割れと原材料価格の高騰が続き、悪い状況は変わらないとみている。
	□	食料品製造業（製造担当）	・財布のひもが固い状況は変わらないとみている。内容量の変更や安価な商品の開発を行い、地元客の来店を促し、手にとってもらいやすいデイリー性の高い商品やメニューを提供していく。
	□	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・円安が続けば物価高騰に歯止めがかからない。
	□	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・地方の様々な課題が解決するまでには相応の時間を要する。
	□	電気機械器具製造業（総務担当）	・大きめの商談にはやや停滞感があり、発注元も様子見をしている気配がある。
	□	輸送用機械器具製造業（経営者）	・先の情報は良くなってきてはいるが、一部事業の動きだけである。
	□	建設業（従業員）	・降雪もなくなり、現場も稼働し始めている。受注している工事を粛々とこなしていく。
	□	建設業（従業員）	・人手不足により受注量を増やすことができないため変わらない。
	□	建設業（従業員）	・受注量が目標を超えている状況は、少なくとも3年は変わらない見通しである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	輸送業（経営者）	・日中関係の問題や米国の関税政策、円安の影響により、輸出入貨物を始め荷動きの鈍化傾向は長引くとみている。
	□	通信業（営業担当）	・顧客の値下げ要請に対しては、価格の妥当性を理解してもらえよう努めていく。
	□	通信業（営業担当）	・例年4月は新入社員向けの端末など新年度需要の取り込みにより、安定した受注が見込める。
	□	金融業（広報担当）	・インバウンドについて中国からは減ったものの、その他の国からは好調で、県内の宿泊・飲食業の売上はおおむね順調である。円安基調も止まりマーケットの安心感が広がって、物価上昇への警戒心は多少緩んだ印象を受ける。
	□	広告業協会（役員）	・衆議院選挙の結果により、物価対策や減税等の政策が前に進むと考えるが、実施に時間が掛かるため、当面の景気は変わらないとみている。
	□	公認会計士	・製造業、建設業の業績が改善しない限り、全体としての景気回復は難しい。3～4月は歓送迎会などがあるため、小売業、サービス業は今より良くなることはないものの、同程度の業績は維持できるとみている。全体としては変わらないとみている。
	□	その他企業〔企画業〕（経営者）	・景気が良くなる要素も悪くなる要素も見当たらない。
	□	その他企業〔協同組合〕（職員）	・物価高が続くことに加え、人手不足等もあり人件費は増加傾向にある。受注量の増加分を考慮しても、景気的大幅な好転は見込めない。
	▲	農林水産業（従業者）	・米農家に農業団体から支払われた2025年産米の概算金が高すぎたようなので、追加払いや精算金が期待できない。
	▲	電気機械器具製造業（総務担当）	・メモリやSSDの入手難が続く見通しである。
	▲	司法書士	・材料価格は高止まり、金利は上昇局面にあるため、不動産関連事業は厳しい状況が続く。
	▲	コピーサービス業（従業員）	・前年から業種を問わず倒産する企業が増えている。少しずつであるが影響が出るとみている。
	×	窯業・土石製品製造業（職員）	・官需、民需共に受注が減少しており、厳しい状況が続く。
	×	不動産業（従業者）	・長期金利の上昇局面で住宅ローン金利が上がることで、買手のメリットが減少する可能性がある。人件費や設備費用は依然として下がっていないため、不動産価格が下がらなければ、マッチングは限定的になる。
雇用 関連 (東北)		-	-
	○	アウトソーシング企業（経営者）	・値上げができれば給料も上げられるため、景気が良くなるとみている。
	○	職業安定所（職員）	・そろそろ景気の回復局面に入るとみている。
	□	人材派遣会社（経営者）	・新卒採用に力を入れている企業において、採用人数を確保できない状況が続いている。雇用の側面からみると、しばらくの間は景気がやや良い状況が続くとみている。
	□	人材派遣会社（社員）	・米国の関税政策の影響が不透明である。地政学リスクもあり、先が見通せない。
	□	人材派遣会社（社員）	・引き続き見通しが不安定な状況が続く。現時点では判断が難しい。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・明るい材料に乏しく、当面景気の回復は期待できない。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・新内閣の景気対策は、地方にまでは波及しないとみている。
	□	職業安定所（職員）	・有効求人数は前年同期比で横ばいである。一方、今後数か月にわたり、企業整備による人員削減を行う企業が複数ある。
	□	職業安定所（職員）	・管内事業所においては、製造業は海外情勢の影響により足元が良くない。今年は厳しくなるという声を聞く。一方、観光業は当県が米国のメディアに取り上げられたことで欧米からのインバウンドが増えている。全体としては大きくは変わらない。
	□	学校〔専門学校〕	・衆議院選挙が実施されたが、景気回復につながるような要因は見つからない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	その他雇用の動向を把握できる者	・人手不足は変わらないが、物価高による買い控えから卸売業、小売業は求人数の減少が続く。また、価格に転嫁できない製造業でも求人数は減少が続く。
	▲	*	*
	×	求人情報誌製作会社（経営者）	・原材料価格や燃料費の高騰を理由にした仕入価格上昇に歯止めがかからず、特に体力のない中小企業にとっては苦しい状況が続く。また、小売商品の価格上昇も続いており、消費者にとっては生活が苦しい状況が続く。

3．北関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (北関東)		美容室（経営者）	・若年層でもお金に余裕のある人が増えている傾向が見受けられる。
	○	一般小売店〔酒類〕（経営者）	・天候が暖かくなれば、飲料品関係の需要が増える。
	○	百貨店（店長）	・政府の政策により、株価高騰の先行き、実体経済の回復も期待できる状況になっている。金利上昇や国際情勢の混乱等の不確定要素は残るものの、全体で見た場合、良くなる可能性の方が高いとみている。
	○	コンビニ（エリア担当）	・値上げの影響がまだしばらくは続くともっており、インバウンドの影響が少ないこともあって、景気はこのままやや良くなるとみている。
	○	コンビニ（エリア担当）	・4月以降は新社会人や学生の駅利用増加に伴い、来客数の上積みも期待できるため、景況はやや改善傾向で推移すると見込んでいる。
	○	コンビニ（店長）	・地域で急激に高齢化が進んでいる影響からか、大変厳しい2月であったが、天候が暖かくなればある程度元に戻るとみている。
	○	家電量販店（店員）	・現状のように、耐久消費財の伸びが堅調に推移すれば、期待が持てる。また、エアコンは2027年問題、いわゆる省エネ達成率が100%でなければ生産できなくなることから、駆け込み需要が発生することもあると期待の1つとなる。
	○	自動車備品販売店（経営者）	・現政権は明確に将来に対して前向きな政策をずっと主張している。身の回りの客なども含め、かなり多くの人々が期待している。政策が少しでも具現化してくれば、皆、お金を使ったり、前向きなムードになるため、少しずつ上向きになる。
	○	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・春の異動時期に伴い、タイムリーな需要増加が期待される。
	○	一般レストラン（経営者）	・歓送迎会の時期や連休もあるため期待したい。
	○	一般レストラン〔居酒屋〕（経営者）	・歓迎会等、外食機会が増えてくると予想している。
	○	都市型ホテル（経営者）	・外食産業のため、消費税の減税が実行された場合、景気が良くなるとの期待がある。
	○	都市型ホテル（支配人）	・宿泊部門では桜やネモフィラ等、観光需要があり、料飲部門は歓送迎会や総会シーズンに入るため、景気はやや良くなる。
	○	旅行代理店（経営者）	・繁忙期に突入するため、例年と同様の販売量であればバス代金が高騰している分、売上は増加する。
	○	旅行代理店（所長）	・今年もインバウンドは順調に推移するとみている。国内旅行については、今後の政治の動き次第である。
	○	タクシー（経営者）	・全体的に動きが良くなっているため、この先も良くなる。
	○	ゴルフ場（従業員）	・ゴルフシーズンに入るため期待したい。ゴールデンウィークは前年の日並びと異なっており、人気のある日と客の少ない日の動きが出始めている。
	□	商店街（代表者）	・恒例の春のイベントに人出が見込まれ、期待が高まっている。ただし、イベント後にはいつもの寂しい商店街になるので不安である。
	□	一般小売店〔精肉〕（経営者）	・消費税を減税するかどうかの結果次第で良くなるか悪くなるか、実際は変わらないのではないかとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	百貨店（営業担当）	・一部富裕層の動きがみられるものの、多数を占める中間層の消費意欲は依然として低いままである。特に、高齢者の生活防衛意識は高く、消費には極めて慎重である。この傾向はしばらく続く。
	□	百貨店（営業担当）	・購買意欲の停滞、沈静化は続くともみているが、卒業、入学、新生活の需要は確実にあるため、例年どおりの売上は確保可能と考えている。購買意欲の低い顧客層への需要喚起を促進して追加の売上獲得を図る。
	□	スーパー（総務担当）	・価格高騰が続くなか、景気回復の兆しがみえない。
	□	スーパー（商品部担当）	・今の状態より良くなるとは考えにくい。悪天候による農作物への影響や食料品の値上げ傾向は収まる気配がない。最低賃金引上げによる影響も見受けられない。
	□	スーパー（経営企画）	・2～3か月では変わらないと考えるが、食料品の消費税が軽減されるのであれば、将来的には期待できる。
	□	衣料品専門店（経営者）	・季節が変わり、買換え需要が見込める期待がある。反面、諸物価高騰で衣料品の買い控え傾向も見受けられる。
	□	家電量販店（営業担当）	・花粉シーズン到来で、関連商材の品ぞろえに注力していく予定である。
	□	家電量販店（企画担当）	・物価高騰などを背景とした節約意識の高まりを受けて、依然として家電の買換えは抑制的であり、来客数、販売量の低迷が懸念される。一方、今後は2027年問題を背景としたエアコン需要の高まりが、長期的に期待できる。
	□	住関連専門店（店長）	・少子化や高齢化等、この先に明るい兆しがない。
	□	住関連専門店（仕入担当）	・消費税減税に向けた動きや米国の関税政策、日中関係など不確定要素が多く、春の訪れに伴う需要も天候次第である。好転する要素は見当たらない。
	□	その他専門店（総務担当）	・販売単価が上げられないため、変わらない。
	□	その他飲食〔給食・レストラン〕（総務）	・給食部門では、新年度からの契約入札に際し、異業種を含めた参入があり、条件見直しの重しとなっている。一方で、食材費や人件費を始めとする経費は高止まりしており、収支確保が懸念される見通しである。
	□	旅行代理店（営業担当）	・春闘で賃上げがあったとしても、業界的に賃上げの恩恵を受けるのはしばらく先になるため、現状での先行き是不透明である。
	□	通信会社（社員）	・今後2～3か月先では変わらないが、やや良くなる方向に向かっている。
	□	通信会社（営業担当）	・現状の物価高は世界情勢が起因しているため、大きな視点では現状からの変化は期待できない。
	□	テーマパーク（職員）	・例年と比べ、季節や天候にずれが生じるなど、浮き沈みがしやすい環境である。
	□	設計事務所（所長）	・国の景気対策等で一時的には良くなるかもしれないが、そう簡単に景気が上向かない。
	□	その他住宅〔住宅管理・リフォーム〕（営業）	・国や自治体が行うリフォーム関連の補助金によるところが大きく、正直なところ先が見通せない。
	▲	一般小売店〔土産〕（経営者）	・今月も堅調に推移し、今後への懸念はほとんどなかったが、中東情勢のニュースが飛び込んできた。当店は観光土産店だが、世界情勢が不安定になると真っ先に不景気になる職種である。今後世界がどのように推移するか判断を許さない状況のため、景気はやや悪くなる。
	▲	乗用車販売店（経営者）	・当地域の自動車メーカーの生産状況は、ほぼ順調で良いものの、活気がみられない。米国の関税政策等の影響なのかもしれない。
	▲	乗用車販売店（従業員）	・3月は繁忙期のため、一時的に良くなる。ただし、4月以降は税制改正の影響をどのように受けるか不明である。
	▲	都市型ホテル（スタッフ）	・宴会件数は微増だが、予約の大口団体が実際には5～7割の人数での開催となったり、主催者の見込む人数とのかい離が大きくなっている。前月時点では個人消費も回復してきたかのような入込客数だったが、今月はブレーキが掛かったような感覚である。突然の衆議院選挙の影響もあるのか、今後米国の関税政策等の不安要素もあり、来客数の動きが気掛かりである。
	▲	旅行代理店（従業員）	・円高に進まない限り、海外旅行は厳しい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	通信会社（総務担当）	・機種変更の特需が3月一杯で終わるため、やや悪くなる。
	▲	通信会社（局長）	・結局、物価対策はいつからどのように行われるのか。来年度予算についても年度内の決定は難しく、対策が遅れるとみている。また、決定し施行されたとしても、どの程度効果が現れるのかも不明である。景気が回復する方向に進むとは考えにくい。
	▲	ゴルフ練習場（経営者）	・原材料不足により、今後は価格上昇傾向になる。
	▲	住宅販売会社（経営者）	・会社の借入金利上昇に伴い経費増加が見込まれ、業績は全体的に落ちる。良くなる要因は見つからない。
	▲	住宅販売会社（経営者）	・最近、人の動きが少ないようである。特に、夜の飲み屋街でも客の動きが非常に悪い。これといって良くなる要素がないため、やや悪くなる。
	×	乗用車販売店（経営者）	・我が国だけでなく、米国や中国国内の政権運営次第である。
	×	タクシー運転手	・地方の郊外では、かなり景気が悪いと実感している。
	×	通信会社（経営者）	・明らかに客の購買意欲は低下している。地方ではとにかく安い料金プランでないと加入できない状況にある。
企業 動向 関連 (北関東)		-	-
	○	窯業・土石製品製造業（経営者）	・急に暖かくなってきたため、これからは商材が動き出す。
	○	一般機械器具製造業（経営者）	・新規案件も増加傾向に転じ、良い方向に進んでいる。確実に数字を積み上げていきたい。
	○	輸送用機械器具製造業（経営者）	・この数か月は変わりはないが、来月は若干良くなるような兆しがある。2～3か月先は分からない。
	○	金融業（営業担当）	・全体的な賃上げが今後も予想されるため、消費に良好な改善が見込める。
	○	経営コンサルタント	・インフレ感が徐々に薄れるに連れて、家計の負担感が弱まるため、消費は多少増加するとみている。下請企業等、中小企業の業況に大きな変化はなく、業績は様々だと見込まれる。
	□	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・当社に円安等の直接的な影響はないものの、米国の関税政策や物価高などにより、米国市場の不安定な状態が世界経済に飛び火することを危惧している。
	□	窯業・土石製品製造業（総務担当）	・今年度の目標を早々に達成し、ほっとしている。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	・取引先の内示からの増減もなく、大体フラットな状況で注文が来ているため、変わらない。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	・受注量は2～3か月は変わらないとみているが、その後は分からない。
	□	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・主要取引先の生産は、今のところ増減なく進んでいる。ただし、先日中国が発表した対日輸出規制の影響が今後どうなるか、非常に不安な要素ではある。
	□	その他製造業〔消防用品〕（営業担当）	・物価高の状況なども、依然として続いている。
	□	輸送業（営業担当）	・新年度を前に、白物家電や生活家電、雑貨、テーブル、椅子、家具、寝具類等、物量は前年並みを確保予定である。ただし、引っ越し便などの車両とも重なり、用車費その他、協力車両不足で運賃の上昇もあり、コスト自体が高くなっているため、利益確保は少なくなりそうである。
	□	司法書士	・それほど良くなるというか、仕事が増えることもないが、その代わり減ることもない。地域では、当社の名前は通っている方なので、淡々と進んでいく。
	□	社会保険労務士	・地方の中小企業では、賃金は余り上がらないとみている。
	▲	食料品製造業（経営者）	・物価高が一段と進行し、今まで以上に暮らしぶりは厳しくなることが予想される。地方の中小企業にとって、物価高を上回る賃上げはかなり厳しそうである。
	▲	化学工業（管理担当）	・受注量の減少で、やや悪くなる。
	▲	金属製品製造業（経営者）	・取引先との情報交換によると、やや悪くなる予想である。
	▲	一般機械器具製造業（経営者）	・今の時期に来期計画等の提示がなく、設備投資の予定もない状況では、景気が良くなるわけがない。
	▲	建設業（総務担当）	・例年と比べて業務量が少なく、発注見通しも今一つ件数がないため、不安である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	不動産業（管理担当）	・他県から遅れて最低賃金が増えることや労働基準法改正対応などで経費が増え、資材の値上げがいつまでも落ち着く気配がないため、今後も利益確保は苦労しそうである。
雇用 関連 (北関東)		-	-
	○	人材派遣会社（経営者）	・新卒に期待している様子が見受けられる。また、休み期間に入った学生のアルバイト希望者が増えている。少しでも、小遣いや手取りを増やしたいというところでの動きである。このところガソリン価格も多少上がってきて、物価も上昇しているため、その点はやや厳しい。
	○	人材派遣会社（社員）	・中国の訪日渡航自粛要請があったため、中国からのインバウンドは減っているようだが、それ以外の国からのインバウンドは順調に入込客数を増やしている。ただし、当市では人手不足が深刻であるため、当社のような地道なサービス業は仕事があっても受けることができず、売上に結び付かない状況である。小売店や土産物店は堅調に推移している。
	□	人材派遣会社（社員）	・製造業などの派遣料金が低く、人材供給が厳しい状況は変わらない。
	□	職業安定所（職員）	・新規求人数の前年同月比の動向について、医療、福祉分野は増加傾向で推移している。建設業、製造業、卸小売業は増減を繰り返している。
	□	学校〔専門学校〕（副校長）	・新年度に向けて、人材不足による業績の変化は余りないとみている。
	▲	人材派遣会社（管理担当）	・派遣取引が減少するため、やや悪くなる。
	×	-	-

4. 南関東（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (南関東)		一般小売店〔文房具〕（経営者）	・年末に匹敵する文具の繁忙期を迎え、学童用品を中心に高単価商材が売れると予想している。また、家族連れの客の来店も増加するとみられ、客単価及び売上も伸びる（東京都）。
		一般小売店〔生花〕（店員）	・昔から2月は余り売れないといわれている。3か月先の5～6月は、気候が良くなり、母の日もあり、野菜苗が売れるため、今より良くなる（東京都）。
		衣料品専門店（経営者）	・良くなるよう営業していく。
		一般レストラン（経営者）	・例年2月は最も売上が落ちる時期であり、これ以上落ちることはない。2～3か月先は大体10～20%はプラスになっていく。
		一般レストラン（経営者）	・3月は歓送迎会や会社、学校で人が入れ替わる時期で、お祝いの会等があるため、今月よりもかなり予約数が増える予想である（東京都）。
		ゴルフ場（経営者）	・3か月先の5月はゴールデンウィークもあり来場者数が増えたと見込まれるが、物価高や値上げが続き、将来的な蓄えの不安からも、団塊世代が離脱してきている。影響が少ないことを祈るばかりである。
	○	商店街（代表者）	・物価が上がっているため、客の消費意欲が減退しており、買い控えをしている。
	○	一般小売店〔家電〕（経理担当）	・個人所得が若干増えている。
	○	一般小売店〔家電〕（経理担当）	・蛍光灯の生産停止に伴う一般家庭のLED化や、エアコンの2027年問題などがある。新年度になれば補助金関係も出てくる。
	○	一般小売店〔祭用品〕（経営者）	・3月は年度末で行事も増え、今月より良くなる。
	○	一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	・待ちに待った春、夏と日差しが強くなる季節となり、来客数、売上共に伸びてくる。
	○	一般小売店〔傘〕（店長）	・春先から晴雨兼用傘の需要が見込まれる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	百貨店（営業担当）	・免税売上のマイナスは底を打った感がある。衣食を中心に国内需要は回復基調にあるため、全体としては微増の状況が続く（東京都）。
	○	百貨店（販売促進担当）	・現況は端境期で、天候不順もあり消費が減退しているが、春商戦以降は新生活ニーズなどもあり、順調な外商予約などを含め売上回復が見込まれる（東京都）。
	○	百貨店（財務担当）	・インバウンドが大きな回復を見込めないなか、ポジティブなマクロ経済環境を踏まえ、国内客の販売量は更に増加する見込みである（東京都）。
	○	コンビニ（経営者）	・これから春先に向けて新入社員や新入学生の来店が多少見込めるため、少しは良くなる。
	○	コンビニ（経営者）	・新政権が経済成長を推進できそうだという期待感から株価が上がり、利益が出ている人も増えている。漠然とした期待感ながら、若干販売も伸びてきている。これから春夏に向けて多少良い方向に行く（東京都）。
	○	コンビニ（従業員）	・2～3か月先は行楽シーズンになり、ガソリン暫定税率廃止により外出する人も増えるとみている。そうした客にこそコンビニの便利さは利用価値が高まる。地元客に加え、遠方からの客にも利用してもらうことで、売上が伸び、景気が良くなる。
	○	コンビニ（従業員）	・ゴールデンウィークも視野に入れながら考えると、休日はやはり売上が伸びる。ふだんよりも家族需要などが多くなり、単価が上がる。2月はどちらかというと閑散期であり、寒い時期は外出する人も減ってしまう。天候が暖かくなることで来店客が増え、客単価上昇も目指していける。
	○	衣料品専門店（統括）	・今月は過去に例を見ないほど来客数が大きく割り込んでおり、これ以上は減少しないと考えている。この先は上がる。
	○	家電量販店（店長）	・インフレを超える賃上げが条件の1つになるが、ガソリン暫定税率廃止の恩恵がこれから出てくることを期待すると同時に、経済対策が消費者に浸透し、賃上げと経済活動が活性化すると、景気が上向きになる。
	○	家電量販店（店長）	・今年になり売上が良くなっている。物価対策に期待しており、上向きに進むと良くなる。
	○	乗用車販売店（経営者）	・年度末に向けて、新車の販売量が前年以上に増加する見込みである。
	○	乗用車販売店（経営者）	・今が最底辺だとみている。為替などの変化に注意が必要ではあるものの、3月以降は衆議院選挙の影響もないことから、通常に戻っていく（東京都）。
	○	乗用車販売店（営業担当）	・車の購入に関わる税金が免税になるため、少なからず来店客が増える見込みである（東京都）。
	○	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（団体役員）	・政権の安定と責任ある積極財政は、一時的にせよ株価上昇を促進し、景気に弾みを付ける（東京都）。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・衆議院選挙での結果を踏まえ、新政権の経済対策に期待している客が、実感を得たときに購買意欲が好転していくことを期待したい（東京都）。
	○	高級レストラン（店長）	・元々、時期的に3～4月を過ぎると消費は増える。来店や購買意欲が高まりやすい季節である（東京都）。
	○	高級レストラン（経理担当）	・米国の関税政策の影響など不透明さは増しているものの、富裕層の消費マインドは上向き（東京都）。
	○	一般レストラン（経営者）	・円安が恒常化することで市場は円安に慣れていくとみている。新政権が安定して運営されれば、安心感は増す。その結果、市場がうまく回れば、景気はもっと良くなる。
	○	一般レストラン（経営者）	・中国からのインバウンドが少なくなっているといわれているが、特にその影響は見受けられず、春に向けて好調に推移している（東京都）。
	○	都市型ホテル（経営者）	・これから年度末、年度初めを迎え、近隣の大規模コンベンション施設でのイベントも徐々に増えてくる見込みである。歓送迎会を中心とした宴会の予約も入っているため、上向き。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・春休みやゴールデンウィークなど需要が高まるシーズンになるため、良くなる見込みである。
	○	旅行代理店（営業担当）	・旅行費用は抑え、外出にお金を掛けている様子が見受けられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	タクシー運転手	・病院、会社、駅、飲み屋からと全体的に利用が増えており、この先も期待できそうである。ロングの客も昼夜問わずに利用がある。
	○	タクシー運転手	・これから春を迎え、天候が暖かくなってくるため、今よりは客の動きが良くなる（東京都）。
	○	タクシー運転手	・例年、2月と比べると3か月先は良くなる。タクシー業界では売上に占める現金の割合が徐々に減り、配車アプリやその他電子マネーでの売上が伸びており、今後ますます伸びるとみている。売上に影響するか分からないが、そういう流れがある（東京都）。
	○	タクシー（団体役員）	・期待を込めてではあるものの、新年度の運賃改定は当初想定より上げ幅が小さくなっているため、それほど影響はない。
	○	通信会社（経営者）	・現状が続けば、この先2～3か月先の景気も良くなる（東京都）。
	○	通信会社（経営企画担当）	・4月以降、例年どおり案件の増加が予想される（東京都）。
	○	通信会社（管理担当）	・自社運用からクラウドサービスへの転換があることから、需要は堅調である。物販として売上は上がりにくいものの、端末などの管理手法、保守サービスの工夫によって取引先から選ばれるように営業活動を進めていく（東京都）。
	○	通信会社（営業担当）	・物価上昇もあるが、世の中に所得増加の風潮もみられ、これまでよりも購買意欲が向上するとみている（東京都）。
	○	観光名所（職員）	・客の動向から、やや良くなる（東京都）。
	○	観光名所（職員）	・現状が悪いので、良くなることを期待している（東京都）。
	○	ゴルフ場（経営者）	・寒さが和らぎ、天候が暖かくなる長期予報が出ているため、来場者数が増えたと予想している。
	○	ゴルフ場（従業員）	・降雨が少なく、来客数の減少幅が小さい。
	○	パチンコ店（経営者）	・衆議院選挙の結果により、新政権が掲げる政策が今年度予算案に反映されれば、株高機運とともに消費も伸びていく。
	○	その他レジャー施設 [ボウリング場]（支配人）	・予約状況から見てやや良くなる（東京都）。
	○	その他レジャー施設 [ボウリング場]（営業担当）	・ゴールデンウィークなど長期休暇中は繁忙期となる（東京都）。
	○	その他レジャー施設 [複合文化施設]（財務担当）	・新政権の支持率は高く、強い経済政策が実施されることに期待する（東京都）。
	○	美容室（経営者）	・卒業式、入学式などで人の動きがあるため、幾らか良くなる。
	○	設計事務所（職員）	・令和8年度予算で公共事業費の増加が見込まれるため、期待をしている（東京都）。
	○	住宅販売会社（経営者）	・都内のホテルの宿泊料金が月に2%程度上昇しつつあるため、ホテル部門はますます良くなる。一方、建設部門では、建設費の高騰から、中小企業はまだ厳しい環境にあり、なかなか賃上げができない。
	○	住宅販売会社（従業員）	・資料請求の件数が多くなっている。
	□	商店街（代表者）	・衆議院選挙の公約に掲げられた物価対策や消費税減税への過度な期待などがあり、それが満たされなかったときの反動は大きいと予想している。爆発的な人気は一過性のことが多く、マインドが冷える可能性は否めない（東京都）。
	□	一般小売店[家具]（経営者）	・この先も余り変わらないとみている。消費者は無駄な物にはお金を掛けなくなっている。景気が良くなる要素が見当たらないため、現状のままで変わらない（東京都）。
	□	一般小売店[食料雑貨]（経営者）	・オープン景気が落ち着き、予測値で安定するとみている。
	□	一般小売店[印章]（経営者）	・当店は印章業、俗にいうはんこ屋だが、私自身も年齢から今は自分で彫ることはしていない。彫刻を外部に委託すると、委託先もやはり高齢者が多く、若い人間は自分で販路を作ってしまう。印章業界全体が衰退していくのではないかと非常に不安を感じている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	☐	一般小売店〔米穀〕 （経営者）	・経済全体的に株価は好調であり、不動産価格も上がっている。ただし、収入面が疑問視されており、購買力がやや低迷している（東京都）。
	☐	一般小売店〔乳業〕 （経営者）	・解約された分の顧客数を新規獲得できそうである（東京都）。
	☐	一般小売店〔文具〕 （販売企画担当）	・外商部で大口案件等があることはあるが、やはり数が少ない。作業量は間違いなく多いが、利益が取れるような効率の良い案件、物件が少なくなっている。競争が激化しているため、大口案件が取れないことによる効率の悪さが目立っている。
	☐	一般小売店〔茶〕（営業担当）	・売上がなかなか伸びないなか、今月の売出しで久しぶりに前回の売上をやや上回ったため、期待したいところである（東京都）。
	☐	一般小売店〔書店〕 （総務担当）	・今後2～3か月先では、業績に大きな影響を与える要因はない。大学や専門学校といった教育機関が主要顧客であるため、少子化に伴う売上減少はリスクであるが、このリスクは毎年発生し得るものと認識している（東京都）。
	☐	百貨店（売場主任）	・インバウンドの回復が弱く、全体の売上に影響が出ている。ゴールデンウィークに向けて人流が活発化することを期待している（東京都）。
	☐	百貨店（総務担当）	・政治の環境は変化しているものの、新たな景気対策などが具体的な形として示されるまでは、物価高が続く中での景気回復には依然として不透明感がある。そのため、景気の先行きが明確に明るくなるとの見通しは立てにくい（東京都）。
	☐	百貨店（総務担当）	・新内閣発足により政治の安定化が図られ、それに伴い国内株式市場も活況にあり、富裕層を中心とした購買意欲はこのまま継続していくものとみられる（東京都）。
	☐	百貨店（広報担当）	・既に国内消費は力強く、ここから一段上がっていく材料が見当たらないが、株高などの経済環境を追い風に、富裕層の消費意欲は更に上振れする余地がある。一方で、中間層以下の消費意欲はこの春の賃上げを実感できるかどうかに懸かっており、中国からのインバウンド消費と併せて不透明な要素が強いため、全体としては変わらない（東京都）。
	☐	百貨店（営業担当）	・衆議院選挙も終わったが、消費税減税を含めた今後の物価対策の影響など、先行きが見通せず、不透明感が続いている（東京都）。
	☐	百貨店（営業担当）	・食料品は好調ではあるものの、来客数は前年比横ばいで、値上げに伴う単価上昇によって売上が伸びているが、いつまで続くか不安が大きい。国内では購買の2極化が続いている。また、物品購買力の高い中国からのインバウンド減少に改善の兆しがないことも不安材料である（東京都）。
	☐	百貨店（営業担当）	・2月はバレンタインデーに想定以上のチョコレート需要があったが、それ以外の商品カテゴリーは通常どおりの動きである。この先の4～5月は、ゴールデンウィークの日並びが良く、海外や国内旅行に出掛ける客も多いと想定されることから、足元の消費が特に盛り上がる要因はない（東京都）。
	☐	百貨店（営業担当）	・特に大きく変動する要素はない（東京都）。
	☐	百貨店（販売促進担当）	・今年も日常生活に直結する食品等も含めて値上がりが続く、消費に対する客のシビアな感覚は変わらない。今後、衆議院選挙の結果を受けた首相の政策により、多くの人が賃上げを実感できることで、消費への機運が更に高まることを期待したいが、政策効果が出るには時間が掛かるため、しばらくは変わらない。
	☐	百貨店（販売促進担当）	・直近の傾向からみて、現状のままで変わらない（東京都）。
	☐	百貨店（企画宣伝担当）	・消費税の見直しが国会で議論される見込みだが、動きの方向性が見えれば消費マインドも変わってくる。
	☐	百貨店（管理担当）	・物価上昇に伴い、消費者の購買意欲が落ちてきている（東京都）。
	☐	百貨店（店長）	・物価の上昇に歯止めがかからず、賃上げでカバーできるとは考えにくい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	☐	スーパー（経営者）	・今月が悪いが、2～3か月先は今月より良くなる期待もあるが、厳しい状況が続いているため、変わらない。降雨など、天候も影響するため、基調としてはやはり厳しい状況が今後も続く。
	☐	スーパー（経営者）	・当社の売上は悪いが、恐らく他店も同様である。競合店の価格競争が激しくなっている。可処分所得が増えない限り、販売点数はますます減少する。4月から賃上げもあり、経営が厳しくなる。
	☐	スーパー（経営者）	・所得の上積みはまだないため、変わらない。
	☐	スーパー（店長）	・生活に関わる物が値上がりしているなかで、食品類に掛ける金額は少しでも抑えるような買物の仕方に変わっている。客単価自体は上がっているものの、買上点数等に影響が出ている。
	☐	スーパー（店長）	・庶民は株高の恩恵を受けておらず、節約志向が依然として根付いている。賃上げを含め経済状況が上向きになるまでは、同様の状態がもうしばらく続く（東京都）。
	☐	スーパー（総務担当）	・株価が上がっているが、身の回りでは関係なさそうである。
	☐	スーパー（営業担当）	・単価の上昇はまだ継続するとみられるが、販売数、来客数の動向次第で今後の売上及び利益が変わってくる（東京都）。
	☐	スーパー（仕入担当）	・米やコーヒー、チョコレートの価格上昇を筆頭に、価格が高止まりしている。食料品の消費税減税もいつ実施されるか不透明であるため、節約志向は当分続く。
	☐	コンビニ（経営者）	・同業者の新規出店の情報はあつたものの、閉店の情報もあり、急激な変化はない。
	☐	コンビニ（経営者）	・単価上昇の影響か、来客数が減少しており、良くなる傾向とは考えられない。
	☐	コンビニ（経営者）	・コンビニ離れが少しずつ起きていて、業界全体の来客数は前年比で98～99%程度になっている。当社の加盟チェーンでは前年比93%と大きく落としており、本部も含めてどこも経営がかなり苦しい。状況を打開するためには、価格的な施策を考えていかなくてはいけないということと、何か当ブランドならではのヒット商品を作っていくかなくてはならないと考えている。
	☐	コンビニ（エリア担当）	・時期的に春先にかけて来客数が増加するため、おおむね現状維持ではないかと考える（東京都）。
	☐	コンビニ（エリア担当）	・ここ数か月好調だったが、鈍化しており、今後も復調する要因がない。肌感覚ではあるが、通勤通学客、行楽地利用において、日常利用の客や週末利用の国内客は余り変わりが無いが、中国からのインバウンドが減少している。
	☐	コンビニ（エリア担当）	・毎月値上げが続いているため、今後も物価高が続く限り気軽にコンビニで購入するシーンも減るとみている。
	☐	コンビニ（商品開発担当）	・伸びる可能性のある要素が今のところ見当たらない（東京都）。
	☐	衣料品専門店（経営者）	・株価をみる限り景気は大変良いが、円安も続いている。当社は繊維関係で、原材料の糸は輸入しているため、割高感がある。また、学校関係の仕事もあるが、生徒数が減少している関係で、なかなか厳しい。いろいろあるが、今の状況が良くなる傾向もあるため、注視していきたい。
	☐	衣料品専門店（店長）	・物価上昇に伴い消費者の財布のひもが固くなりつつある。その証として、前年の単価と比べると、着物展示会は4万5000円、ドレス展示会は1万4000円とそれぞれ減少している（東京都）。
	☐	衣料品専門店（役員）	・食料品等の価格高騰により、衣料品を購入する余裕がないようである。
	☐	衣料品専門店（従業員）	・物価高がまだ続くとみられ、節約志向の購買行動が更に継続すると予想されるため、余り期待できない。
	☐	家電量販店（店長）	・春の花見シーズンにインバウンドが増加すると期待できるが、中国からのインバウンドが回復しないと前年実績を超えることは難しい（東京都）。
	☐	乗用車販売店（営業担当）	・ゴールデンウィークまでが勝負である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	☐	乗用車販売店（販売担当）	・物価の上昇と可処分所得の減少が続いており、景気が良くなる兆しは全くない。税金も、森林環境税など、よく確認しないといつの間にか増えている。賃上げして可処分所得を増やしていかないと、景気は良くならない（東京都）。
	☐	乗用車販売店（渉外担当）	・販売に影響する環境変化がない。
	☐	その他専門店〔ドラッグストア〕（経営者）	・花粉症シーズンなので、数字を取れるようにいろいろな仕掛けをしているため、前年並みで推移する。
	☐	その他小売〔生鮮魚介卸売〕（営業）	・景気がどうかというより、世の中の空気が冷え込んでいると話す客がいる（東京都）。
	☐	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・物価上昇の傾向は続く。春の賃上げの度合いで実質賃金がプラスになるかどうかにより、今後の方向性が示される。
	☐	高級レストラン（営業担当）	・法人の定例宴会の受注状況は、前年同等のペースで推移している（東京都）。
	☐	高級レストラン（役員）	・衆議院選挙も終了し、政策進行の発言がされているものの、施策の実施にも効果が出るまでにも時間が掛かるため、引き続き同様のトレンドとなる（東京都）。
	☐	高級レストラン（仕入担当）	・株価が好調であり、景気の減速感は見受けられないが、個人消費の伸びは今一つである。回復までは道半ばで、明るい兆しはまだみえない（東京都）。
	☐	一般レストラン（経営者）	・3か月後も今と変わらない。政権の安定により多少経済は良くなるとみているが、全体的に景気が良くなる雰囲気はまだない。
	☐	その他飲食〔カフェ〕（経営者）	・コロナ禍以降、古参の店舗と新規参入店舗の色合いの違いが出てきている。将来的には大きな変化があると予想している（東京都）。
	☐	その他飲食〔カフェ〕（経営者）	・円安によるコーヒー豆の高騰はとどまることがなく、先が見えにくい状況にある。新政権になり、消費税が軽減される可能性がある。どのように変化するのか注視している（東京都）。
	☐	その他飲食〔居酒屋〕（経営者）	・お金を自由に使える層とそうではない層とで相殺され、全体的な景気は変わらない（東京都）。
	☐	都市型ホテル（スタッフ）	・変わらないというより不透明ということである。新政権の今後の動きや、米国のイラン攻撃による石油関係への影響等、先行きはかなり不透明な要素が多い。
	☐	旅行代理店（経営者）	・食料品の値上げが最も痛手である。どこまでが食料品なのか、外食も含むのか、客も迷っている。旅行業としては、この先も現状と変わらないとみている。
	☐	旅行代理店（従業員）	・中国からのインバウンドが減っているため、横ばいとなる見込みである（東京都）。
	☐	通信会社（社員）	・継続のスポンサーが変更なく推移する予定で、来年度の採算計画もプラスとなる見通しである（東京都）。
	☐	通信会社（営業担当）	・物価の上昇が止まらない状況が続いており、消費を抑制する動きは変わらない。
	☐	通信会社（局長）	・売上が伸長する要素はあるとみられるが、景気による効果はいまだに実感できない（東京都）。
	☐	通信会社（営業担当）	・良くなる材料がない。
	☐	通信会社（営業担当）	・いまだに身の回りの物価上昇が止まらず、賃金も上がらない。政府が物価上昇に歯止めを掛けない限り、変わらない（東京都）。
	☐	通信会社（経理担当）	・4月から賃上げがあり、少しは賃金が物価に追い付く世の中になることを願っている。
	☐	通信会社（管理担当）	・当社と競合他社、客との関係性が維持されているため、業績改善への道筋を継続的に模索していく必要がある（東京都）。
	☐	通信会社（営業担当）	・米国の関税政策の影響は未知数である。現状では大きく変わらない（東京都）。
	☐	通信会社（経営企画担当）	・映像視聴及び通信需要は短期的な経済状況に左右されない（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	ゴルフ場（経理担当）	・ 素材、エネルギー価格の高止まりは続き、固定費の回収すら苦慮する経営環境にあり、利益を創出できない状況が続いていることに変わりない。3か月後に当たる4月下旬は気候が温暖になり、プレー需要の回復も見込まれるだろうが、樂觀視はできず、閑散期の減収を埋めるには及ばないとみている。物価上昇及び実質賃金低下により、生活防衛を意識し高額レジャー支出の抑制行動が顕著となる状況を総合すれば、景況感の回復を展望することは困難である。
	□	競輪場（職員）	・ 一時的に事業を休止しているため、変わらない。
	□	その他レジャー施設 〔ボウリング場〕（従業員）	・ 身の回りに変化のあるような動きはない（東京都）。
	□	その他レジャー施設 〔総合〕（経営企画担当）	・ 春闘での賃上げのプラス効果と物価や金利の上昇によるマイナス効果が考えられ、結果としては大きな景気変動はないものとみている（東京都）。
	□	その他サービス〔保険代理店〕（経営者）	・ 現状のままで落ち着くとみている。
	□	その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・ 天候が暖かくなってくるため、忙しくなるかは分からない。
	□	その他サービス 〔フィットネスクラブ〕（エリア統括）	・ 来館者の状況からも、物価の上昇による景気の回復が実感できない（東京都）。
	□	設計事務所（経営者）	・ 行政の動きがみえないというか、本当にこれで良いのかわからない。営業的には横ばいよりもやや下がっている。新しい仕事が見えていないことが理由である。
	□	住宅販売会社（従業員）	・ 当社では来月から建築費の値上げが決まっており厳しい状況だが、その前に今の単価での打合せが継続できる申込みを受け付けているため、申込済みの客を契約まで進められれば、現状の販売量は確保できるとみている。新規オープンの展示場もあり、住宅設備会社の企業買収なども行い、積極的に販売増加を目指しているため、景気は変わらずに推移する。
	□	住宅販売会社（従業員）	・ 客の購入ニーズは引き続き高いとみられるが、建築費の高騰、金利上昇等を考慮すると、しばらく現状のままとなる。
	▲	一般小売店〔酒類〕（経営者）	・ 春からも値上げが続くため、今後の消費が心配である。
	▲	百貨店（総務担当）	・ 今月は春節の特需がなかったことが大きな要因と推察しているが、当面の間は中国からのインバウンド減少は避けられない見込みである。消費税減税もしばらく先となりそうであり、本来は人の動く時期である4～5月の需要拡大期にも影響を及ぼしそうである（東京都）。
	▲	スーパー（経営者）	・ 米国の関税政策の動向や原材料価格の上昇の影響がある（東京都）。
	▲	スーパー（ネット宅配担当）	・ 3月の光熱費の上昇や、4月以降の値上げ要請が多く、厳しい状況が続く。
	▲	スーパー（食品担当）	・ 今後もメーカーの値上げなどがあり、小売は価格競争に入る。付加価値で勝負してきた店は厳しい状況になっていく（東京都）。
	▲	スーパー（販売担当）	・ 今後も値上げが続くため、やや悪くなる。
	▲	コンビニ（経営者）	・ 客の買上点数、購入額がかなり減っている。
	▲	コンビニ（経営者）	・ 当店の周りは住宅地で、周辺住民は高齢者、年金生活者が多い。そのため、物価が上がると買い控えの傾向が顕著に表れる。この物価高が続く限り、景気が良くなるとは考えられない。
	▲	コンビニ（エリア担当）	・ 周辺でイベントが開催される予定ではあるものの、通勤、通学客の減少が響くことが想定され、平日の売上に懸念がある（東京都）。
	▲	コンビニ（エリア担当）	・ 3月以降、主力商材の値上げが控えているため、それによって来客数が減少する。
	▲	乗用車販売店（総務担当）	・ 最必要月を終え、売上が減少すると見込んでいる。
	▲	乗用車販売店（営業）	・ 今後も同じような販売方法、下取り価格の下落があると、更に販売台数は厳しくなる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	その他専門店〔貴金属〕（統括）	・今後も商材の値上げが必要な状況にあるが、再度値上げを実施した場合に販売額を維持することができない可能性がある（東京都）。
	▲	一般レストラン（経営者）	・新政権が飲食業界に何か手立てを打ってくれるなら景気は変わる。円安について、対ドルの対策はしていても、対ユーロ対策は薄く、今や1ユーロは180円を超えている。輸入品が全て高くなっており、飲食店は大変である。
	▲	都市型ホテル（経営者）	・相変わらず日中関係を警戒している。前月はもう影響は出ないのではと考えて変わらないと回答したが、客足がやや落ちているため、今回は引き続き警戒している状況から、やや悪くなるとの判断である（東京都）。
	▲	旅行代理店（従業員）	・年度が替わるタイミングで団体旅行における入場、昼食、宿泊、交通など諸費用の上昇が予想されるため、次年度の団体旅行の実施予定が中止や延期、人数の減少につながらないか危惧している。
	▲	旅行代理店（営業担当）	・経済への対応ができない（東京都）。
	▲	タクシー運転手	・物価の上昇が収まらないため生活が苦しいという客が大半である。いつになったら安定するのかという不安がどんどん強くなっている。夏に向けてかなり厳しくなるだろうという話が多い。
	▲	通信会社（社員）	・米国の関税政策と日中関係の問題が解消されない限り、国内景気が上向くとは考えられない（東京都）。
	▲	ゴルフ場（経営者）	・衆議院選挙の結果の影響か、客の動向が悪い。
	▲	その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・物価上昇により、辞めていく生徒が多くなっている。教育に掛ける費用も減少しているようである。3月という時期もあり、学年が変わるのを契機に辞めていく生徒が多い。この先の景気は悪くなる。
	▲	その他サービス〔学習塾〕（経営者）	・例年に比べ、新年度に向けた新規問合せなどが少ない。
	▲	その他サービス〔立体駐車場〕（経営者）	・駐車場を運営しているが、近隣の駐車場の増加に加え、商業施設やテナントビルの入居企業が減少している。
	▲	設計事務所（経営者）	・先行きが見えない。
	×	通信会社（管理担当）	・物価の上昇により販売数は横ばいである。
	×	設計事務所（所長）	・現在の手持ち業務が終了し、新規業務の受注見込みがない。
	×	その他住宅〔住宅資材〕（営業）	・年度替わりで新規物件が出てくることを期待したいが、建築資材の高騰及び値上げが続く見通しであり、なかなか期待どおりにはならない（東京都）。
企業 動向 関連 (南関東)		*	*
	○	食料品製造業（経営者）	・プレミアム付商品券が発行されるため、売上増加が期待される。
	○	食料品製造業（経営者）	・大企業から賃金が上昇し、株価も上昇していることから、景況感は良くなる。新政権の政策が目に見える形で成果が現れてくれば、更に良くなる（東京都）。
	○	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・4月は今よりは受注量が増える見込みだが、5月は落ち込む予想である（東京都）。
	○	化学工業（総務担当）	・例年と比べて前倒しの受注が増えている。
	○	金属製品製造業（経営者）	・年明けから受注案件が例年にないほど少なかったが、新年度に向けて僅かではあるが増えてきている。今が最悪なのでやや良くなると回答はしたものの、飽くまで最悪がやや最悪になるくらいである。
	○	電気機械器具製造業（企画担当）	・半導体製品の品薄状況は今後も続き、製品開発、ポートフォリオの見直しが予想される。計画どおりに市場投入できれば、ますます良い方向に向かう。
	○	精密機械器具製造業（経営者）	・多方面の地政学的な不確定要素はあるものの、景況感は良くなってきているように見受けられる。
	○	輸送用機械器具製造業（総務担当）	・自動車の売行きは順調で、来年度に向けて増産計画が発表されていることから、景気は良くなる。
	○	その他製造業〔化粧品〕（営業担当）	・春に向けて来客数が増加傾向にある（東京都）。
	○	不動産業（従業員）	・中国からのインバウンドは減ってきているが、その他各国のインバウンドは引き続き堅調である（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	広告代理店（従業員）	・ 4月は毎年立ち上がり鈍く、期待は薄い。5月に一時的な売上要素があり、単月では好転する確度が高い（東京都）。
	○	広告代理店（営業担当）	・ 毎年夏に向けて売上が伸びるため期待したい。ただし、業界的に厳しいところがあるため、余り期待はできない（東京都）。
	○	その他サービス業〔警備〕（経営者）	・ 全体的に仕事量が増えつつある。
	○	その他非製造業〔商社〕（従業員）	・ 受注量からみて、やや良くなる（東京都）。
	□	化学工業（従業員）	・ 原材料の値上げは落ち着いたものの、今度は運送費等の値上げが始まり、余り良くなるとは考えられない。
	□	プラスチック製品製造業（経営者）	・ インバウンド減少の影響により化粧品容器の受注見通しが悪い。円安のために医療品容器の国内回帰生産が実現すれば勢いがつく。
	□	金属製品製造業（経営者）	・ 世界の政治経済が不安定であるため、思い切った展開をすることが難しい。様子をみながらになりそうである。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	・ 取引先からの説明どおりであれば、受注量に増減があるため、差引きで変わらない。
	□	建設業（経営者）	・ 物価高で賃金が上がらないため、現状のままだが続く。
	□	建設業（経営者）	・ 行政の入札案件にも不調が出てきている。物件により単価が合わないものや夏の工事案件での不調が出始めている。
	□	建設業（従業員）	・ まだ先の見通しが立たない状況が続くとみられるため、円安、国際情勢による燃料費、材料価格の高騰が落ち着くまでは安定しない。
	□	輸送業（経営者）	・ 現在起きている問題点を取引先に提示し解決策を協議しているが、進展がみられないため、現状のまま変わらない（東京都）。
	□	輸送業（総務担当）	・ 繁忙期が終わるため、荷主の国内出荷量が低迷する。今後も燃料価格の高騰及び物価上昇に左右されるが、現状のままとみられる。
	□	金融業（従業員）	・ 運輸業界では、客の価格改定に対する理解の広がりを背景に運賃改定を実施する事業者がある。一方で、収益が上がった際に賞与を増額するなど、人手不足解消のため従業員の待遇改善に向けた取組も実施しているため、最終利益は増えていないようである（東京都）。
	□	金融業（総務担当）	・ 消費税減税もまだ先になりそうな見通しであり、中小企業では賃上げがまだ行き届いておらず、消費に回っていない現状である。ガソリンや米の価格も高止まりしており、消費低迷が続く（東京都）。
	□	金融業（営業担当）	・ 足元の業績は改善している企業が多いものの、この先中国からのレアアース輸入規制がどのように受注に影響するか危惧しているところも多く、先の見通しは不透明である。不動産関連も、今期に入ってから続いていた戸建て住宅の低調な推移が継続しており、現状では大きく改善する要因は見当たらない。
	□	不動産業（経営者）	・ 当テナントビルの入居率100%は維持できるとみられる。一方、メンテナンス費用などは高騰が続き、収益が減少傾向にある。
	□	不動産業（経営者）	・ 政治経済の明るい兆しが続いている（東京都）。
	□	不動産業（経営者）	・ 政府の動きが不透明であるため、変わらない（東京都）。
	□	不動産業（従業員）	・ 販売価格や賃料等は高値を維持しているものの、建設費、人件費も高いままである（東京都）。
	□	不動産業（総務担当）	・ 現況から推察すると、米国の関税政策の動向が気になるところだが、当面は景気の落ち込みはないとみている（東京都）。
	□	広告代理店（経営者）	・ 取引先では新業態の開発や新店舗出店に向けた動きがみられ、前向きな投資判断も出てきている。一方で、既存店舗の売上は大きく伸びておらず、原材料費や人件費の高止まりも続いている。全体として改善の兆しはあるものの、急速に景況感が上向く要因も限定的である。今後2～3か月については、現状と同水準で推移し、大きな変化はないと見込んでいる（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	税理士	・輸出している大企業は円安で1ドル156円ほどとなりもっているのだろうが、原材料を輸入している中小零細企業は、食料品も含めて仕入価格は上昇しているものの、価格転嫁が難しく、苦戦しているところが多い。大企業は賃上げできても、中小零細企業は賃上げできず、経営が厳しいところが多い（東京都）。
	□	社会保険労務士	・良くなる要因が見当たらない（東京都）。
	□	経営コンサルタント	・物価上昇は今後も進む。
	□	経営コンサルタント	・政府が急ぎ新年度予算を決定して経済活性化に努力すると言っているため期待している（東京都）。
	□	その他サービス業〔廃棄物処理〕（経営者）	・中小零細の製造業では、物が動いておらず、連鎖的に工場等の稼働率も落ちている。また、廃業や工場等の閉鎖もみられ、先行きの不透明感はまだ強い。
	▲	食料品製造業（経営者）	・飲食店の値上がりが始まるとみられるが、酒屋のため、販売量が減るとみている（東京都）。
	▲	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・2～3か月後の4～5月には、例年、新入社員からの印鑑、ゴム印の需要があり、今の時期から個人客が来店して注文を受けているが、今年はそれが余りないため、やや見通しが暗い。来客数も減少傾向にあるが、一方でメールでの問合せが入っている（東京都）。
	▲	電気機械器具製造業（営業担当）	・季節性のある製品を取り扱っているため、やや悪くなる（東京都）。
	▲	建設業（経営者）	・政治が安定するかによる影響もあり、まだ分からない。
	▲	建設業（営業担当）	・現状では民間工事の打合せ物件の減少量が、前月より大きくなっている。3か月後も同比率で減少するとみられる。
	▲	金融業（支店長）	・株価上昇の恩恵を受けない中低所得者の生活は圧迫され、その層を相手にしている商店街店舗の収支も悪化の一途をたどっている。
	▲	その他サービス業〔ソフト開発〕（経営者）	・米国の関税政策の動向次第である（東京都）。
	×	出版・印刷・同関連産業（所長）	・年度末の繁忙期での引き合いが少なく、状況が更に悪化している（東京都）。
雇用 関連 (南関東)		-	-
	○	求人情報誌製作会社（広報担当）	・転職が進み、給与水準が上がっていけば、おのずと景気は良くなっていく（東京都）。
	○	職業安定所（職員）	・今月の新規求人数は前月及び前年同月のいずれも上回る見込みである。引き続き今年度末から来年度初めにかけて求人数が増える見込みである。
	□	人材派遣会社（支店長）	・同様の状況が続いているため、しばらく変わらない。
	□	人材派遣会社（社員）	・退職や欠員補充ができずに残っている求人があるため、引き続き求人数は同程度で推移する見込みである。
	□	人材派遣会社（社員）	・求職者数の改善が見受けられない（東京都）。
	□	人材派遣会社（社員）	・求人数に大きな変化はない見込みだが、新政権での経済政策が実施された際にニーズが増える可能性はある。
	□	人材派遣会社（社員）	・現状より大きく改善する兆候はなく、横ばいが見込まれる（東京都）。
	□	人材派遣会社（営業担当）	・4月になると新たな期が始まるため変化する可能性はあるものの、今みえている営業上のエンジニア派遣ニーズからは、変化は見受けられない（東京都）。
	□	求人情報誌製作会社（経営者）	・今後の経済対策の行方次第で景気が左右される（東京都）。
	□	求人情報誌製作会社（営業）	・有効求職者数が減少しており、倒産した企業も多数ある。中小企業は変わらず厳しい。
	□	職業安定所（職員）	・求人数は増減を繰り返しているが、大きな変化はみられない。
	□	職業安定所（職員）	・人手不足は続くが、それに対応する企業がみられるため、変わらない（東京都）。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	・企業からの求人数はかなり高水準で推移しているが、採用に至る件数がなかなか増えない（東京都）。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	人材派遣会社（支店長）	・ どの会社も人手不足といわれるが、派遣料金も年々上昇し、人選ではマッチする人材をなかなか提供できず、DXやAI活用、低価格で定額の委託サービス活用など、企業側の選択肢が広がってきていることもあり、派遣ニーズ自体はあるものの、成約数は減少傾向にある（東京都）。
	▲	人材派遣会社（社員）	・ 物価の上昇に賃金水準が追いついていない（東京都）。
	▲	人材派遣会社（社員）	・ 4月採用に向けた活動が収束するため、その後は下期の10月採用の繁忙期まで求人依頼は横ばいが続く（東京都）。
	▲	人材派遣会社（営業担当）	・ 例年、新年度になるタイミングで人材の要望が落ち着く。そのため、求人数は今より少ない水位になる。ただし、全体的な派遣就業者数は、前年同月より多くなるとみている（東京都）。
	▲	職業安定所（職員）	・ 当面は在庫でカバーできているが、日中関係の影響により原材料の輸入に時間が掛かっているようで、今後の先行きに不安を抱えている中小企業の製造業者が見受けられる。
	×	-	-

5. 甲信越（地域別調査機関：株式会社日本経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (甲信越)		コンビニ（経営者）	・ 3か月後はゴールデンウィークもあり、人の動きが活発になるため期待できる。
		都市型ホテル（スタッフ）	・ 来客数の動きをみると、例年と比べ予約から宿泊までの期間が長く、先の予約が早めに埋まっている。
		タクシー（経営者）	・ 年度末に向け、会合等が増えている。
		ゴルフ場（経営者）	・ 物価対策とAI、半導体、防衛等に戦略的投資を融合させた責任ある積極財政により、景気が良くなることを期待している。
		その他サービス〔葬祭業〕（経営者）	・ 毎日のように依頼や相談、予約が入っている。この状態は今後も続く。
	○	商店街（代表者）	・ 2年ほど前に大型店が撤退してから商店街はずっと落ち目だったが、空き店舗に入る店が少しずつ出てきて、多少良くなっている。
	○	スーパー（経営者）	・ 政治が安定することで、景気は良くなっていく。
	○	スーパー（企画担当）	・ 季節の変わり目の需要が期待される。
	○	コンビニ（経営者）	・ 天候が暖かくなれば、早朝の売上がかなり見込める。早朝からどこかに出掛ける際はコンビニを利用する機会が多くなる。
	○	コンビニ（経営者）	・ 新年度がスタートして、やや良くなる。
	○	コンビニ（経営者）	・ 例年どおり気温が上がれば、来客数、売上共に伸びる。
	○	乗用車販売店（経営者）	・ 各メーカーで新型車の発表イベントが予定されており、自動車税の環境性能割廃止もあいまって新車市場は活性化が見込まれる。
	○	自動車備品販売店（従業員）	・ 来客数が前年を超えており、消費が増えると予想される。
	○	高級レストラン（経営者）	・ 衆議院選挙が終わり、政府の物価高や景気対策に期待を持てるものの、政策効果が出るまでには、時間が掛かる。実際の景気が良くなるのはもう少し先だと考える。
	○	一般レストラン（経営者）	・ 天候回復に加え、市でプレミアム付商品券の発行予定があるため、良くなるとみている。
	○	スナック（経営者）	・ いろいろ厳しいことも多く楽ではないが、物価の上昇により材料費が上がってもきちんと価格転嫁することができており、有り難い。人繰りの面で苦労はあるが、世の中が良くなるムードがあり、明るい気持ちになれる。
	○	観光型旅館（経営者）	・ 春はインバウンド比率が下がるため、現状よりは回復すると考えている。中国からのインバウンドの激減により、主要観光地でホテルの空室が多く発生することによる国内客の取り合いはしばらく継続しそうである。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・ 先の予約が顕著に動いており、特に、ゴールデンウィーク期間の予約等が多く入ってきている。法人関係の動きにさほど大きな変化はないものの、個人利用の問合せや予約が好調である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・ 2月是最悪だったので、これ以上下がることはない。季節要因で3月以降は天候も良くなり、個人客の動きが良くなってホテルに来館してくれるとみている。また、衆議院選挙の結果、政権が安定したことで、支援企業等の動きも良くなってくる。
	○	観光名所（職員）	・ 物価の上昇に収入が追い付いていないことが懸念されるものの、国内観光客が戻りつつある。また、当地は従来より中国からのインバウンドは少ないため、訪日渡航自粛の影響もほとんどない。
	○	遊園地（職員）	・ 今後の卒業旅行や春休みシーズンを見据え、イベントの実施や限定チケットの販売などプロモーション施策を強化し、集客に注力していきたい。
	○	その他レジャー施設 〔ボウリング場〕（経営者）	・ 本格的に春休みシーズンになるため、学生を中心に集客が期待できる。
	□	商店街（代表者）	・ 4月からの値上げ通知が多くの取引先から来ている。値上げにより客の購入点数が減るため、相殺されて売上は伸びない。経費のみ増加することになり、厳しい状況は変わらない。
	□	一般小売店〔家電〕 （経営者）	・ 商品販売だけで売上を維持していくにはますます厳しい状況となる。修理、取付け、工事等で収益を上げることは難しい。高価な商材を販売したいところではあるものの、消費者の財布のひもは固く、商談も困難である。
	□	百貨店（経理担当）	・ 株高基調から景気の上向き感がみられるが、円安、物価高、世界情勢等が、消費にどう影響するか注意が必要である。今月の状況はやや良いので、これが継続されていくことを期待している。
	□	百貨店（営業担当）	・ 今後は値上げは期待できるものの、依然として物価は高止まりしているため、現状のまま変わらずに推移する。
	□	百貨店（店長）	・ 約1年前に近隣店舗の閉店等があり、客の流れに変化があったがそれも一巡した。景気対策への期待が下支えとなり、先に下振れする要因は特にない。
	□	スーパー（経営者）	・ 米価高騰対策としての自治体からの商品券等の配布、企業の値上げに期待する。
	□	スーパー（店長）	・ 値上げの流れは変わらず、客のまとめ買い傾向は続いていくものとみられる。
	□	コンビニ（店長）	・ 客の様子に直接関係あるのは気温の推移だが、今後も前年と比べて、最低気温、最高気温共に高く推移していくようである。気温の上昇に伴って良くなるとみているが、今までのように結局うまくいかない状況もあるため、余り変わらない。
	□	家電量販店（店長）	・ 景気回復の実感が無い。
	□	その他専門店〔酒〕 （店長）	・ 大きなスポーツイベントが多くなることから、外食というよりは家で食事をする人が増えるとみている。現状、高級品が少量化しており、客の給料や生活が向上しない限り、小さい瓶の商材を買っていく傾向は続く。物価上昇と購買行動は連動していると考えため、3か月後も変わらない。
	□	一般レストラン（経営者）	・ 消費税減税の見込み等で、飲食や食品関係は動き出すように見えるものの、世界情勢を考えた場合、物価上昇は否めない。飲食業の場合、業者との取引で値上げが出てくる。
	□	スナック（経営者）	・ これから歓送迎会シーズンに入り、多少人の流れが増える。ただし、コロナ禍以降は宴会等が自粛傾向となり、大人数での歓送迎会もしないことが普通になったため、今後2～3か月はなかなか厳しい状況が続く見通しである。
	□	旅行代理店（副支店長）	・ 春先の受注が前年比80%程度と低迷している。今後の動向を注視しているものの、団体旅行の受注の動きが鈍いため、今と余り変わらない。
	□	タクシー運転手	・ 前年に乗務員が何人が退職したが、現在新しい乗務員の研修中であり、1～2か月後は人員が増えるため、徐々に良くなっていく。
	□	通信会社（社員）	・ 特段良くなる材料はないが、新年度に向け方策を練って具現化し、予算達成が実現できるよう、スピード感を持って取り組んでいく。
	□	ゴルフ場（副支配人）	・ 4月以降の予約の動きは変わらない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
企業 動向 関連 (甲信越)	▲	コンビニ（エリア担当）	・可処分所得増加の見込みが薄いため、やや悪くなる。
	×	商店街（代表者）	・人影のない商店街の次の段階は閉店になるが、シャッター通りになるのはつらい。
		金属製品製造業（総務担当）	・半導体の需給が回復し、良くなる。
	○	その他製造業〔宝石・貴金属〕（経営者）	・顧客である小売店も商材が高値になっているため、仕入れを抑えてきた影響から在庫不足に陥っている。積極的に商材を集め始めている店もあり、少しずつ動きが出るとみている。ただし、地金価格とともに高騰する商材の新価格に付いてこれない小売店は、ますます先細る可能性がある。
	○	建設業（経営者）	・季節要因もあるが、工事の問合せが少しずつ入っている。
	○	金融業（経営企画担当）	・新政権の物価対策の効果が出ることを期待している。
	□	食料品製造業（営業統括）	・工場出荷量が停滞している。また、原材料価格が高騰している上に、在庫量を多く抱えており、厳しい状況にある。
	□	食料品製造業（総務担当）	・原材料価格の高騰が、変わらず続いている。
	□	窯業・土石製品製造業（経営者）	・しばらくは特注品の対応が続く。
	□	金融業（調査担当）	・製造業は大きな変化はみられず、横ばいの見通しである。非製造業は人手不足や物価高に伴う消費者の支出抑制傾向が続いている。一方、観光関連は春の行楽シーズンに向けて需要が底堅く推移する見込みで、全体では変わらない。
	▲	食料品製造業（製造担当）	・世界情勢の変化から石油製品が再び高騰し、値上がりすることが見込まれるため、ただでさえ少ない利益がますます圧迫される。
	▲	出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・ここ数か月で紙代や資材が値上がりしている分を、客に転嫁できない可能性がある。
	▲	電気機械器具製造業（経営者）	・資材の高騰に加え人件費も上げる必要があるため、経営的には厳しい。ただし、以前と比べると、取引先とは単価交渉の機会が若干増えたり、物価高騰等の影響を考慮してもらえる状況になっているため、踏ん張り時である。
	▲	電気機械器具製造業（従業員）	・今年に入ってから銅価格の急激な値上げに伴い、4～6月にかけて、銅を使用している製品の値上げ要請が多数来ている。そのため、今後が多少不安である。
	×	出版・印刷・同関連産業（経営者）	・毎月の資金繰りが本当に大変である。
雇用 関連 (甲信越)		-	-
	○	-	-
	□	人材派遣会社（営業担当）	・世界情勢も含め、全ての要因が生活に直結しているため、変わらない。
	□	職業安定所（職員）	・新規求人数が前年同月比で5.4%減少し、2か月ぶりに前年同月比で減少している。
	□	職業安定所（職員）	・新規求人数、新規求職者数共に、前年同月比で増減はあるものの、特段大きな動きは見られない。
	□	職業安定所（職員）	・物価高が緩和しないため、家計の足しにしたいとパート等の就業志望者が増えている。ただし、ミスマッチ等もあり、求職者の希望する就職ができる状況ではない。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	・現場の求人は多いものの、開発や管理等の求人は採用がますます厳しくなり、慎重に見極める企業が多い。
	▲	職業安定所（職員）	・中国の景気が低迷していることに加え、米国の新政権の新たな関税政策が日本経済へ与える影響は、より一層不透明になっており、今後、国内企業の収益悪化等が懸念される。
	×	-	-

6. 東海（地域別調査機関：三菱UFJリサーチ＆コンサルティング株式会社）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連		商店街（代表者）	・まだ売上は確実に上がっていく。
		一般小売店〔土産〕（経営者）	・景気は回復するが、物価上昇も継続するため、年金生活者や低所得者層の生活は引き続き厳しい状況が予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(東海)		旅行代理店（経営者）	・ 4月以降、政治が安定して景気は少しでも良くなるとみる。
		旅行代理店（営業担当）	・ 社員旅行などの団体旅行については、上期の繁忙月である5～6月に実施する企画や見積りの作業が進行中であり、件数も好調に推移している。
	○	商店街（代表者）	・ 現状程度の来客数の方が、客はゆっくりと買物ができ、売上も高水位を維持できる。
	○	百貨店（企画担当）	・ 国内外における不確定要素が多いため、数か月先の見通しは不確定だが、国内政治の方向性として経済対策を大きく打ち出しており、消費者の期待感からも若干景気が上がると見込まれる。ただし、食品消費税の引下げが具体的に示されるかどうか、直近の景気に大きく影響する。
	○	百貨店（経理担当）	・ 物価高の持続やインバウンド消費の低迷に加え、金利上昇や株高の腰折れなどのリスクがくすぶるが、こうしたマイナス要素は、政府による減税や経済成長、投資促進などの各種政策によって打ち消され、景気は現状維持される。
	○	スーパー（支店長）	・ やや良くなると期待している。国際情勢は相変わらず芳しくなく、現状は余り良いとはいえないが、国内の政治状況を見ると衆議院選挙が落ち着いたため、これからの経済政策による景気回復を早く進めてほしい。
	○	コンビニ（店長）	・ 株価が上がりがつとあり、景況感も変わるとみている。食品の値上げにも消費者が慣れてきている。価格にも転嫁しやすくなっている。
	○	コンビニ（エリア担当）	・ 現政権の新しい経済政策がプラスの影響を及ぼす。
	○	コンビニ（店長）	・ 現政権の動きが鮮明になるほど、景気に上向きの要因となる。特に消費税減税がどのように決着するのか注目している。
	○	コンビニ（店長）	・ 食料品の消費税減税が始まれば、売上はかなり上がると見込まれる。
	○	コンビニ（商品企画担当）	・ 衆議院選挙の結果から、我が国の景気は回復するとみる。
	○	衣料品専門店（売場担当）	・ 賃上げ効果に加え、政府による景気対策が期待できる。
	○	家電量販店（フランチャイズ経営者）	・ 2026年の夏に向けて、エアコンの駆け込み需要が顕著に増えていく。ただし、工事能力は限られるため、前倒して販売する。
	○	家電量販店（営業担当）	・ 現政権になり、景気の状態が変わることに期待する。
	○	乗用車販売店（従業員）	・ 現政権のこれからの施策で、ある程度景気は向上する。
	○	乗用車販売店（従業員）	・ オークションの成約率が上がり、アクセス数も増え、相場も少し上がっているため、期待できる。
	○	乗用車販売店（営業担当）	・ 別の国産ディーラーでは生産制約の影響で注文できないため、その客が当店で注文するケースが一定数ある。4月頃までは現在のペースで受注が取れる見込みである。
	○	その他専門店〔書籍〕（社員）	・ 価格上昇の影響を余り感じず、新年度向けの受注増加が見込まれる。
	○	観光型ホテル（支配人）	・ 引き続き宿泊部門の予約は、前年を上回る傾向にある。レストランと宴会は良くも悪くもない状況である。
	○	都市型ホテル（総支配人）	・ 春の行楽シーズンに期待したい。ただし、3月前半は予約の積み上げが少ない。
	○	都市型ホテル（営業担当）	・ 悪い要素が見当たらない。
	○	旅行代理店（経営者）	・ 年度末ということもあり、現在の予約状況から推測すると良くなると期待する。
	○	旅行代理店（経営者）	・ 春を迎え、新シーズンの到来で新規予約が伸びることを期待する。
	○	旅行代理店（経営者）	・ 物価上昇に対する政策が少し聞こえてきているため、少し上向く。
	○	テーマパーク（職員）	・ 天候の長期予報から、来客数の動きが良くなる可能性がある。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	パチンコ店（経営者）	・現在が閑散期であるため、これから徐々に良くなる。新年度となり人の動きが変化し、政権も安定してくれば、明るい未来が見込まれる。
	○	美容室（経営者）	・年末にパーマを掛けた客が、天候が暖かくなってくるとまたパーマの施術に来店するため良くなる。良くなってほしいという期待もある。
	○	美顔美容室（経営者）	・今年4月から新たなキャンペーンが始まり、新規の客が見込めるため良くなる。
	○	住宅販売会社（従業員）	・現政権による予算案の早期決着により、客の動きが活発になることを期待する。
	□	商店街（代表者）	・客層の高齢化により購入量と単価が共に下がってきているが、新規客の開拓はなかなか難しい。
	□	商店街（代表者）	・新政権がどのように経済対策を行っていくかによって変わってくるが、まだ分からないという意味で特段変化はない。
	□	一般小売店〔生花〕（経営者）	・物価高が止まらない限り、景気の悪化は続くと思込まれる。
	□	一般小売店〔酒類〕（経営者）	・飲食費の値上げで、外食の機会は確実に減ってきている。飲食店における飲料の利用は限られており、パイの奪い合いになっている。
	□	一般小売店〔果物〕（店員）	・3か月ほどでは変わらない。
	□	一般小売店〔生活用品〕（販売担当）	・年度替わりのギフト需要が以前より減ってきている。
	□	百貨店（売場主任）	・今月はバレンタインデーの催事で来客が多かったが、チョコレート以外の売場に立ち寄る客はほとんどいなかった。土日は家族連れも多く、来客数は増加したが、複数人いる販売員が全員接客中となるようなことはなかった。特に若年層は下見としての来店が多いため、グループで来店しても1人で来店しても、買上に至る客は少ない。
	□	百貨店（総務担当）	・今年も一定程度の値上げが見込まれる状況であり、引き続き消費需要の高まりへのインセンティブはあるが、米国関税制度の変更などもあり、企業業績は不透明さを増している。2月下旬頃から、平年を大きく上回る気温で推移しており、春物の衣料や雑貨などの動きに期待したい。
	□	百貨店（営業担当）	・現状は来客数が多い状況が続いており、今後も消費の急減は起こらない見込みである。
	□	百貨店（営業担当）	・安全保障や世界情勢次第で、常に景気が悪くなる危険性がある。
	□	百貨店（販売促進担当）	・新しい経済政策の効果が出るのは、実売ベースではもう少し後になる。購買層は各施策が本当に可処分所得の増加につながるのかどうかを見守っているフェーズである。
	□	百貨店（販売担当）	・文具雑貨ブームによって前年と売上傾向が全く違う。冬物は気温が下がる期間が短く不調であったが、春物も期間が短くなりそうであり、結局文具雑貨分の売上ではカバーできない。
	□	百貨店（営業企画担当）	・当店のインバウンドのシェアは小さいが、その回復に時間が掛かる見込みである。
	□	百貨店（販売担当）	・価格改定の影響は一定期間続く可能性が高く、当面は大きな変化はない。
	□	スーパー（経営者）	・20年に1度の神事が始まり、天候も穏やかになり、来客数増加を期待する。
	□	スーパー（店長）	・競合の出店もあり大きくは変わらない。
	□	スーパー（店長）	・価格訴求をすることで、買上点数の増加に転じている。
	□	スーパー（店員）	・競合に合わせて売価の引下げや、対象を増やしているため利益の増加を見込めない。
	□	スーパー（販売担当）	・生活を一変させるような耐久材や、健康志向を反映した食品の誕生が望まれる。小売店も業績の2極化が更に進む。
	□	スーパー（販売担当）	・食料品の消費税を減税するという政府の政策が実現し、客の購買力が上がることを期待したい。
	□	コンビニ（企画担当）	・事態の改善がみられない状況であり、現状の傾向は当面継続する。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	☐	コンビニ（エリア担当）	・季節としては伸長期になり来客数が増加する時期だが、販売量の伸びは大きくは期待できないため、現状と余り変わらない見込みである。
	☐	コンビニ（本部管理担当）	・衆議院選挙が投票を終えたことを受け、来客数減少への対策として政府による有効な経済施策の実施を切望している。具体的にプレミアム付商品券の配布といった直接的な消費刺激策が一定の効果をもたらすと期待している。小売業は社会全体の景気動向に大きく左右される特性を有しているため、国内消費が活性化するような抜本的な施策が講じられない限り、現在の厳しい状況に変化は訪れない。
	☐	衣料品専門店（販売企画担当）	・物価が高止まりしている状況が変わらないため、このまま推移する。
	☐	衣料品専門店（売場担当）	・1～3月が繁忙期であるため、2～3か月後は段々と閑散期に入る。今は良い物を購入する客が多いが、3月後半は安い物を求める客が多い。
	☐	家電量販店（店員）	・堅実な買物をする客が多い傾向にある。
	☐	乗用車販売店（営業担当）	・継続的に上がり続ける物価のため、賃上げがされてもその実感がない。株高の恩恵を受けるのは一部の人で、円安による物価高の影響がより強い。
	☐	乗用車販売店（経営者）	・耐久消費財である新車の販売は、インフレ下で消費者の行動に慎重さが目立つようになっている。来客数も前年比では2割程度少ない。
	☐	乗用車販売店（経営者）	・中古車市場が高値で動いているが、前年より動きが良い様子が見受けられる。
	☐	乗用車販売店（従業員）	・物価対策を早急に打っていくといわれているが、客との話では、ますます生活関連材の値段が上がり、支払のときにため息が出ると物価上昇を嘆く声が多い。これから春闘の賃上げの結果が続々と発表されるが、その数字から今後の賃金への期待感が生まれ、市場が明るくなることを期待したい。
	☐	住関連専門店（営業担当）	・予算の面でいろいろな物が値上がりしており、新築工事が見合せになっているが、リフォーム物件や中小規模の改修工事は増えている。
	☐	その他専門店〔貴金属〕（経営者）	・為替の円高化が進むかどうかと、消費税減税の行方次第である。
	☐	一般レストラン（経営者）	・手取りが少なく、若い人も高齢者もなかなか外食等に回す金がない。今後も厳しい見込みである。
	☐	一般レストラン（従業員）	・値上げは落ち着いているが、売上につながらない。
	☐	その他飲食〔仕出し〕（経営者）	・国民が実感できるような何らかの物価対策を政府がとらないと、このままでは生活に支障が出る。
	☐	その他飲食〔ワイン輸入〕（経営企画担当）	・円安による物価高への懸念がある一方、ガソリン価格の値下がりなど良いニュースもあり、消費者はそこまで暗い印象ではない。売上も前年を3%程度上回っており、しばらくはこの状況が続く見込みである。
	☐	都市型ホテル（従業員）	・予約数から判断した。
	☐	都市型ホテル（経営者）	・中国の問題等で不確実さはあるが、全体としては堅調である。
	☐	旅行代理店（経営者）	・物価高のなか、様々な物の価格が上がるなかで、飲食店の値上がり幅は大きく、これが収まる気配は当分ない。少子高齢化のなかで需要と供給の安定化が当面望めない。
	☐	旅行代理店（営業担当）	・2026年4月以降の新年度の旅行申込み需要は例年並みである。6月にはサッカーワールドカップ、9月にはアジア大会とビッグイベントが続くが、旅行需要に結び付く要素は物価上昇以上の賃上げで家計に余裕が出ないと難しい。
	☐	タクシー運転手	・5月のゴールデンウィークとその前後の客足に期待したい。連休中のタクシー利用客は余り期待できず変化はない見込みだが、徐々に気候が温暖になってくるため、夜の客足に期待している。
	☐	通信会社（企画担当）	・新政権への期待感がある。一方で、米国関税や世界情勢等の先行きが不透明であるため、慎重になっている印象を受ける。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	観光名所（案内係）	・安くなる物がない様子が見受けられる。現政権がどのような手を打つかにより、2～3か月先どうなるかが分かってくるとみているが、今のところ特に変わりなく推移するとみる。
	□	パチンコ店（従業員）	・状況に大きな変化はない。
	□	その他レジャー施設 〔鉄道会社〕（職員）	・多くのスキー場が廃業するなか、当地域のスキー場は堅調な様子であり、地元の観光客受入れ態勢の強化が鍵となる。簡単ではない課題のため、しばらくは大きな変化が期待できない。
	□	美容室（経営者）	・客の話から、生活自体に余り変化がない様子であり、当分このような状況が続く。
	□	美容室（経営者）	・経済がこれから先、良い方向に進んでいけばよいが、まだ変わらないという印象が強い。
	□	その他サービス〔介護サービス〕（職員）	・介護報酬制度に変わりがないため、大きく業績が変化することは期待できない。介護業界の人手不足が深刻であるため、低コストかつ人手不足を補う福祉用具の有効性にスポットライトが当たることを来年度に期待する。
	□	住宅販売会社（経営者）	・物価は徐々に上昇しているが収入は同様には上がっておらず、不動産購入への意欲が乏しい印象を受ける。
	□	住宅販売会社（従業員）	・大きな変化は当たらないと見込まれる。
	□	その他住宅〔室内装飾業〕（従業員）	・企業からの設備投資の引き合いは少ないが、個人のリフォーム工事引き合いが多い。
	□	その他住宅〔不動産賃貸及び売買〕（営業）	・原価高騰が続いており、売上をどれだけ上げられるかが問題である。
	▲	一般小売店〔結納品〕（経営者）	・例年は春になると店の売上が良くなる。
	▲	スーパー（店長）	・割引デーなどのセールを実施しても、売上が大きく上がらなくなっているため、しばらくやや悪い状態が続く見込みである。
	▲	スーパー（店員）	・売上を後押ししていたみかんの時期が終わる。春にしては暖かい気候であるため、肉等の高価なものは1～2月と比べると売上が落ちる見込みである。
	▲	スーパー（店員）	・担当カテゴリーの値上げが続く、し好品を中心に苦戦が続いているが、3月以降も同様の値上げが続く。
	▲	スーパー（店員）	・競合店がオープンして、まだ来客数が回復しない時期である。
	▲	コンビニ（店長）	・3月からも新聞代値上げ等、様々な商品の値上げが予定されている。人気商品であるコーヒーの再値上げも秒読みではないかと考える。更なる客離れが懸念される。価値の高い商品を投入できるか否か、商品開発の力が鍵になる。
	▲	衣料品専門店（店長）	・米国関税の動向次第であるが、当地域は製造業が多いため、今後は一定の影響を受けるとみる。
	▲	乗用車販売店（経営者）	・4月以降は例年そうだが、年度初めということもあり、販売台数は一気に減る。
	▲	乗用車販売店（従業員）	・販売停止の車種が多く、振り当てられる車も少ないため、販売量の増加は見込めない。
	▲	乗用車販売店（従業員）	・3月は決算期であり、ある程度の売上は見込めるが、ここ数か月ほど前年の販売台数を下回っているところをみると厳しい。
	▲	乗用車販売店（販売担当）	・車両本体価格が大分上がっているため、新車を購入するより、車検を受けて今乗っている車を乗り続ける人が増えており、販売量は落ち込んでいる。
	▲	観光型ホテル（経営者）	・前年比のデータに加え、宿泊者数が伸びない傾向にあるため、やや悪くなると判断する。当社はリゾートホテルであるが、個人消費と団体消費共に、今年は当地域に話題がない年であることが影響しているのかもしれない。現在のテレビドラマは大阪・滋賀方面、若しくは名古屋方面が舞台であるため、当ホテルの立地とは関係ない。話題が乏しいというのも景気の1つの原因である。個人消費が伸び悩むと、行楽費用が削減若しくは見直されてしまうため、景気浮揚策や需要喚起があれば状況を改善できる。
	▲	テーマパーク（職員）	・物価高で旅行に使える金額が減っている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	テーマパーク職員（総務担当）	・3月中旬までは大規模な催事がなく、十分な集客は得られないため、回復傾向の有無については、次の春季イベントの結果により判断したい。
	▲	理美容室（経営者）	・客との話では、様々な物の価格だけ上昇し、給料は余り上がらないため、生活が苦しくなっていくという声を聞く。
	▲	設計事務所（職員）	・景気を回復させる政策を示しているが、現時点では景気が好転する見通しは立っていない。
	▲	その他住宅〔住宅管理〕（経営者）	・少額なりフォーム工事が増えても、便利屋的な人材はいない。万年、人材不足であり、この先人材確保が悩みになる。仕事があっても足踏み状態が続く。
	▲	その他住宅〔展示場〕（従業員）	・販売動向から判断した。
	×	コンビニ（店長）	・たばこが主力商品であるが、4月から加熱式たばこの増税により値上げされるようで、ますます消費が低迷する。
	×	衣料品専門店（経営者）	・前年に客が何人か亡くなったが、新規になり得る客が見当たらない。
	×	その他専門店〔雑貨〕（店長）	・ターミナル駅の集客減少が考えられる。
	×	住宅販売会社（従業員）	・住宅の工事費が考えられないほど高騰しているが、部材メーカーは更に値上げしようとしている。
企業 動向 関連 (東海)		-	-
	○	電気機械器具製造業（企画担当）	・政府の政策に好感を持っているのか、先行指標としての株価が上昇している。賃金も大手企業から徐々に上がり始めている。ショッピングモールの人出も以前と比べて多くなっている印象を受ける。
	○	輸送業（従業員）	・新学期に向けて引っ越し商戦や大型連休等が控えており、貨物量が増加する。そのため、物量が回復すると見込まれる。
	○	輸送業（エリア担当）	・販売予想から判断した。
	○	金融業（従業員）	・工場等の生産量は基本的に増えている傾向にある。また、政治などへの期待感が影響し、例年と比べると利益という意味ではやや上がっている。
	○	その他非製造業〔ソフト開発〕（経営者）	・このまま低調が続くことはないと思われる。円安に振れるというが、我が国の底力が発揮され、きっと良くなる。
	□	食料品製造業（営業担当）	・受注数、販売数共に減少傾向である。
	□	パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	・米国の関税政策、円安や物価高、金利上昇等の状況を踏まえても、現在の受注量、販売量に余り大きな変化はなく、今後の景気は余り変わらない。
	□	化学工業（総務秘書）	・景気に悪影響を与える特段のトピックがない。好調な企業決算やベースアップの決定などが報道されれば、好況感を維持できる。
	□	窯業・土石製品製造業（社員）	・既に3月の生産分はほぼ枠が一杯の状態で、客に納期後倒しを依頼している。しばらくは現在の好調が続く見込みである。
	□	一般機械器具製造業（経営管理担当）	・受注量、販売量の見込みから判断した。
	□	一般機械器具製造業（営業担当）	・東南アジアと北米地域での引き合い件数も多く、取引先からの情報でも、まだ設備投資がしばらく続きそうである。
	□	電気機械器具製造業（営業担当）	・翌月まではほぼ変化がない見込みである。
	□	電気機械器具製造業（経営者）	・ここ3か月程度は新規問合せが少なく、既存製品のリピート生産のみにとどまっている。今後の見通しは悪く、横ばいが続く見込みである。
	□	輸送用機械器具製造業（品質管理担当）	・以前と比べて、当社のなかでも求人数が増えている。
	□	建設業（経営者）	・政策については十分な効果が現れていないとみる。商品券施策については、費用負担が大きい。
	□	建設業（営業担当）	・物価や燃料費が下がらないことを重視し、景気が良くなるという世論も含めて、まだ景気回復は途上である。現状維持も難しい段階とみられるため、変わらないと判断した。
	□	輸送業（経営者）	・人手不足は物流業界だけでなく土木・建築関係でもみられ、関連する物資の輸送が減少している。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	輸送業（従業員）	・ 3月まではほぼ前年並みの見込みだが、年度が替わる4月以降、どうなるのか荷主に聞いても要領を得ない。荷主側も予想ができない様子である。
	□	輸送業（エリア担当）	・ 前年と比べて、受注量は若干のマイナスとなっている。毎日受注のあった病院からのオーダーが2週間ほどない。
	□	通信業（法人営業担当）	・ 各企業が小さなところからオリジナリティを捨て、支持されやすい開発思想で作られたSaaSサービスを使って事業を回し始める傾向をみるにつけ、今後経済が好転するきっかけは見つからない。
	□	金融業（従業員）	・ 現政権の政策により、海外からの評価もあるのか、経済は良くなる。しかし、消費者までにその恩恵が届くには課題も多い。
	□	金融業（企画担当）	・ 発注企業が労務費、材料費等の見直しを行っており、来年度以降相応の値上げ、原価率の改善が見込まれ、中小企業によっては良い傾向ではあるが、それが浸透するには少し時間を要する。相応に浸透することによって、消費の影響が変わってくる。
	□	不動産業（経営者）	・ 今後は前年と同様に晴れの日や暖かい日が徐々に多くなりそうであり、外出や遠出をする人は増加傾向になる見込みである。売上の増加傾向は続き、前年を上回る状況が続く。
	□	広告代理店（制作担当）	・ 定期的な広告受注はあるが、新規の事業がなかなか決まらない。そのため、横ばいが続く見込みである。
	□	新聞販売店〔広告〕（店主）	・ 異業種との交流でも期待ほどの成果が得られなかった。諦めずにアンテナを広げ、視野を拡大していけば何かきっかけをつかめることを期待する。
	□	公認会計士	・ 衆議院選挙の結果により、消費税減税などが進むことが予想され、財政支出が多くなることから、投資などの期待感にはつながっている。しかし金利上昇の可能性もあるため、企業による積極的な設備投資には至っていない。地方交付金や物価対策への対応などの期待感から、個人消費はより活発になる可能性もあるが、景気回復に至るまでにはもう少し時間が掛かる。
	□	会計事務所（職員）	・ 決算ボーナスを出す顧問先が多くあるが、スーパーでの買物も以前より1回当たりの支払額が多くなっており、ガソリン代もまた上がってきている。日常生活に使う以外、少しぜいたくな消費までは至らない。
	▲	食料品製造業（社員）	・ 当社を含めた業界各社は、商品価格の改定に踏み切り始めている。酒等の嗜好品は、一時的に販売数量は落ち込むと見込まれる。
	▲	金属製品製造業（従業員）	・ 業界の関係者は皆口をそろえ、春が過ぎると案件が減ると言い合っている。
	▲	輸送用機械器具製造業（管理担当）	・ 米国関税による混乱や、継続する円安の影響により不安が高まっている。景気回復につながる政策が欲しい。
	▲	建設業（役員）	・ 建築費の高騰が続いており、今後販売開始する物件の販売価格は更に高くなる。
	▲	輸送業（従業員）	・ 現在の日本経済は、個人消費や設備投資といった内需が景気を下支えしている。一方で、海外経済の減速懸念などにより外需の先行きには不確実性が残っている。そのため、内需主導の景気の持ち直しが期待されているが、社会保険料負担の増加は家計の可処分所得を圧迫し、個人消費を通じて内需に悪影響を及ぼすリスク要因となりうる。
	▲	会計事務所（職員）	・ 前年末頃から主要取引先からの受注量が減っており、この先もしばらく回復する見込みがないため、現状が続く見込みである。同じ主要取引先を持つ同業他社も、規模が小さな事業所は廃業あるいは統合したという情報を最近よく耳にする。
	×	化学工業（営業担当）	・ 中東情勢の問題で、樹脂容器や物流費等の価格高騰が懸念される。
	×	鉄鋼業（経営者）	・ ものづくりの中小企業や零細企業が疲弊している様子である。この状況が続けば、廃業や倒産が増えると懸念され、その結果、更に連鎖で負の相乗効果が生まれる。
	×	金属製品製造業（経営者）	・ 現時点で引き合いが減少していることもあり、引き続き減少傾向が続く。
	×	通信業（総務担当）	・ 今までのような生活ができなくなると想像できる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
雇用 関連 (東海)		-	-
	○	人材派遣業（営業担当）	・ガソリン価格が低下したことで、消費者意識が変化し、連休等を活用して遠出する世帯が増加することが想定される。また、中国からのインバウンドが減少するものの、他国からのインバウンドが増加しており、中国関係の影響は少ない。
	○	人材派遣会社（社員）	・時期が変わることによる求人数の変化に期待する。
	○	職業安定所（職員）	・管内の有効求人数が、前年同月比で増加傾向が続いている。
	□	人材派遣会社（社員）	・インバウンドが増えなければ、しばらく良くならない。
	□	人材派遣会社（営業担当）	・現状先々の見通しが立っておらず、景気が変わるとしてもまだ先になる。
	□	人材派遣会社（営業担当）	・求職者数が伸びる材料はないため、採用数は増加しない。
	□	人材派遣会社（営業担当）	・消費税減税も検討しているが、施行されるまでは景況感は大きく変わらない印象を受ける。
	□	アウトソーシング企業（エリア担当）	・円安による恩恵を受けるのは大企業のみである。我が国の大多数を占める中小零細企業は円安の恩恵を受けるところか、人件費の高騰や燃料光熱費、仕入材料価格の高騰などにより疲弊している。
	□	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・年度替わりで求人数は一時的に増えるものの、人手不足による採用難や物価高の影響もあり、市場全体を押し上げるほどの勢いには欠ける。そのため、当面は現在のような一進一退の状況が続く。
	□	職業安定所（職員）	・中小企業においては長期にわたる原材料費や燃料費、運送費、人件費などの各経費の高騰と金利の上昇傾向によって、事業活動への大きな負担が継続しており、かなり厳しい状況となっている。一方で受注が堅調な産業もあるが、物価高騰などに伴う消費動向の停滞や経済動向への懸念等により、新たな求人提出を控え、引き続き様子見をしている産業も少なくない。一部求人提出を控えている産業がみられるものの、現時点で大きな生産調整や雇用調整などの情報は入っておらず、当面景気動向の大きな変化は生じないと判断する。
	□	職業安定所（職員）	・人手や人材不足の慢性化は継続する見込みである。一方で、中長期的に大学キャンパスの移転等による駅周辺の活性化に期待する。
	□	職業安定所（職員）	・米国関税問題の行方はいまだ不透明であるが、求人数は増えているため、当面は現状維持の見込みである。
	□	職業安定所（職員）	・求人者の声として、自動化やデジタル化の進展により、少人数で工場を運営できるようになっている企業がある。一方で、エネルギーや原材料価格の上昇を十分に価格転嫁ができず、企業体力が低下し、結果として大手企業との雇用条件比較で不利となり、人材採用に苦戦している企業もある。全体として人手不足感はあるものの、雇用情勢に大きな変動はない。
	□	職業安定所（職員）	・管内の有効求人倍率は1倍を超える水準で推移しており、今後も全国を上回る見込みである。
	□	民間職業紹介機関（窓口担当）	・1年を通じて最も大きな繁忙期のため、新たな求人に対して数次的にも多くの案件が動く時期であるが、ゴールデンウィークを過ぎると求人数も落ち着く見込みである。
	□	民間職業紹介機関（営業担当）	・3月を境に、求職者の転職活動に対する意欲は徐々に減退の兆候がみえるようになる。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・新卒求人について、今後2～3か月で求人動向を大きく左右するような要因が見当たらない。
	□	学校〔専門学校〕（就職担当）	・来年度の求人件数は、採用機関や採用人数もほぼ前年並みで、現時点では大きな変化はみられない。
	▲	人材派遣会社（営業担当）	・自動車部品メーカーにて、2026年の予算を電動化領域に限らず例年よりも大きく削減する話が出ている事業部もあり、当社への具体的な影響は未定だがあおりを受ける可能性がある。
	▲	職業安定所（職員）	・アパレル商品の卸売・小売業の廃業要因は、物価高が続くなかで、やむを得ない支出以外を抑制する動きにある。物価が安定するまでは企業を取り巻く環境は厳しい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	人材派遣会社（社員）	・ 2月は人の動きが大きい時期であるが、鈍い状況である。そのため、先が見通せない。

7. 北陸（地域別調査機関：一般財団法人北陸経済研究所）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (北陸)		-	-
	○	商店街（代表者）	・ 中国経済の先行きが不透明であることから、かつてのような爆買いは期待しづらい状況である。しかし、日本人客による購買が好調で、多様化したインバウンド需要も定着しているため、今後数か月は高い売上水準を維持できるとみている。春の観光シーズンに向け、日本人向けの品ぞろえを強化することで、安定した推移を見込んでいる。
	○	一般小売店〔書籍〕（従業員）	・ 来客数が増えており、しばらくこの傾向が続きそうである。
	○	コンビニ（店舗管理）	・ 米の価格が下がると考える。
	○	衣料品専門店（経営者）	・ 社会情勢の安定が経済を活気付け、消費者マインドを高揚させると考える。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・ 施設及びテナントの設備投資が進んでおり、全体として来客数と売上の増加が期待できる。
	○	一般レストラン（店長）	・ 2月は閑散期の上、悪い条件が重なり状況が良くなかったが、株価の上昇など明るい兆しもみられるため、回復に期待したい。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・ インバウンドの引き合いが多い。宿泊部門が売上をけん引し、レストラン部門も回復傾向が続くとみているが、宴会部門が回復するかは分からない。
	○	タクシー運転手	・ 県知事選挙が終わり、新年度に入れば飲食の機会が増えるため、景気は良くなるとみている。
	□	商店街（代表者）	・ 春からの観光シーズンにインバウンドがどの程度訪れるか、経済状況が不透明ななかで落ち着いた状況が続く。
	□	一般小売店〔精肉〕（店長）	・ 総菜は好調、生鮮品はやや低調という状態がしばらくは続くともみている。金に余裕のある客に動きがあることを期待している。
	□	一般小売店〔鮮魚〕（経営全般）	・ 賃金は微増するとみているが、物価高は継続し、個人消費は足踏みすると考える。
	□	百貨店（売場主任）	・ インバウンド売上の低迷に出口がみえないため、しばらくは厳しい状況が続くとみている。ただし、免税手続の件数は伸びている。
	□	百貨店（販売促進担当）	・ 春闘の状況から、賃上げが進み個人消費は活発化していくと考えるが、その恩恵は生活に不可欠である食、住、衣の順で受けると考える。小売では、ファッション関連に消費が回ることが景気の良しあしを判断する基準といえるため、注視したい。
	□	百貨店（販売担当）	・ 一般客に関しては、低価格志向と吟味して購入する傾向は続くともみている。特に生活必需品以外のファッション関連は、当面苦戦すると考える。低価格商品の拡大も限界で、価値と価格のバランスを客が理解するまでに相当時間を要するとみている。一方、富裕層は経済状況の変化が少なければ、今後も継続した購入が見込める。貧富の差が拡大しており、店舗運営にはバランスが必要で、難しさが増している。
	□	スーパー（店長）	・ 更に値上げが進んでおり、生活は楽になっていない。
	□	衣料品専門店（経営者）	・ 現在の環境では、景気が好転していくことは余り考えられない。
	□	衣料品専門店（経営者）	・ 若い客の新規来店が増えている。ゴールデンウィーク頃まで、現在のやや良い状況が続くとみている。
	□	家電量販店（店長）	・ 値上げが止まらないため、客の購買意欲は高まらない。
	□	家電量販店（店長）	・ 処分商材は売れるが、客への聞き取りを行うと、壊れたことによる買換えがほとんどである。商材の買換えサイクルが延びている。
	□	家電量販店（本部）	・ 全体としては堅調ながら、持続的な成長を促す要因は乏しく、厳しい。今後はエアコンの2027年問題などプラスに転じる要素も一部にはあるが、見通しは総じて不透明である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	乗用車販売店（従業員）	・特に大きな変化はみられない。
	□	乗用車販売店（総務担当）	・新年度を迎えるため一定の需要は見込めるが、供給不足も継続するとみており、状況は変わらない。
	□	乗用車販売店（経理）	・4月以降に自動車業界以外でも更なる値上げが実施される。これによる影響が不明であるため、判断を据え置いている。
	□	住関連専門店（役員）	・景気が大きく変化することは到底期待できない。ゴールデンウィークを控え、需要期を迎えるが、最近の状況から旅行や食事など別の分野に消費が回るとみている。
	□	高級レストラン（スタッフ）	・仕入価格が高くなっているため商品の価格を上げたいが、地元客は単価にシビアであるため、来客数と単価のバランスが取れず苦戦が続いている。
	□	一般レストラン（統括）	・通常であれば、年度末、年度初めからゴールデンウィークまで外食の需要は上向く傾向があり、現在は客の行動が活発化し始めている。しかし、先日の大手ファーストフード店の値上げを受けて、他社もこれに続き4月に値上げをすると、消費者マインドが低下し、外食需要はゴールデンウィークに集中すると考える。
	□	観光型旅館（経営者）	・3月の3連休や日並びの良いゴールデンウィークなどで、売上増加が見込める。
	□	観光型旅館（経理）	・2024年1月1日に発生した能登半島地震以降休業状態が続いており、再開までにまだかなりの期間を要する。
	□	通信会社（職員）	・景気が好転する要因が特にならない。
	□	通信会社（営業担当）	・新入学の時期と重なり販売量は増加しているが、一時的なものだとみている。
	□	通信会社（役員）	・商戦期を迎えるが、競合他社との競争が激しくなることが予想され、解約数が増えるかとみている。
	□	通信会社（役員）	・取り扱っているサービスごとに契約件数は異なるが、総合的にみて現状維持の状況である。
	□	テーマパーク（役員）	・先行きの予約状況を見ると、団体客については一部に弱さがあるが、個人客、インパウンドを含めた全体では変わらない。
	□	パチンコ店（経理）	・消費税減税や物価対策がこの先3か月の間には間に合わないため、景気は変わらない。
	□	住宅販売会社（従業員）	・現状の受注状況が続くとみている。能登半島地震からの復興受注には変化がみられ、多くの人々が地元を離れて別の地域で中古住宅を探すなどの問合せが増えている。
	□	住宅販売会社（従業員）	・建築単価の高止まりが続く、住宅ローンの金利が上昇することで、消費者のマインドが低下している。
	▲	一般小売店〔事務用品〕（店長）	・春の需要期が一旦落ち着くため、低調になるとみている。
	▲	スーパー（仕入担当）	・春夏商材への切替えのタイミングでは値上げが多く、値上げ幅も大きいため、販売数に大きくマイナスの影響が出るとみている。
	▲	スーパー（役員）	・消費者の節約志向は月を追うたびに顕著になっている。
	▲	乗用車販売店（経営者）	・例年、年度末決算が終わるとしばらくは自動車の購入が低調になるため、2～3か月先はやや悪くなるとみている。
	▲	スナック（経営者）	・国内外の状況から、ますます格差社会が進み、一般的に厳しさが増すと考える。
	▲	旅行代理店（従業員）	・旅行単価の上昇傾向が強く、客の許容範囲を超えつつある。
	▲	競輪場（職員）	・激しい物価高のため、消費を抑えようという動きが事業者間でみられる。消費者にもこのような動きがあると消費は低迷すると考える。
	▲	住宅販売会社（従業員）	・イベント来場者は若干減少傾向で、これからの需要期に例年並みの受注ができるかどうか難しい。受注数が減るなか、今までは1件当たりの金額が増えることで売上は増えたが、今年も同様になるかはまだみえない状況である。
	▲	住宅販売会社（営業）	・物価高による建設費の高騰や行政手続の厳正化による工期の長期化、住宅ローンの金利上昇への懸念など、業界を取り巻く環境が厳しい。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	商店街（代表者）	・店舗の開店もあるが、閉店も多い。百貨店やショッピングセンターでも、空き店舗が増えている。駅直結の商業施設にも空き店舗があり、高額な家賃に見合う売上が確保できないようである。
	×	コンビニ（店長）	・何とか現状を維持しているだけで、売上増加に向けた挑戦が予算の制約により行うことができない。売上の維持も、最近の値上げによる商品単価の上昇が主な要因である。来客数は、前年、前々年と比較すると下降の一途をたどっており、しばらくは減少が続くとみている。
	×	その他専門店〔酒〕（経営者）	・50年以上取引をしてきた酒の総合問屋が突然廃業した。予期せぬことで、全く先が見えない世の中になってきた。景気が悪くなるという感覚で一杯である。
企業 動向 関連 (北陸)		*	*
	○	一般機械器具製造業（経理担当）	・国内は企業の設備投資需要が堅調で、関係部品などの受注が旺盛である。海外は欧州向けの二輪車関連製品が引き続き好調で、船便の手配が厳しくなっていることもあり、生産の前倒しが必要になっている。
	○	電気機械器具製造業（営業担当）	・今までの傾向から、産業用機器関連の受注が増加傾向にあることにより、他の民生用機器などの受注も増加すると考えている。ただし、車載関連製品に関しては、新規のバッテリー式電気自動車関連の立ち上げの日程が、引き続き先送りになっている。
	○	建設業（経営者）	・現内閣が国土強靱化を最重点課題としていることが、国だけでなく県や市町村にも波及効果をもたらし、工事の発注量が増えると思われている。
	○	輸送業（経理）	・今後はドライバーに対しての待遇が見直されていくと考える。
	○	通信業（営業）	・安定した政権運営が期待され、株価や円の動きも当面安定している。
	○	税理士（所長）	・テレビ番組で紹介された地元地域を訪れる人が増えている。県内ではこの後も季節のイベントやホタルイカ漁などでにぎわうとみており、消費が加速する。
	□	食料品製造業（経営企画）	・能登半島地震での被災により失った大口の取引の穴を埋めるべく、新商品開発や新たなチャネル開拓に取り組んでいるが、なかなか成果が現れていない。
	□	プラスチック製品製造業（広報）	・受注及び販売見込みに大きな動きが見られない。
	□	金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の受注状況から、景気は変わらないとみている。
	□	輸送業（管理会計担当）	・引き続き、運賃改定の交渉をしていくが、物量に大きな変化はない見通しである。ドライバー不足と労働時間の規制もあり、物理的に物量増加を図れない。
	□	金融業（融資担当）	・物価高、賃上げなどによるコスト増加は、依然として企業収益を圧迫している。一方で、国内政治は衆議院選挙の結果により、今後の経済政策がどのように推し進められるのか、景気改善への期待感がある。
	□	金融業（融資担当）	・企業業績は価格転嫁や単価の引上げ効果からおおむね増収だが、利益率は悪化傾向にある。要因としては、仕入価格の上昇を上回る価格転嫁が進んでいないことに加え、人材確保のための人件費増加が挙げられる。受注状況については特段大きな変化はないが、今後各社の利益率が更に悪化したり、価格を改定した場合に受注に影響が出たりすることが考えられる。
	□	不動産業（経営者）	・時期的なものは別として、個人からの電話相談や法人からの問合せは、かなり少なくなっている。
	□	司法書士	・駅周辺の再開発は進んでいるが、地域的な偏りがあり、全体の景気に影響があるかは疑問である。
	▲	繊維工業（総括）	・国内や中国のファッション市況の低迷に加え、これまで好調であったスポーツやアウトドア用途にも減速感が出ており、先行きに対する不透明感が強まっている。
	▲	建設業（役員）	・前年同期と比べて、今年の先行きの受注量には拡大が見込めない。
	×	-	-
雇用		-	-

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
関連 (北陸)	○	新聞社〔求人広告〕 (担当者)	・ 求人広告数が増加している。
	□	職業安定所(職員)	・ 生活費の確保を目的とした高齢の求職者数が増えているが、若年者がやりたがらない仕事は希望しておらず、仕事を選ぶ余裕もみられる。
	□	職業安定所(職員)	・ 事業所の話を聞くと、ほとんどの企業が景気はほぼ変わらないとみているようである。
	□	職業安定所(職員)	・ 原材料費、燃料費、水道光熱費の高騰などにより企業環境が徐々に厳しくなっており、前年同月と比べて有効求人数や有効求人倍率が徐々に下がっている。また、前年10月からの最低賃金の大幅な引上げによる人件費高騰や、米国の関税などにより先行きを不安視する事業所も少なくない。
	□	民間職業紹介機関(経営者)	・ 賃上げと物価上昇によるコスト増加の影響はあるものの、中小企業における人材確保のための求人の動きはある。しかし、景気動向に大きな変化はなく、今後もこのままの状況が続くと考え。
	□	学校〔大学〕(就職担当)	・ 物価上昇、円安、能登半島地震と豪雨災害の影響、日中関係による影響、米国の関税など状況が好転する要素や心配がみられない。
	▲	人材派遣会社(役員)	・ 派遣先企業の業種により新たな派遣依頼の増減はあるが、全体的に減少している。現在派遣しているスタッフの中途解除も増えてきている。
	×	-	-

8. 近畿(地域別調査機関：りそな総合研究所株式会社)

(- : 回答が存在しない、* : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (近畿)		百貨店(サービス担当)	・ 食料品フロアをリニューアルオープンすることで、来客数の増加が期待できるほか、新たな催事の導入により売上の増加につながる。
		家電量販店(企画担当)	・ エアコンの買換えがかなり進んでいる。これからの気温上昇に伴い、更なる販売の加速が予測される。
		乗用車販売店(支店長)	・ 株価の上昇に加え、国内経済や企業の景況も上向いているため、今後は確実に良くなる。
		観光型旅館(経営者)	・ 政権の安定感や先行きの明るさから、旅行需要も良くなりつつある。
	○	一般小売店〔鮮魚〕 (営業担当)	・ 3～4月にかけては、インバウンドから多くの予約が入るなど、一定の需要が見込まれる。
	○	一般小売店〔化粧品〕 (経営者)	・ 春のカラー化粧品の動きは良く、商品に対する客の反応は悪くない。特に、ラグジュアリー関連ブランドの売上は前年比で10～20%の伸びとなっている。ギフト対応を狙った商材も好調に推移しているため、国内消費も伸びることが予想される。一方、インバウンドは回復にやや時間が掛かると想定している。
	○	一般小売店〔書籍〕 (管理担当)	・ 現時点では、前年を上回って推移している。今後は大阪・関西万博の反動で売上が減少する可能性はあるが、景気が悪化しているとの判断にはつながらない。
	○	百貨店(売場主任)	・ 当グループでもインバウンド需要が後退しているものの、政権の安定による好景気への期待が株価の上昇につながり、都心店では富裕層による高額品の購入が、インバウンド需要の減少分をカバーしている。今後はこの傾向が郊外にも波及することが期待される。
	○	百貨店(販売推進担当)	・ 2026年度予算を策定して積極的な財政出動が実現すれば、内需の拡大で景気が上向くことが期待できる。
	○	百貨店(外商担当)	・ これからも株価の上昇が進行し、富裕層による高級海外ブランド品への需要は更に増える。
	○	百貨店(マネージャー)	・ 今年も春の賃上げ率は高水準が予想されるため、4～5月頃の景気はやや良くなる。
	○	スーパー(企画担当)	・ 気温の上昇で需要が伸びるアイスや飲料などは、前年と比べて販売量が増加し、ひな祭り商材の動きも良い。また、米の販売価格が下がりつつあり、販売量が増えたほか、売上全体も伸びている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	スーパー（社員）	・先日の衆議院選挙の結果から、今後は更に消費を喚起するような政策への取組が出てくる。当面は、この期待感が家計の支出を支えることが予想される。
	○	スーパー（企画）	・食料品の物価上昇がやや落ち着きつつあるほか、政府の物価対策もあり、今後は食料品への支出も増えていく。
	○	コンビニ（経営者）	・毎年2～3月は飲食店が暇になるが、春になればイベントが増えるため、景気が良くなると期待される。
	○	コンビニ（経営者）	・大阪・関西万博の開幕による、売上の全体的な底上げ効果が続く可能性があるほか、今後は季節が良くなって観光シーズンに入り、インバウンドも増える。また、新商品の販売が増えることによる、売上の増加も期待される。
	○	衣料品専門店（店長）	・衆議院選挙の結果を受け、消費対策が明確に打ち出されたことで、客との会話でも期待感が強まっている。
	○	衣料品専門店（店員）	・繁忙期になるため、来客数が増え、景気も上向く。
	○	家電量販店（経営者）	・2026年度の補助金の受付が再開すれば、販売量の増加が期待できる。
	○	家電量販店（人事担当）	・新生活需要が高まるシーズンに入り、進学や就職による家電需要の伸びが期待される。
	○	乗用車販売店（経営者）	・車検の予約や、新車や中古車の購入予約が少し増えている。
	○	その他専門店〔ドラッグストア〕（店員）	・季節の変わり目は気持ちも上向き、季節の新商材の購入が増えるほか、環境も変わる時期であるため、購入意欲も上がりやすい。今後は消費税減税にも期待したい。
	○	その他小売〔インターネット通販〕（オペレーター）	・送料無料キャンペーンが始まるので、受注の増加が期待される。
	○	高級レストラン（スタッフ）	・ゴールデンウィークに伴う集客が期待できる。
	○	一般レストラン（経営者）	・季節要因も含めて、来客数が伸びる。
	○	一般レストラン（店員）	・今後の景気対策の効果や、気候が良くなる影響もあり、上向くことが期待される。
	○	観光型旅館（団体役員）	・気候も温暖になり、学生の卒業旅行などでにぎわいが出る。
	○	都市型ホテル（客室担当）	・先行予約の取り込み状況は、土日祝限定ではあるが、比較的好調に推移している。卒業旅行や桜のシーズンは、特に好調な推移となっている。
	○	通信会社〔貴金属オークション〕（経営者）	・金相場には乱高下がみられるものの、今後も上昇トレンドが続くため、年内は良くなることが見込まれる。
	○	通信会社（社員）	・他社と同様の値引きやサービスの拡充が、客に認識されるようになってきている。
	○	その他レジャー施設（管理担当）	・工事関係者の利用に加え、春休みに入り、スポーツ合宿での利用も予定されている。
	○	その他レジャー〔スポーツ施設〕（業務担当）	・スポーツ施設の運営管理事業では、ミラノ・コルティナオリンピックや、3月からのWBC（ワールド・ベースボール・クラシック）の開催など、2026年とはかつてないほどスポーツの祭典が繰り広げられるため、スポーツを楽しむ気運が高まると予想している。ただし、経費などの高騰が、政府の対策でどこまで抑えられるかに左右されそうである。
	○	その他サービス〔マッサージ〕（スタッフ）	・アロマオイルを使ったマッサージで服を脱ぐため、寒い時期よりも、暖かい時期の方が来客数は増える。
	○	住宅販売会社（経営者）	・政局も安定し、将来的な経済の好調が期待できる。
	□	商店街（代表者）	・入出は同じような状態が続いている。
	□	一般小売店〔野菜〕（店長）	・現時点では変化につながる要素が何もない。今後は現政権がどのような手を打ってくるのか、年金なども含め、低所得者対策の内容が問われる。その推移次第で状況が変わってくる。
	□	一般小売店〔雑貨〕（店長）	・4月からは値上げラッシュが始まりそうである。
	□	一般小売店〔呉服〕（店員）	・物価が高くなってくると、生活必需品から優先的に購入するため、ぜいたく品にまで手が回らないケースが多い。
	□	百貨店（企画担当）	・中国からの航空便は、夏ダイヤ期間も減便が続くととの報道があり、厳しい状態が続くと予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	☐	百貨店（企画担当）	・消費の2極化の傾向は、今後も続く予想される。
	☐	百貨店（広報担当）	・国内客は引き続き堅調な推移が見込まれる。百貨店でも価格にシビアな中間層が増えているが、富裕層の購買はますます旺盛であり、価値の増加が見込まれる商品は特に好調であった。その一方、免税売上は引き続き苦戦が予想される。
	☐	百貨店（販促担当）	・国内の政局の安定や、景気浮揚策といったプラス要素と、米国の関税問題といった不安要素が入り交じるほか、今後の日中関係も含めて、予測困難な状況である。値上げの兆候は収まらず、自分への御褒美でケーキを買って帰る需要も明らかに減少している。その反面、イベントに対する支出は堅調であるため、値頃感のある商材を展開することが重要と捉えている。
	☐	百貨店（外商担当）	・中間層の低迷と富裕層の堅調という傾向は、今後も続く見通しである。ただし、世界情勢や金融市場に想定外の動きが発生すれば、悪化に向かう恐れもある。
	☐	百貨店（売場マネージャー）	・大きな改善や低迷が進む要素はなく、現状の景況感が続く予想される。
	☐	百貨店（管理担当）	・今の厳しい状況が、しばらく続くことを予想している。
	☐	百貨店（マネージャー）	・全体的には変わらないと予想される。特に、国内の中間層の慎重な購買姿勢が変わらないなか、特典をうまく利用した購買姿勢が強いため、従来にないコンテンツによる集客が鍵となる。また、富裕層は一部で値上げ前の特需はみられるが、堅実な消費の内容に変化はないと予想される。空港関連の特需も4月で一巡するため、新たな連携による仕掛けがポイントとなるなか、全体的には変わらないと予想される。
	☐	百貨店（商品担当）	・国内情勢というよりも、日中関係や日米関係、為替、中東情勢といった海外情勢の影響が不透明であり、難しい状況である。
	☐	百貨店（宣伝担当）	・この春も高級ブランドを中心に価格改定が続く見通しであり、中国からのインバウンドの減少が続けば、厳しい状況となる。東南アジアや中東からのインバウンドの誘致を強化しているが、その母数が違うため、営業費の削減を進めざるを得ない。
	☐	スーパー（経営者）	・衆議院選挙の争点でもあった消費税減税が実施されれば、少し消費が上向く。
	☐	スーパー（店長）	・消費税減税などが実現するまでは現状のままである。
	☐	スーパー（店長）	・食品価格の上昇が4月以降もまだ続くため、生活防衛意識から、購買意欲が上向きになることは考えにくい。
	☐	スーパー（店長）	・物価の上昇により、衣料品など、食料品以外への支出が必要最低限となっている。
	☐	スーパー（店員）	・天候の影響で値上がりが進む可能性がある。
	☐	スーパー（企画担当）	・競合店の出店もなく、消費マインドに変化はないと予想される。
	☐	スーパー（販売促進担当）	・コストプッシュ型のインフレが継続しており、従来と同額の値引きやクーポンの魅力が低下している。利益を削ってでも販売促進を進めるかどうか、悩ましい状況である。
	☐	スーパー（企画）	・2月の売上は目標比で103.3%となった。単価上昇の動きが少し落ち着いたことで、前年比でも103.3%となっている。買上点数が戻ってきているが、物価上昇の落ち着きによる回復であるため、売上に大きな影響はない。
	☐	コンビニ（経営者）	・来客数は大阪・関西万博以前の水準にまで減った状態が続くものの、値上げによって客単価が上がっているため、売上はほぼ変わらない。
	☐	コンビニ（店員）	・時期的に売上が伸びるが、物価の上昇によるコンビニ離れの影響もあるため、低い水準での現状維持が予想される。
	☐	コンビニ（店員）	・特に売上が増減するような要素はない。
	☐	コンビニ（店員）	・現状のまま大きな変動はないと予想される。
	☐	家電量販店（店員）	・今と全く変わらず、厳しい戦いが続く。食品関連の消費税の減税時期を早め、客の購買意欲を向上させるとともに、高付加価値の家電商品に目を向けてほしい。
	☐	乗用車販売店（経営者）	・賃上げには期待しているが、先行きは非常に不透明である。
	☐	乗用車販売店（経営者）	・年度末に向けて人の動きが活発になり、自動車の動きも比例して増えるはずが、全く動きがない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	☐	乗用車販売店（販売担当）	・平均株価が上がり、景気が良いような雰囲気はあるが、現場にはまだ実感がない。
	☐	乗用車販売店（役員）	・ガソリン税の暫定税率や、自動車税の環境性能割の廃止といった税制改革は、自動車の需要喚起につながる。ただし、自動車の価格高騰や電気自動車の販売不振への対応遅れが足かせとなり、大きな回復には結び付かない。価格面での訴求や、自動運転機能などの新たな付加価値のある車種の発売が望まれる。
	☐	乗用車販売店（販売担当）	・衆議院選挙の結果を踏まえ、景気回復への期待感はあるが、まだ先の話である。
	☐	その他専門店〔食品〕（経営者）	・インフレが続いているため、所得水準が上向くまでは変化がない。
	☐	その他専門店〔ガソリンスタンド〕（経理担当）	・株価や不動産価格の高騰のほか、人手不足の状況をみれば、景気は良いと判断されるが、実際には物価上昇による経費の増加で収益が圧迫されている。業界では物価上昇分の価格転嫁も難しく、景況感はそれほど良くない。
	☐	その他専門店〔医薬品〕（管理担当）	・感冒薬などの医薬品や衛生用品の売上は、気温の上昇に伴い減少していく。その一方で花粉の飛散も始まっており、花粉症の影響が大きくなることから、予防商材を含めた花粉症関連商品が売上増の中心になる。食品や生活必需品は、値上げの影響で客単価が上昇しているが、買上点数に変化はないことから、今後も同様の傾向が続くと予想される。
	☐	その他専門店〔宝飾品〕（販売担当）	・インバウンドの客層に少し変化がみられることが、どう影響するかは分からないほか、地金相場の高止まりにより、仕入れ、販売共に身動きが取りにくい。
	☐	その他小売〔ネット通販〕（管理担当）	・値上げは今後も増えるが、購入客はそこまで減らないことが予想される。
	☐	高級レストラン（企画）	・中国からのインバウンドの減少を、国内旅行客の増加でカバーする状況が続いており、今後も同様の傾向が続くと予想される。
	☐	一般レストラン（経営者）	・大企業では賃金のベースアップが可能でも、中小企業でも当たり前にならなければ、物価が上昇するなかで、買い控えの傾向は改善しない。
	☐	一般レストラン（経営者）	・物価の上昇に加え、春先はいろいろと物入りであるため、消費者の財布のひもは固く、外食の回数は減少傾向となる。
	☐	一般レストラン（企画）	・ガソリンや軽油の暫定税率廃止、電気代やガス代の負担軽減策など、家計負担の減少策はプラスにはたらくと予想される。ただし、為替相場は安定せず、原材料価格の低下には至っていないため、3月の春闘に期待したい。
	☐	その他飲食〔ジャズバー〕（店員）	・今後も物価の上昇が続くため、安心してお金を使うことができない。
	☐	その他飲食〔ファーストフード〕（店員）	・現政権に交代し、経済が少し回りつつある。消費税減税に向けた動きもあり、景気が良くなっていく期待はあるが、インバウンドの減少もあるため、全体的には変わらない。
	☐	その他飲食〔自動販売機（飲料）〕（管理担当）	・政権も交代し、何となく良い雰囲気になっているが、生活は全く変わらない。
	☐	その他飲食〔洋菓子〕（管理担当）	・食品に対する消費税減税については、一見プラス要素とみられるが、依然として物価上昇の影響は大きく、賃上げが進まない限り、し好品の売上増は期待しにくい。
	☐	観光型ホテル（経営者）	・3月も引き続き、個人客、団体客共に先行予約の状況は順調であり、4月も例年恒例の団体客の予約で順調な動きがみられる。ただし、5月の先行予約は少し厳しい状況である。
	☐	都市型ホテル（スタッフ）	・前年よりも国内客、インバウンド共に予約は伸びているものの、やはり中国からのインバウンドの利用が落ちている。宴会は例年並みを維持し、食堂部門にも大きなプラス要因はないものの、全体としてはプラスで推移している。
	☐	タクシー運転手	・3月に入れば、年度末で利用が増える見込みはあるものの、全体的な見通しは厳しい。
	☐	観光名所（経理担当）	・大河ドラマの影響が続くと予想される。
	☐	遊園地（経営者）	・4月以降の賃上げで、実質賃金の上昇が予想される。それらの見通しが大きく下振れするようなことはない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	ゴルフ場（支配人）	・ 予約状況や単価の動きを考慮すると順調であるが、価格を上げると予約の動きが鈍くなるため、景気の動きに変化はない。
	□	競輪場（職員）	・ 依然として物価が高い状況であり、所得が増えなければ消費が増加することはないため、状況は変わらない。ただし、時期的に新年度が始まり、ゴールデンウィークにも入るため、消費が伸びる期待もある。
	□	競艇場（職員）	・ 賃上げや物価の上昇、海外情勢の変化に加え、政治的な影響など、様々な要因がどのように作用するのか、見極めるのは難しい。
	□	その他レジャー施設 [イベントホール] (職員)	・ 事業収入としては安定しているが、物価上昇の影響は大きく、コストの増加が進んでいる。
	□	その他レジャー施設 [球場] (経理担当)	・ プロ野球が開幕し、公式戦が開催されるほか、多くのコンサートが予定されており、多数の来場者を予想している。
	□	その他サービス [学習塾] (スタッフ)	・ 年度末を過ぎると、退会の動きが一旦落ち着くが、その間に無料体験などで入会者が増える見込みもある。全体としては現状維持か、少し減少する見通しである。
	□	住宅販売会社 (経営者)	・ 当面は仕入コストが安定する見込みであり、一息ついている。
	□	住宅販売会社 (企画担当)	・ 金利の先高感で購買意欲は上向いているものの、価格の上昇で購入層が限られている。
	□	その他住宅 [情報誌] (編集者)	・ 現状は大きな変動要素が見当たらないものの、金融市場等での変動リスクは高まっている。
	▲	一般小売店 [時計] (経営者)	・ 当店の売上は時計の修理が多くを占めており、分解掃除や機械交換などの複雑な修理は、すべて職人に依頼している。徐々に職人の高齢化が目立ってくるなど、心配なことが増えており、当店の景気もその部分にかかっている。
	▲	一般小売店 [衣服] (経営者)	・ 3月から食料品の一部で値上げがあったほか、電気代やガス代も上がると聞いている。生活必需品以外の買い控えが、これまで以上に増えることが懸念される。
	▲	百貨店 (商品担当)	・ 前年の大阪・関西万博の反動があり、苦戦を予想している。直接的な関連商材の売上減少はもちろん、インバウンド需要の低迷に拍車を掛ける状態となっている。それに対応し、改装などで来店動機を高めるほか、新規催事やイベントで集客力の向上を目指す。
	▲	スーパー (経理担当)	・ 中東情勢が流動的になり、原油価格の高騰による更なる物価上昇も懸念される。賃上げがあったとしても、実質賃金の増加が実感できなければ、消費マインドは冷えたままとなる。
	▲	スーパー (開発担当)	・ 毎月、物価の上昇が続いている。賃金が上がらず、物価だけが上がる状況では、景気が良くなる可能性はない。政府の景気対策もまだ実施されていない。
	▲	コンビニ (店員)	・ 早急な物価対策が求められる。
	▲	乗用車販売店 (営業担当)	・ 物価の上昇もあり、新車の価格が上がっている。収入は変わらないなかで、乗換えが困難になってきている。
	▲	都市型ホテル (客室担当)	・ 先行きの見通しは立たず、現政権の動き次第となる。
	▲	旅行代理店 (役員)	・ 物価や人件費、資材価格の高騰により、旅行代金は今後も上昇傾向が続くとみられ、販売量の増加は期待しにくい。2大テーマパークの周年イベントや北米でのサッカーワールドカップ開催といったプラス材料はあるものの、販売への影響は限定的とみられる。
	▲	旅行代理店 (支店長)	・ 新たな交流を促す材料が、現状は見当たらない。客の動きも落ち着いており、旅行以外に楽しみを見いだしている。
	▲	通信会社 (社員)	・ 3月は年間の需要期のピークであるため、5月に入れば閑散期となり、かなり落ち着くと予想される。
	▲	通信会社 (役員)	・ 大手キャリアの3G回線停波による買換え特需はなくなるが、他社との乗換えをめぐるキャリア間競争は続く。一方、客の買換え需要は一定の水準で安定しており、キャリアショップもこれを取り込めている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	その他レジャー施設 〔 飲食・物販系滞在型施設 〕（企画担当）	・今後も中国や香港からのインバウンドの減少は避けられない。台湾からの来訪も一巡したほか、行き先が都市から地方に移っているようで、全体的な動きが減少している。今後はインドネシアやマレーシア、シンガポールなどからのインバウンドの開拓が課題である。
	▲	住宅販売会社（従業員）	・分譲マンション価格の高騰で、投資目的で購入された物件が中古市場に多く出ているが、その販売が進んでいない。金利の上昇もあり、今後は高額物件の売行きが鈍化すると予想される。
	▲	その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕（経営者）	・今後は住宅ローンの未払が増え、企業の資金繰りも悪くなると予想される。
	▲	その他住宅〔展示場〕（従業員）	・金利の上昇により、客の消費マインドは今後更に慎重化する。
	▲	その他住宅〔住宅設備〕（営業担当）	・年度末の動きが一段落すれば、新規の工事件数がかなり減る見通しである。新規工事部門の売上減少は覚悟しておかなければならない。
	×	一般小売店〔ガラス細工〕（店長）	・現状の客足から判断すると、良くなる兆しが見当たらない。
	×	衣料品専門店（経営者）	・お金の使い道が衣料品に向かっておらず、食料品を購入するのが精一杯である。現状は、衣料品を買う機会も意欲もない。
	×	衣料品専門店（経営者）	・物価の上昇に対して、給与所得が増加しない。
	×	住関連専門店（店長）	・例年、春先の年度替わりの頃に、円安が進む傾向がある。また、多くの業界で更なる値上げが予定されているなか、これまでの経験上、当店のようなインテリア関連では客の予算が減り、買い控えが増えたと予測される。
	×	観光型旅館（経営者）	・予約の動きが少なく、進捗率も良くない。
企業 動向 関連 (近畿)	×	観光名所（企画担当）	・引き続き、大阪・関西万博閉幕後の国内客の減少と、中国からのインバウンドの減少による影響が大きくなる。
		木材木製品製造業（経営者）	・現在の為替水準では、以前のような利益が得られなくなっている。ただし、値上げの継続による客の窮状を考えると、容易には値上げできない。以前からより良い条件の仕入先を探しているが、なかなか信頼できる良い仕入先は見当たらないため、今までと同じ範囲で考えるのではなく、更に大きな範囲で探すことを検討している。春からは新たな供給先も含めて、新体制で事業を進めていくことで、業績の改善が見込まれる。
	○	食料品製造業（従業員）	・新規の案件が決まり、当社の弱い地域での販売が増加に転じる。既存の営業地域でも、販売価格の競争もあって多少は苦戦するものの、全体的にプラスとなる予定である。
	○	化学工業（管理担当）	・欧米各国との経済的な連携が進む。
	○	化学工業（企画担当）	・食品需要の低迷期で販売量が落ちているが、春が近づけば、需要が徐々に増えてくる。
	○	電気機械器具製造業（経理担当）	・ゴールデンウィーク頃までは、比較的動きは良いと予想される。例年の季節要因もあるが、今年は設備の改装計画がある取引先も多く、先行きが期待できる。
	○	輸送用機械器具製造業（経営者）	・取扱製品が需要期を迎えるため、良くなる。
	○	建設業（経営者）	・年度末にかけて、少し良くなることが予想される。
	○	輸送業（経営者）	・４月に取引先の担当者の異動が予定されており、その機会に多少の運賃の値上げが期待される。
	○	輸送業（サービス担当）	・政権の安定が株価の上昇につながり、雰囲気良くなっている。
	○	輸送業（商品管理担当）	・例年３～４月は家具販売の繁忙期であるため、売上は増える。
	○	その他非製造業〔衣服卸〕（経営者）	・春先に大企業による大幅な賃上げが進めば、消費の雰囲気は大きく変わる。また、政府による早期の予算執行で減税などが実現すれば、先行きの見通しは明るくなる。
	□	食料品製造業（管理担当）	・今のところは、景気の変動要因が見当たらない。
	□	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	・取引先による格差が広がっている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	出版・印刷・同関連産業（企画営業担当）	・イベントなどの企画も続く予想されるため、売上は微増での推移となる。
	□	化学工業（経営者）	・原材料価格の改定だけではなく、廃番やメーカーの撤退などで、原材料そのものが入手できないケースも多い。その対応に追われて、売上の向上策にまで手が回らない。
	□	プラスチック製品製造業（経営者）	・一時は受注の間隔が開いていたが、元に戻った。ただし、在庫調整は終わったようであるが、受注が増える見通しはなく、一定の間隔が続くと予想される。
	□	窯業・土石製品製造業（管理担当）	・食料品に対する消費税の2年間の減税措置などが一時的には奏功するが、財政規律の問題で更なる円安が進めば、物価の上昇が収まらない可能性もある。全体としては、一進一退で変わらないと予想される。
	□	金属製品製造業（製造担当）	・変わらないか悪くなるかのどちらかであり、物価の上昇が続くなかで、注文が増えることはない。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	・現状は引き合いなどが上向いているが、この3か月程度の景況に変化はない。
	□	一般機械器具製造業（設計担当）	・賃上げの動きが物価上昇を上回ることができず、消費者の動きは今後も厳しいと予想される。
	□	電気機械器具製造業（宣伝担当）	・季節要因による荷動きの変動はあるものの、景気の変動とは言い難い。
	□	建設業（経営者）	・働き方改革の影響で工期の設定が厳しく、建設資材価格の高騰や人手不足のなかで、受注競争が繰り広げられている。
	□	建設業（経営者）	・積雪の多かった冬が終わり、多少の需要喚起が期待されるが、賃金のベースアップが物価の上昇を上回るかどうかは定かではない。
	□	金融業〔保険〕（経営者）	・業種にもよるが、消費税率が下がっても物価の低下は期待できず、景気の上昇も見込めない。
	□	広告代理店（管理担当）	・原価の高騰が続いているほか、最低賃金が上がっている。
	□	司法書士	・衆議院選挙は終わったが、2～3か月で大きな変化はない。
	□	その他サービス〔自動車修理〕（経営者）	・年始早々から忙しくなく、今後も大きく変わる要素がない。
	□	その他サービス業〔店舗開発〕（従業員）	・中国からのインバウンドの減少による影響は、ホテル業界では深刻な問題である一方、国内客の動きは活発化している。また、韓国や台湾、東南アジアからのインバウンドは引き続き堅調に推移していることから、大きなダメージはない。国内の物価上昇についても、今のところ大きな影響はない。
	□	その他非製造業〔機械器具卸〕（経営者）	・ここ2～3年の間に、商品の値上げが頻繁に行われてきたが、今年も値上げの動きが続いている。
	▲	食料品製造業（営業担当）	・3月以降は、一部の飲料価格が上がる予定である。売上の構成比が高い商品でもあるため、売上は少し悪くなると予想される。
	▲	繊維工業（総務担当）	・問屋への販売が本来の流れであるが、エンドユーザーへの販売がメインになりつつあり、問屋は集客をしているだけになっている。
	▲	その他製造業〔履物〕（団体職員）	・良くなる要素がない。
	▲	輸送業（営業担当）	・日中関係が改善されない限り、売上が減少すると予想している。
	▲	金融業（営業担当）	・受注が増加しても請負単価が上がらず、引越時期に業務が集中して経費も増加するため、年間を通した利益の確保は厳しい。
	▲	広告代理店（営業担当）	・例年、年度初めは広告出稿が控え気味になる。
	▲	経営コンサルタント	・米国のイラン攻撃が、商売に悪影響を及ぼさないと考えている経営者はいない。
	×	輸送業（営業担当）	・利益の確保のため、通販以外の運賃を上げ過ぎた結果、高額になった一般の荷物の送り控えが増えている。
	×	その他サービス業〔受託調査〕（調査担当）	・仕入先からは値上げを要請され、販売先からは値下げを要請される状況が、今後も続く。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	その他非製造業〔電気業〕（営業担当）	・景気の見通しは厳しい状況である。経済対策などを講じる際は、リスクの明示が必要であるが、そのリスクを取りながら実施することでもある。
雇用 関連 (近畿)		-	-
	○	人材派遣会社（営業担当）	・新たに発足した安定政権の下で、積極的な財政政策が実施され、物価の上昇や社会保険料負担の増加など、国民の将来不安が徐々に解消されることで、消費意欲の向上が期待できる。
	○	民間職業紹介機関（営業担当）	・景況感への影響はないものの、インターンシップ関連の広報の前倒しが進んでおり、4～6月頃に求人メディアへの掲載やイベントの出席が増える見込みである。
	□	人材派遣会社（役員）	・外部環境に対する、先行き不透明感と期待感がきつ抗している。
	□	人材派遣会社（支店長）	・現時点で状況が好転するとの見込みは立たない。
	□	人材派遣会社（管理担当）	・ここしばらくは、景気の良くなる要因が見受けられない。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・地元企業の動きをみると、販売や宣伝、プロモーション費の動きが鈍い。
	□	新聞社〔求人広告〕（営業担当）	・新内閣が発足し、これから様々な政策が議論されるが、短期的に大きな変化はない。
	□	職業安定所（職員）	・物価上昇や人件費の負担増に関する声もあるが、人材確保のための求人もあるため、大きくは変わらない。
	□	職業安定所（職員）	・米国や中国経済の減速や、米国の関税引き上げの影響などを考慮すると、状況は変わらない。
	□	職業安定所（職員）	・物価の上昇や人件費の上昇による影響が出ているが、人手不足の解消を優先する事業所が多く、求人数に大きな変化はないと予想される。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・就職関連では、悪影響と好影響のいずれの材料も見当たらない。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・一般企業の来年度の採用活動は既に始まっているが、医療技術職の採用活動は準備段階である。求人数はコロナ禍以前の状況に戻っているものの、医療機関によっては人手不足への対応が大きいようである。
	□	その他雇用の動向を把握できる者	・大手企業を中心に、人員整理の実施や予定があるため、求職者の増減には注意が必要となる。
	▲	人材派遣会社（営業担当）	・今後は労働力不足が更に深刻化するなかで、企業側は現社員の雇用維持や処遇確保に注力せざるを得ない。そのため、新規採用における賃金引上げなどの処遇改善にまで手が回らないのが実情とみられる。
	▲	職業安定所（職員）	・時期的な影響で求人数は増加しているが、4月から離職者が増えることで、求人倍率は低下する。また、現状は余り影響がみられないが、日中関係の変化により、ホテル需要への影響が懸念される。
	▲	職業安定所（職員）	・人手不足の企業がある一方、黒字リストラの情報もあり、求職者の増加が懸念される。
	▲	学校〔大学〕（就職担当）	・米国の関税問題への懸念が払拭できず、景気の悪化傾向が予想される。
	×	民間職業紹介機関（職員）	・建設業においては、年度初めから梅雨が明けるまで、仕事が少ない傾向となる。

9. 中国（地域別調査機関：公益財団法人中国地域創造研究センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (中国)		高級レストラン（事業戦略担当）	・4月以降、気温が上がる予報が出ており、行楽には最適な季節になる。
		一般レストラン（経営者）	・食料品の消費税減税が実施されれば、今より景気が良くなるとみている。
		バー（経営者）	・新年度、ゴールデンウィークで来客数の増加が見込める。
		観光型ホテル（予約担当）	・例年3月中旬以降は来客数が増える。既に予約が多く入っており、満室の日も出ている。
		テーマパーク（営業担当）	・春の繁忙期に向かい、天候、気温、花の開花等の条件次第で良くなるとみられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
		競艇場（企画営業担当）	・ 4月中旬に全国発売のG1競争があるため、電話投票の売上はもちろん、本場売上も期待できる。
	○	商店街（代表者）	・ テレビドラマの効果を踏まえ、人の動きに期待している。
	○	一般小売店〔洋裁附属品〕（経営者）	・ マンション建設が進むことで、客の動きが出てくることを期待する。
	○	スーパー（店長）	・ 今後、大きな回復は見込めないものの、徐々に回復に向かうと予測される。商品によっては値下げが進んでおり、依然として高い水準ではあるが、ガソリン代も一時の高騰から下がっているため、生活インフラ面での負担軽減が大きな影響を与えられられる。
	○	スーパー（店長）	・ 政府の食料品消費税の減税が実施されることを期待したい。実施されれば景気は少し良くなってくるようにみえる。
	○	スーパー（業務開発担当）	・ 賃金の上昇がようやく効果を見せ始めている。ただし、節約するならまず食品からという考え方を払拭するには、まだ時間がかかる。
	○	スーパー（営業システム担当）	・ 少なくとも来客数が激減するような荒天はないとみている。
	○	コンビニ（店長）	・ これから人も物も活発に動く時期に入っていく。例年どおりなら、来客数も売上も増加すると予想している。ただし、物価の上昇が少しずつでも続いていることが懸念材料となっている。
	○	衣料品専門店（経営者）	・ オンラインで購入する客の実店舗への回帰がある。
	○	乗用車販売店（営業担当）	・ 自動車取得税環境性能割がなくなるとの報道があり、3月は買い控えが懸念される。4月以降は支出が抑えられるため、販売台数の増加を期待する。
	○	乗用車販売店（営業担当）	・ 新型車の注目度が高いため、販売量は良くなる見込みである。
	○	乗用車販売店（業務担当）	・ 国家予算など審議が進み、税金改定で販売台数も上昇傾向となる。
	○	その他専門店〔土産物〕（経営者）	・ 景気対策のプレミアム付商品券が配られるため、地元客の消費に期待している。近隣のバイパス道路が部分開通することで、来客数が増えると予測している。
	○	その他専門店〔革製品〕（店主）	・ ここ最近、オーダーメイドの依頼が増え、やや良くなると見込んでいる。ただし、常連客からの依頼が多く、新規の客は増えていないため、この状況が今後も続くかどうかは不透明である。
	○	都市型ホテル（企画担当）	・ 繁忙期に入るため景気は良くなる。
	○	旅行代理店（支店長）	・ 前年は大阪・関西万博の影響もあり、宿泊を伴う旅行が少なかったが、今年はその反動を期待したい。ゴールデンウィークに向けて商品の拡充を予定している。
	○	タクシー運転手	・ 現政権により様々な課題をよりスピーディーに打破して進むことを期待する。
	○	タクシー運転手	・ 年末から気温の低い日が続いている。寒さの影響により人出が鈍り、乗車が伸び悩んでいる。今後の天候の回復とともに数字の改善が期待できる。
	○	通信会社（企画・総務担当）	・ 新生活を始める人が増える時期になり、インターネット市場の販売競争は激しくなることが予想されるが、景況感は良くなるとみている。
	○	通信会社（企画担当）	・ 新年度を迎えるに当たって、新商材や新サービスの話題は少ないものの、現政権の前向きな方針が影響し、消費ムードが改善されることへの期待が高まっている。
	○	通信会社（総務担当）	・ 衆議院選挙が終わり、政権運営も安定してくるため、景気がやや良くなるとみている。
	○	通信会社（運用担当）	・ 衆議院選挙の結果を受けて、景気が良くなることが期待される。
	□	商店街（代表者）	・ 新政権の政策が実を結ぶはずだが、まだその兆候はない。
	□	一般小売店〔食品〕	・ 商品の値上げは続いており、客の節約志向により販売数量は減少している。商品単価の上昇により売上を維持している状況である。
	□	一般小売店〔印章〕（経営者）	・ 年度替わりの繁忙期を過ぎて通常状態に戻る。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	☐	一般小売店〔茶〕（経営者）	・この時期は決算なので、抹茶ブームで増えた在庫管理など、内部の整理に集中する。
	☐	百貨店（広報担当）	・来客数、売上共に大幅な増減がなく、おおむね前年並みで推移しており、引き続き、同様の動きになると見込んでいる。
	☐	百貨店（営業担当）	・高額商品を購入できる客とそうでない客の格差が広がっており、この状況は変わらない。
	☐	百貨店（営業担当）	・景気が変わる大きな要素がない。
	☐	百貨店（営業担当）	・消費生活において、物価高などのマイナス要因しかみえない。
	☐	百貨店（外商担当）	・株価は高値を更新しているが、物価高や価格改定が続いており、客の消費マインドに大きな変化はない。
	☐	スーパー（店長）	・割引日やチラシ特売日に客が集中し、節約志向は続いている。
	☐	スーパー（販売担当）	・政府の物価対策次第ではあるが、現在の円安水準がどのように変動するかによって、販売量が変化するとみられる。
	☐	スーパー（販売担当）	・客の節約志向が根強く、少しでも高単価な商品は気に入っても購入しない。
	☐	コンビニ（副地域ブロック長）	・大きな環境変化がないため、来客数の減少は続くとみている。高温傾向の夏なら、来客数の増加が期待できる。
	☐	衣料品専門店（経営者）	・景気が良くなる要素がみえてこない。
	☐	衣料品専門店（経営者）	・日用品や買回品の値上げが続き、厳しい状況は続く。
	☐	衣料品専門店（代表）	・食品の消費税減税の案もあるが、同時に所得税増税の案も検討されているため、これが実施されれば一段と消費が冷え込むと予測される。
	☐	家電量販店（店長）	・物価上昇により客の節約志向は一層高まっており、来客数の減少や販売量の伸び悩みが課題となっている。
	☐	家電量販店（企画担当）	・政府が新しい経済政策を講じれば状況は変わるかもしれないが、現時点ではその動きが見えないため、このままだと何も変わらない。
	☐	乗用車販売店（経営者）	・車の買換えは少ないため、景気が良くなる材料はないが、車検や整備等で何とか対応できると考えている。
	☐	乗用車販売店（店長）	・需給バランスが取れていない状況に改善の見込みがない。
	☐	乗用車販売店（リース担当）	・新政権によって景気は徐々に回復すると期待されるものの、すぐに好転するわけではない。
	☐	乗用車販売店（統括）	・新型車も出ず、景気が良くなる材料が見つからない。
	☐	その他専門店〔和菓子〕（経営者）	・大きな変化はないとみられる。
	☐	その他小売〔ショッピングセンター〕（支配人）	・中国からのインバウンドの減少は、その他地域の観光客で何とかカバーできている。直近ではイベント需要や話題商品が売れており、前年並みの売上は確保できる見込みである。
	☐	一般レストラン（経営者）	・更なる物価高が続くばかりで、景気対策の実行が追いついていない。
	☐	一般レストラン（経営者）	・米の仕入価格は徐々に下がる傾向にあるが、その他の食材は現状維持や値上げが続いており、利益率の回復には至っていない。本年度の予算が国会で承認され、新年度の予算方針がみえてくるまでは、現状の流れが続き、節約ムードを払拭することはできないとみられる。
	☐	一般レストラン（店長）	・原材料費高騰や値上げなども続いており、現状の厳しい状況はしばらく続くともみられる。
	☐	都市型ホテル（宿泊担当）	・物価上昇による家計負担が続く一方、旅行需要は底堅く推移しているため、身の回りの景気は良くも悪くもならず、現状維持と見込んでいる。
	☐	都市型ホテル（総支配人）	・3月と4月の宿泊予約ベースは前年とほぼ同じで、2月も同じような動きをしている。
	☐	都市型ホテル（宿泊担当）	・需要を促すイベントもないため、大きな変動はないものと予測している。
	☐	放送通信サービス（総務経理担当）	・関税問題などの影響が家庭消費に現れるとしても、それは4か月以上先になると予測される。
	☐	テーマパーク（業務担当）	・事前予約は少なく、天候状況で直前での増減になるとみられ、見通しが立たない状況である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	ゴルフ場（営業担当）	・ ゴールデンウィーク期間の予約状況は順調に伸びているが、前後の集客が少ない。全体的にみれば例年と変わらない。
	□	美容室（経営者）	・ 消費税減税の案もあるが、特別な施策の効果がなければ、景気回復は難しい。
	□	設計事務所（経営者）	・ 建築費の高騰や人手不足から、客の要望となかなか一致しない事例が多い。
	□	住宅販売会社（住宅設計担当）	・ 着工数の減少と資材価格の高騰による住宅価格への影響に鑑みると、将来的に販売量は減少の一途をたどることになる。その状況のなかで、各メーカーがシェアを獲得するために競争が激化すると考えられる。
	▲	商店街（理事）	・ 景気が上向く雰囲気はない。客は生活の厳しさを実感している様子で、消費意欲が低い。景気が良くなる要素はない。
	▲	商店街（代表者）	・ 客は迷った末に購入しない状況が続いており、購買意欲の低下に伴い対応に苦慮している。この状況がいつまで続くのかは不透明である。
	▲	一般小売店〔眼鏡〕（経営者）	・ 物価が高止まりしているが、地方ではまだ給与が上がっていない。
	▲	百貨店（売場担当）	・ 商圏として景気が良くなる要素は見当たらず、春以降も現状の厳しい状況は続くと思料する。当店の事情で食品部門がしばらく閉鎖されるので、当館全体の集客も減少するとみられる。
	▲	スーパー（店長）	・ 店舗で取り扱う商品の原価は引き続き上昇傾向にあり、人件費も増加しているため、商品価格への転嫁が続くサイクルは今後も続くと思料される。
	▲	スーパー（財務担当）	・ 物価の上昇による節約により、1人当たりの買上点数が減少し続ければ、売上が前年実績を下回る状況が予想される。
	▲	コンビニ（支店長）	・ 売上改善が人件費高騰に追い付いておらず、経営が悪化している。
	▲	家電量販店（副店長）	・ 引っ越し需要やシングル需要の低迷が今後も続くと思料され、テレビ、冷蔵庫、洗濯機、パソコンといった大物商材の販売台数の減少も見込まれる。
	▲	乗用車販売店（営業担当）	・ 例年であれば、決算期を終えると市場の動きが低迷してくる。この状況が来期のスタートに必ず影響を及ぼすことが予想されるため、何か策を講じて改善していかなければならない。
	▲	自動車備品販売店（経営者）	・ 円安が続くなか、輸出企業や株価で利益を上げている人とは異なり、国内の一般業者はますます買い控えの影響を受けることになる。値上げが可能な業者にはまだ救いがあるが、値上げを転嫁しにくい業者は更に厳しくなる。
	▲	観光型ホテル（副支配人）	・ ゴールデンウィークの時期を含め、例年であれば宿泊予約が増えるが、4月からの宿泊税導入の影響なのか、出だしが鈍い。
	▲	タクシー会社（営業所長）	・ 足元の需要減退は一時的な現象にとどまらず、先行きも厳しい環境が続くと見込まれる。地域経済の停滞感は払拭されず、消費行動の回復にも明確な兆しはみられない。イベント需要や新規出店による活性化も期待しづらく、市場全体として再び上向く要素は乏しいのが実情である。
	▲	通信会社（営業担当）	・ 物価高が解消される気配がなく、節約志向がより高まる。
	▲	通信会社（広報担当）	・ 質より価格の低い物を求める様子に変化はなく、景気は上向かない。
	▲	美容室（経営者）	・ 春から物価が上昇するとの報道を受け、客の節約意識が高まり、景気は悪くなる。
	▲	美容室（経営者）	・ 物価高の影響で、しばらくは客の消費動向が低調になると予想される。会社側も物価高や消費税、最低賃金引上げなどによる費用増加で利益が圧迫され、雇用の枠を狭める可能性があると思料している。
	▲	設計事務所	・ 新規案件の相談が少し減ってきている。
	▲	住宅販売会社（事業推進担当）	・ 高額物件が増え、購入したいが購入できない人が増えてくることで、安価な在庫物件のみが販売進捗が見込める状況になりそうである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	×	コンビニ（エリア担当）	・米や小麦を始め、商品の価格が大幅に上昇している。3月には雑貨類や調味料、コーヒーも値上がりする見込みである。政府による物価対策の効果がなければ、コンビニは値段が安くないため、非常に厳しい状況になる。今後も売上は下がっていくとみられる。
	×	自動車備品販売店（経営者）	・少子高齢化が進み、需要が減る。
	×	その他専門店〔宝石店〕（店員）	・インバウンドの減少に加え、物価上昇や金価格の高騰を背景に、3月以降は1～2割の価格上昇が予定されており、客の買い控えが予想される。
企業 動向 関連 (中国)		輸送用機械器具製造業（経営者）	・2～3か月先も、現状と同様に忙しい状況が続く見込みである。
	○	食料品製造業（営業担当）	・他社が値上げを発表しており、当社に受注が流れてくる可能性が大きい。
	○	繊維工業（財務担当）	・新年度以降もこの状況は続く。
	○	輸送業	・受注が増えている。
	○	輸送業（企画担当）	・現内閣に期待したい。
	○	通信業（企画担当）	・AI関連投資の動きが活発化しており、それに関連するデータセンターやクラウド、DXに関わる関連機器やサービスへの動きが活発化すると予想される。
	○	通信業（営業担当）	・DXやセキュリティ対策等に対する需要は高まっているとみられる。
	○	金融業（経済産業調査担当）	・高水準の賃上げが続くことによる県内需要の持ち直しに期待する。
	○	金融業（副支店長）	・地域内の公共受注増加が継続しており、併せて下請企業である中小企業への受注量も増加し、末端企業まで潤ってくると予想する。
	○	不動産業（総務担当）	・賃貸住宅の需要時期であり、やや良くなると予測する。
	○	会計事務所（経営者）	・補助金を活用した設備投資計画策定支援業務が増加している。補助金枠は拡大しているため、今後、取扱件数の増加が期待できる。
	□	農林水産業（従業員）	・好転する要素がない。
	□	食料品製造業（経営者）	・4月に再度値上げが実施されるため、当面厳しい状況が続く。物価高の影響で、消費動向は更に慎重になりそうである。
	□	化学工業（総務担当）	・電子材料の伸びはあるものの、セメントは国内需要の低下がまだ底を打っていない。また、化成品、特にポリ塩化ビニルについては、中国製品の国内市場への流入が続いており、その状況は改善されていない。
	□	化学工業（総務担当）	・仕入れ、販売共に荷動きが安定しない。また、取引先における事業再編等の動きを注視している。
	□	窯業・土石製品製造業（総務経理担当）	・輸出、国内需要共に変化はなく、現在の生産水準が続く見込みである。
	□	鉄鋼業（総務担当）	・各分野とも好転する材料がない。
	□	金属製品製造業（総務担当）	・受注に関して、客先から悪い話は聞かないため、今と同程度の生産は続くとみられる。
	□	一般機械器具製造業（管理担当）	・農業機械分野では販売増加が見込めるものの、産業機械分野では国内需要の落ち込みがあるため、おおむね現状と変わらないと見込んでいる。米国の関税に動きがあり、影響が読めない状況である。
	□	一般機械器具製造業（総務担当）	・受注量や販売量の動きに変化はない。
	□	輸送用機械器具製造業（経理担当）	・受注先の内示情報によると受注量に変化はない。
	□	建設業	・新年度予算がいつ承認され、実行されるかがまだみえてこない。
	□	建設業（経営者）	・受注価格が上昇傾向となっている影響がどのような形で現れるかが予測不能な面もあるが、現状は変わらないとみられる。
	□	建設業（総務担当）	・不確定な面もあるが、安定して今後に向けた案件が控えている。
	□	輸送業（業務推進担当）	・特に大きなプラス要素やマイナス要素もなく、取引先の動向にも目立った様子はない。
	□	輸送業（営業担当）	・顧客ヒアリングにおいて大きな変化はない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
(中国)	▲	非鉄金属製造業（業務担当）	・ 中国政府が国内向けの両用品目の輸出管理を大幅に強化したことが影響を与えると予想している。
	▲	電気機械器具製造業（総務担当）	・ 部材の値上げや労務費の上昇が続いている影響で利益が圧迫されており、改善するとは言い難い。
	×	-	-
		民間職業紹介機関（人材紹介・派遣担当）	・ 年度替わりのタイミングとなるため、第2新卒の転職活動が活発化している。また、この4月に入社する新入社員のうち、既に6割が転職サイト等へ登録している。
	○	人材派遣会社（事業部長）	・ 診療報酬の改定効果により、急性期病院の採用ニーズが拡大する見込みである。
	○	人材派遣会社（経営企画担当）	・ 求人企業は当初の予想を上回る形で価格改定に応じており、受注単価や売上の増加を促進しているため、2～3か月先の景気はやや良くなるとみている。一方で、地元中小企業が賃上げトレンドにどこまで対応できるかは不透明で、企業によっては人材不足にもかかわらず派遣離れもみられ、下振れ要因になり得る。
	○	求人情報誌製作会社（総務担当）	・ 例年のことだが、新年度を迎えるに当たり、気持ち的に前向きになり、期待を込めて景気は良くなると予測している。また、広告掲載量も増加すると考えている。
	○	職業安定所（事業所部門）	・ 最低賃金引上げによる影響も多少落ち着きを見せてきている。
	□	人材派遣会社（支店長）	・ 良くも悪くも大きな変化はなく、業界全体でも同じような状況である。
	□	人材派遣会社（求職者対応）	・ 例年5月と6月の入社希望者は少ない。
	□	求人情報誌製作会社（新卒採用担当）	・ 新卒学生向けのサービスは年間契約となるため、2～3か月先の景気は変わらない。
	□	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・ 設備投資や良い人材の確保には、引き続き意欲的な企業が多く、良くなる要素は多分にあるが、最終的には春の賃上げ状況次第といえる。
	□	職業安定所（職員）	・ 衆議院選挙の結果を受け、国民が求める強い経済への期待感があるものの、来年度の予算案も通過しておらず、今後の施策に不透明感が残る。
	□	職業安定所（事業所担当）	・ 求人票の提出状況に大きな変化はみられないこと、また、管内に景気動向に影響を与えるような要因は見当たらないことから、今後も現状が続くと考える。
	□	民間職業紹介機関（職員）	・ 幾ら採用ニーズがあっても人がおらず、入社してもすぐにやめるという状況が続く限り成長は見込めず、現状維持が精一杯の企業も多いのではないかと考えられる。その結果、国力の低下が懸念される。
	□	学校〔短期大学〕（進路指導担当）	・ 2027年卒の採用活動は早期から活発な状態が続いており、3か月後もこの高水準な求人意欲は維持されるとみられる。人手不足による売り手市場に変化はなく、企業の採用意欲が減退する兆しも、逆にこれ以上過熱する材料も見当たらない。
	▲	職業安定所（職員）	・ 大手企業の工場閉鎖が決まったとの新聞報道があった。一時的に雇用や失業情勢が悪化するとみられる。
	▲	学校〔大学〕（就職担当）	・ 日中関係から我が国の経済が傾き始め、求人数にも影響が出る可能性がある。
	×	-	-

10. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (四国)		-	-
	○	商店街（代表者）	・ 官公庁の来年度予算編成の発表があったが、経済対策等における予算が計上されている。商店街のイベント等にも予算や補助金等が期待できるため、そのような雰囲気を経済界全体に浸透すれば、経営者マインド、消費者マインドに良い影響を与える。
	○	スーパー（店長）	・ 政府の経済対策の効果により、景気が良くなるとみられる。
	○	衣料品専門店（経営者）	・ 今後2～3か月先は、多少景気が良くなるとみられる。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	衣料品専門店（経営者）	・ 3月はいよいよ春を迎えることになるため、客の気持ちも変わって動きが多少変わるとみられる。
	○	その他専門店〔酒〕（経営者）	・ これから春になって気温が暖かくなると、会社関係の入社式などでいつものように少し物が売れるとみられる。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（館長）	・ 好調な業種の増床リニューアルを実施しており、売上、集客共に今月の状況より上向くとみられる。
	○	一般レストラン（経営者）	・ 春は人が移動する時期でもあり、卒業、入学、就職等、食事の機会は多くなり必然的に客足は伸び売上は増加する。
	○	都市型ホテル（経営者）	・ 4月中旬に全国規模のセミナーが当県で開催され、多くの客をお迎えするため人流が良くなり販売量が増えると思われる。
	○	旅行代理店（部長）	・ 政策に寄せる期待感や大規模な経済対策による自治体関連業務の拡大により、売上は増加するとみられる。
	○	タクシー運転手	・ 新年度が始まり、歓迎会等の需要で夜の売上は増加するが、昼の状態は変化がないとみられる。タクシー、ハイヤーの稼働率は低調に推移している。
	○	通信会社（営業部長）	・ 業界として年間最大の商戦期であり、売上は増加するとみられる。
	○	通信会社（営業担当）	・ 節約志向は強いものの、新生活シーズン需要で来客数は増加している。
	○	観光遊園地（主幹）	・ インバウンドが好調に推移しているほか、卒業旅行や春休みなどによる集客が期待される。
	○	美容室（経営者）	・ 3～4月は卒業、入学、入社式その他イベントが多くなる時期であり売上は増加する。
	○	設計事務所（所長）	・ 3月から適用される設計技術者の単価は、5%程度アップした。これにより設計料の方も上げていく根拠ができたと思われる。
	□	商店街（代表者）	・ 金利が上昇志向にあるが、インフレによる株価上昇は可処分所得の増加につながり、都市も地方も区別なく消費経済の恩恵を受けやすい。同時に日本産業の技術力がどんどん見直され、資源保有国に変貌すれば、少し地方創生にも恩恵があるとみている。
	□	商店街（常務理事）	・ 中東情勢が不安定化しており、世界的なエネルギー価格の上昇が避けられない。従来の物価高に加え、今後は更なる光熱費、ガソリン代、原材料価格上昇が転嫁された商品価格等の高騰により、数か月単位で景気の見通しは暗くなるとみられる。
	□	一般小売店〔生花〕（経営者）	・ 物価の上昇分くらいの値上がりは受け入れられてきている。購入する人としらない人に分かれてきている。
	□	百貨店（マネージャー）	・ インバウンドの急速な回復は見込めない。
	□	スーパー（店長）	・ 急激に買い控えが解消される要因が見当たらない。
	□	スーパー（企画担当）	・ 単価上昇が続いていることから、今後も売上は増加するが、来客数については厳しい状況が続くとみられる。
	□	スーパー（人事）	・ 政権への期待、経済政策など追い風はあるが、効果が出るにはそれなりの時間が必要である。
	□	スーパー（財務担当）	・ 今後も単価の上昇が続き、買上点数が伸びないとみられる。
	□	コンビニ（店長）	・ いろいろな販売施策で改善を図るものの、効果は見られない。また、好転につながるいい情報もなく、この現状がしばらくは続くのではないかと考えている。
	□	コンビニ（商品担当）	・ 物価の上昇に収入の増加が追いついていない。
	□	衣料品専門店（営業責任者）	・ 物価高の影響が響き、客は衣料品への支出を減らしている。この傾向がしばらく続くとみられる。
	□	家電量販店（店員）	・ 夏ボーナス前の閑散期に入るため販売量は伸びないと考えられるが、エアコンの早期購入等で下支えがあるとみられる。
	□	家電量販店（副店長）	・ 4月以降の各物価上昇の懸念もあり節約志向は続くとみられる。
	□	乗用車販売業（営業担当）	・ 今後も販売停止車種が続く見込みで、大きな改善は期待しにくい。
	□	乗用車販売店（従業員）	・ 自動車関税引上げの影響が懸念されるが、現状のままである。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	乗用車販売店（役員）	・物価上昇に対して、物価対策等の動きが景気にどのように影響するのかわからない状況である。
	□	観光型旅館（経営者）	・3月は繁忙期でもあり客単価も上昇しているが、目標の稼働率を維持している。
	□	競艇場（マネージャー）	・2月の衆議院選挙の結果により、株価の上振れが予想され、富裕層の遊興資金が増えることで大口の舟券購入が増えるとみられる。
	▲	商店街（代表者）	・人手不足による人材難と仕入価格の高騰等が要因で厳しい状況が続いている。客は少しでも価格の低い店へ流れているような気配がある。
	▲	スーパー（統括担当）	・財布のひもの締めは、ますます厳しくなるとみられる。
	▲	コンビニ（店長）	・来客数が増加しない。今後更に減少するとみられる。
	▲	コンビニ（総務）	・現在は好調だが、維持できる要素が見当たらない。
	▲	衣料品専門店（経営者）	・米国の関税などの影響により、景気が不安定である。
	▲	美容室（経営者）	・前年から徐々に売上が減少している。
企業 動向 関連 (四国)	×	-	-
	○	食料品製造業（商品統括）	・自社の強みをアピールできる商品のシリーズ化が進みつつある。
	○	パルプ・紙・紙加工品製造業（経理）	・12月に年末掃除のためウェットクリーナーが売れた反動で、1～2月の売行きは悪い。3月以降は徐々に回復するとみられる。原材料等の高騰で製造原価が増加しているが、売価に価格転嫁ができていない。また、卸売業、小売業はこちらの値上げ要請に難色を示しており、交渉が難航している。
	○	化学工業（所長）	・政策に期待している。
	○	鉄鋼業（総務部長）	・造船業界の活性化に期待している。
	○	電気機械器具製造業（経営者）	・カーボンニュートラルの資源を新しく作り出す仕事において、周囲の意識が高まり、事業化が視野に入る状況である。
	○	電気機械器具製造業（経理）	・衆議院選挙の結果により、現政権の経済対策の実行が想定される。
	○	通信会社（総務担当）	・年度末に向け受注量は増加傾向であり、計画を超えて推移している。
	□	食料品製造業（経営者）	・引き続き、原材料コストは特に海外原材料を中心に高値で推移するとみられる。
	□	繊維工業（経営者）	・人件費や段ボール、パッケージ等の副資材が3～4月から値上げラッシュになるが、一部商品を値上げしたことで、コスト増分はおおむねカバーできている。進学、転勤等のシーズンでもあり、繊維雑貨は贈答品としての購入が増える時期であり、受注維持できるとみられる。
	□	木材木製品製造業（営業部長）	・大手住宅メーカーの受注量は減少傾向にあり改善は見込めない。価格転嫁しないと利益確保ができない状態が続くため、早急な対応が必要である。
	□	建設業（経営者）	・新年度予算の早期成立や物価対策の実施状況に影響を受ける。
	□	建設業（経営者）	・予算成立の状況と公共工事の動向に左右される。
	□	輸送業（経営者）	・政権が安定するという要因が大きいとみられる。
	□	通信業（企画・売上管理）	・特に良くなるトピックスがない。
	□	不動産業（経営者）	・金利の上昇、建築費の高騰等のマイナス要因が常態化している。
	□	広告代理店（経営者）	・ホテル、旅行等の観光関連の販売促進及び採用関連は増加する。物販等小売流通関係の客先の販売促進は削減傾向が続いており、全体としては変動がないとみられる。
	□	税理士事務所	・好景気になる周りの変化はない。
	▲	金融業（副支店長）	・物価高騰に対し賃金の増加ペースは遅れている。さらに、春からローンの金利の引上げが見込まれており、住宅等の建築関係件数の落ち込みが懸念される。
	×	-	-
雇用 関連 (四国)	○	-	-
	□	人材派遣会社（オフィス責任者）	・新入社員を迎え、一旦は育成時期になるため求人数も落ち着く時期である。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	□	求人情報誌（営業）	・業種や業態、職種による増減はあるが、全体として深刻な人手不足は継続する見込みのため、景気は横ばいとみられる。
	□	職業安定所（求人開発）	・衆議院選挙の結果により、我が国の政策の方向性に期待している企業は多くあるが、今すぐに結果が現れるとは考えられない。
	□	民間職業紹介機関（所長）	・求人職種によってばらつきが多く、景気が上向く可能性は低いとみられる。
	□	学校〔大学〕（就職担当）	・人手不足感は構造的な問題で大きく変化がない状況である。
	▲	人材派遣会社（総務部長）	・最低賃金引上げが大きなポイントになる。
	▲	求人情報誌製作会社（経営者）	・異動時期が落ち着き、求人数が若干減少するとみられる。
	×	-	-

11．九州（地域別調査機関：公益財団法人九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、＊：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向 関連 (九州)		住関連専門店（従業員）	・高単価の秋冬商材と比較すると手頃な春夏商材にこれから移行するため、物価高が続く中でもニーズがある商材に店内が切り替わる。今後は来客数増加が期待できる。
	○	商店街（代表者）	・3月は年度末のノベルティや経費の消化、4月は年度初めの経費が多く出るため、景気は上昇する。ゴールデンウィークを過ぎると一気に尻すぼみになっていく。
	○	商店街（代表者）	・3月は異動時期であるため人の流れも多くなり、消費動向に期待している。
	○	商店街（代表者）	・春先に向けて人の動きが活発化する。出歩く機会が増えるため心が明るくなり、販売量も増加すると予想している。
	○	一般小売店〔生花〕（経営者）	・これから3～4月は卒業式や退職、異動等で花束が売れる時期となり、予約も入っているため売上に期待している。様々な資材や材料費の高騰のため、利益率は下がるが、できる限り努力していく。
	○	百貨店（企画担当）	・新しい経済対策の実施時期等が明確になれば、売上増加に転じると考えている。
	○	百貨店（企画担当）	・ゴールデンウィークなどの大型連休で集客と需要が見込める。
	○	百貨店（営業企画担当）	・今後は政治刷新に伴う経済対策に期待している。
	○	スーパー（企画担当）	・来客数は引き続き前年を下回っているが、プレミアム付商品券の発行等や消費喚起の施策が控えているため、この先の景気はやや良くなると予想している。
	○	コンビニ（エリア担当）	・物価対策に期待している。
	○	コンビニ（店長）	・新しい経済政策で、景気は若干上向くと予想している。
	○	家電量販店（従業員）	・新学期に向けて新生活の需要が増えると予想している。
	○	乗用車販売店（役員）	・税制改正が影響し、登録や納車等での3月の販売は減少する見込みである。その反動で4月以降の販売は増加すると推測している。
	○	乗用車販売店（役員）	・年度末を経て税制改正や電気自動車、PH電気自動車等への補助金政策が落ち着くことに期待している。また、メーカーの生産状況改善にも期待している。
	○	その他専門店〔コーヒー豆〕（経営者）	・来店客の状況として、純新規の客が増加傾向にある。ここ1～2か月は、半導体関連企業による外的要因も大いに寄与している。今後の売上は3～4月の異動シーズンに入る効果もあり、更に売上が伸びていくと推測される。
	○	一般レストラン（スタッフ）	・現状の景気が悪いいため、3月後半からの人の動きに期待している。
	○	観光型ホテル（総務）	・3月は歓送迎会等で予約が多くなり、景気の好転が期待できる。
	○	観光型ホテル（専務）	・予約が徐々に増加している。
	○	観光型ホテル（支配人）	・3か月先の予約も微増であるため、やや良くなると予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	旅行代理店（職員）	・春とゴールデンウィークの国内外の需要は、今月より増加するため、景気は良くなる。
	○	タクシー運転手	・春に向けてのイベントで、いつもより利用客が増加すると予想される。
	○	タクシー（統括者）	・乗務員の採用にて二種免許を取得した社員が多くいたため、その乗務員が数か月後には稼働に寄与することになり、景気はやや良くなると予想している。
	○	通信会社（社員）	・前年より扱う商材が増え、従業員のモチベーションが高くなり、先行きが明るくなっている。
	○	通信会社（営業担当）	・新年を迎え、消費活動が活発化しているため、今後の景気は上向きになる。
	○	観光名所（職員）	・これから様々なイベントが始まるため、人の動きが活発になる見込みである。
	○	美容室（経営者）	・2～3か月先は暖かくなるため衣類の色や形に変化が出る。客の動向も徐々に活発になり、外出が多くなることで景気が良くなってくる。今後は新製品もできるため、業界では忙しさが増す。
	○	美容室（経営者）	・3か月後の5月にはゴールデンウィークがあり、自分の外見をきれいにしたいと考える人が増加するため景気は良くなる。国から補助金が出たが全ての人に行き渡っていないため、経営は非常に厳しい状況である。
	○	美容室（店長）	・結婚式や卒業式のため着付けをする予約が数人おり、今後景気はやや良くなる。
	○	その他サービスの動向を把握できる者（所長）	・新年度になり委託費の改定やそれに伴う賃金改定等の効果が期待できる。
	○	その他サービスの動向を把握できる者〔介護サービス〕（管理担当）	・介護事業者に対する社員の賃上げの財源として補助金の給付が決定し、更に本年6月に介護報酬の臨時改定が行われるため、人材確保では大きなプラス要素になると予想される。
	□	商店街（代表者）	・地方では物価高の影響が大きいため、買物客の話題は物価高に関する会話がが多く、買物の様子に今後の景気に暗さがみられる。
	□	商店街（代表者）	・給付金やプレミアム付商品券等の物価対策は検討しているが、景気回復にはまだ実感が湧かない。商店街においても空き店舗が少しずつ目立っている。
	□	商店街（代表者）	・商店街は変わらず厳しい商況が続く。
	□	商店街（代表者）	・今の状況から景気が良くなる要因が全く考えられず、今後も変わらないと予想している。
	□	商店街（代表者）	・現状が今後もしばらく続くが、再開発に期待したい。
	□	商店街（代表者）	・株価は急激に上がっているが、生活が良くなるとは想定できない。物価上昇に歯止めがかからず、売上が上がらないため、給与を上げようにも賃上げできない。若者たちの趣向も変化し、スマートフォン等の支出が多く、ゆとりのある生活にはならず、少規模小売業者は厳しくなる。
	□	百貨店（経理担当）	・食品や飲食関連、時計等の高額品も外商顧客を中心に伸びているが、物価高の影響もあり衣料品の売上は今後も見込めない。インバウンド需要もやや減少傾向にある。
	□	百貨店（業務担当）	・食料品の消費税減税の報道が続いているが、まだ議論の段階で期待はできない。物価高騰により生活に困っている客が多く明るい話題は少ない。子育て世代でもなく、車を持たないためガソリン政策等など自分の生活に関係のない補助ばかりだと考えている客もいる。現実的には、身の回りの生活用品の値上げが多く、買物も十分にできない客が多くなっている。
	□	百貨店（リーダー）	・価格高騰による買い控えの傾向にあり、客は必要な買物以外の購入を控えている。
	□	スーパー（店長）	・春の新生活が始まるが、物価高騰と生活防衛意識の高止まりは変わらないと判断し、景気自体に変化はない。
	□	スーパー（店長）	・賃上げや消費税の減税への期待感はあるが、仮に実施されたとしても、消費意欲向上への影響は限定的にとどまると考えている。そのため、景況感は良くないまま横ばいが続くことが予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	☐	スーパー（店員）	・消費税が減税されたとしても、それを上回る物価の上昇が続く。特にコーヒーやチョコレート、のり類の値上げが顕著である。中小企業の勤務者や年金生活者は手取りが増えておらず、まだ好景気とはいえない状況である。
	☐	スーパー（経理担当）	・単価の上昇による買上点数の減少は続く予想されるが、消費税の減税が施行されると購入傾向に変化が現れる可能性がある。
	☐	コンビニ（経営者）	・常連の客が株で利益を出した話等から、今後も比較的好況な状態が続くことが予想される。
	☐	コンビニ（経営者）	・現状のトレンドでは大きな環境変化がない限り、景気は変わらないと予想している。
	☐	衣料品専門店	・景気が良くなるとみられる具体的な要素を感じないため、景気は変わらない。
	☐	衣料品専門店（店長）	・特に変化もなく、この先も今の状態が続くと予想される。
	☐	衣料品専門店（取締役）	・引き続き衆議院選挙の結果によりムードは良くなると考えるが、実質的な可処分所得の増加になっていないため、今後の景気は分からない状況である。
	☐	家電量販店（店長）	・上向く材料がないためこの先の景気は変わらない。
	☐	家電量販店（店長）	・ミラノ・コルティナオリンピック需要はほとんどなく、今後も良くなる要素がないため景気は変わらない。
	☐	乗用車販売店（従業員）	・例年どおりであれば、今月は決算期のため販売台数は伸びていたが苦戦しており、景気は変わらない。
	☐	乗用車販売店（代表）	・変わるような要因が見当たらない。
	☐	住関連専門店（経営者）	・株価は最高値を更新しているが、米国関税に左右されている。日中関係の緊張が経済にも影響をもたらす、物価の上昇は続いていくと予想している。しばらく客の財布のひもは固い状況である。
	☐	高級レストラン（経営者）	・2～3か月先は歓送迎会となるため徐々に予約が入っている。しかし、例年と比較すると変わらない状況である。
	☐	観光型ホテル（営業）	・4～5月の受注や問合せ状況をみると、目立った好材料がなく今一つの状況は良くないため、今後の景気は変わらない。
	☐	旅行代理店（統括者）	・先行きの販売動向は大きな変動がなく、商品価格帯のトレンドも変わっていない。
	☐	通信会社（企画担当）	・2～3か月後は年度が明けて見込みの案件が動き出す時期である。しかし、現状の予算の決定では先行きが見通せず、計画済み案件の対応が中心となっており、景況感は横ばいで推移している。
	☐	通信会社（企画担当）	・今後の景気は低調な状況が続くと予想している。
	☐	テーマパーク職員	・国内の来館者の微減傾向が継続しており、中国からのインバウンドは元々多くないため影響は軽微である。
	☐	ゴルフ場（従業員）	・韓国からのインバウンドは暖かくなるにつれ、徐々に減少すると予想されるが、地元客は徐々に増加するため今後の景気は余り変わらない。
	☐	競馬場（職員）	・現時点で、物価上昇等の外的要因による影響範囲等では景気動向の変化を見通すことはできず、景気は変わらない。
	☐	理容室（経営者）	・2月は実働日数が少なく3月にならなければ12月と同等の来客状況が再訪しないため、経営は非常に厳しい。2～3か月先には業種的に卒業や就職、転職が始まる。3月まで客の動きは良いがそれ以降は非常に厳しい状況となり、後はマイナスに傾く可能性もある。
	☐	設計事務所（所長）	・世界情勢の先行きがいまだ不透明で、物価の上昇がどこまで続くか懸念される。現状では仕事の対価が上昇する兆しはなく、自分たちの生活を維持できるのか不安がある。
	☐	設計事務所（所長）	・仕事がまとまるのに3か月掛かる。今月の打合せの結果は3か月先に出る。そのため、今月と同じ状況となり景気は変わらない。
	☐	住宅販売会社（従業員）	・受注に関しては横ばいの状況が続いている。イベントの来場者数も大幅な減少はなく、今後も現状と変わらずに推移していくと推察している。
	☒	一般小売店〔精肉〕（店員）	・売上は上昇しているが、それ以上に原価や販管費が上昇しているため、景気はやや悪くなる。更なる値上げや余分な固定費のコストカットを進めていかなければならない。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	▲	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	・生活必需品や食料品の値上げが続き、消費者は節約モードに入っている。今後、食料品の減税が早く実行されれば多少売上も期待できる。
	▲	百貨店（企画担当）	・来客数の減少に伴う売上の減少が今後も続く予想している。
	▲	百貨店（経営企画担当）	・2025年1月～2026年2月まで来客数の前年割れが続いている。直近23か月で好転する内的外的な要因がなく、今のトレンドが続き、景気悪化を想定している。
	▲	コンビニ（経営者）	・商圏内の店舗の使われ方が大きく変化している。コンビニ商品であるファーストフードやドリンク類を除いた多くのカテゴリーに影響があると判断している。
	▲	コンビニ（経営者）	・店舗前面の工事が続き、来客数の減少もあるため、今後も厳しい状況が続いていく。
	▲	コンビニ（エリア担当・店長）	・冬の終わりから春にかけて商品の単価の上昇が続くため、客の買い控えは継続すると予想される。来客数も伸び悩み、外出控えのため総菜や弁当などのプラス1品の売行きが減少している。
	▲	家電量販店（店員）	・インフレ状況の緩和政策の効果がなければ物価上昇は避けられず、今後の景気が良くなる好材料はない。
	▲	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（支配人）	・トレンド商品のシールのおかげで、館内にて全体的な好影響が生まれている。シールを求めて来館するファミリー層が購入後も館内に滞在し、館内の他店舗を利用するという好循環になっている。そのため、シールのトレンドが収束する状況になれば館内全体の集客に影響が出るとみている。
	▲	その他小売の動向を把握できる者〔ショッピングセンター〕（統括者）	・今月までの傾向から反転する材料がない。春の値上げや物価対策の実行があるまでは現状のままと予想される。
	▲	都市型ホテル（スタッフ）	・季節も関係しているが、ホテルは上期に販売量が減少する傾向にあるため、景気は悪くなる。
	▲	タクシー運転手	・旅行客の減少と物価高によって夜間の人流が減るため、売上の落ち込みは抑えられず景気は悪くなると予想している。
	▲	設計事務所（代表）	・金利上昇の影響により、今後の景気はやや悪くなる。
	×	コンビニ（経営者）	・コンビニの価格が高いため客は減少しており、景気は悪くなる見通しである。
	×	スナック（経営者）	・物価の上昇が激しい。都市圏の家賃も上がり、家計を圧迫する話ばかりである。店で提供する原価も軒並み上がっているが、賃金は上がっていないため安易な値上げもできない。外食費は節約され、飲食店の景気は良くならない。食品消費税が軽減されると状況は更に深刻になる。
企業 動向 関連 (九州)	×	旅行代理店（統括者）	・米国とイランの関係によって旅行業界に大きな影響が出る。今後、争いが起これば景気は確実に悪化する。
	×	住宅販売会社（従業員）	・政権が代わり、日中関係や消費税に関する経済対策について先行きが不透明であるため、景気は良くはならない。
		出版・印刷・同関連産業（営業担当）	・年度末の納品が多いため、良くなると予想している。
	○	農林水産業（経営者）	・原料となる鶏の入荷次第であるが、3～5月は異動シーズンや大型連休を控えているため、消費は伸びてくるとみられる。懸念されている鳥インフルエンザも現時点ではさほど発生はしておらず、最小限度の影響にとどまっているため期待できる。
	○	窯業・土石製品製造業（経営者）	・特注ではあるが、まとまった受注が入ったため状況は良くなると見込んでいる。
	○	電気機械器具製造業（経営者）	・まだこの先も需要は伸びていくとみられる。
	○	電気機械器具製造業（取締役）	・全ての企業ではないものの、ビジネスを実施している企業に好況の波が来ているため、今後景気は良くなる。
	○	輸送用機械器具製造業（営業担当）	・来期の計画数も今期以上の数量で計画しており、新車の立ち上げもあることから生産量の増加も見込める。
	○	その他製造業〔産業廃棄物処理業〕	・来月から生産に動きが出てくるとの情報があり、生産も増加しつつある。我が国でレアアースの話が取り上げられると、徐々に中国からの出荷がみられることも予想される。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	金融業（営業）	・ 今後の政策次第ではあるが、即効性はないと考えている。2～3か月で結果を求めるのは厳しいが、新政権に期待したい。
	□	家具製造業（従業員）	・ 大規模案件は計画どおりに進んでいるが、中小規模案件は見込みが少ない状況であるため、景気は変わらない。
	□	化学工業（総務担当）	・ 上期好調の反動もあり、下期の損益は上期比でやや落ち着くと想定される。
	□	一般機械器具製造業（経営者）	・ 今年度は現状のままだが、新年度になったときに複数の外的要因からの動きによって問題は発生するため、新年度に入らないと見通しが立たない。3月はよい状態であるが、新年度からは不透明である。
	□	電気機械器具製造業（総務担当）	・ 顧客メーカーの売上予測によると、景気は変わらない。
	□	輸送業（従業員）	・ 物価上昇の流れがあるため大きくは変わらないが、今後、人の動きが大きければ更なる効果も期待できる。
	□	輸送業（従業員）	・ 3月以降は春服や新生活関連で荷動きが増加する可能性がある。しかし、消費に関してはメリハリ消費が増加していることから、荷動きの増加ではなく2極化が進み、物量自体の変化はないと推測している。また、同業の会合でも倉庫に空きがあるという話が多い。荷主の在庫数量の減少が主な要因となっている。
	□	輸送業（総務担当）	・ 一部の荷主の見込みでは物量が減少するとの情報がある。課題は山積しているが、この先の景気の急速な悪化にはつながらないと予想している。
	□	通信業（職員）	・ 来年度の受注目標と比較すると、営業の件数や情報が不足している。今後の営業活動及び情報収集で充当できるとみられるが、受注量が目標を超えて大きく好転する要素も現時点では見当たらない。
	□	通信業（統括者）	・ 新規案件等への積極的な設備投資については、意欲的な状況とは言い難い。
	□	通信業（経理担当）	・ 新政権の経済関連対策によって、当社が属する業界にはプラスの影響が出ると予想され、現状の景況感が維持されると考えている。
	□	金融業（経営者）	・ 現時点では、会員数や受託調査が悪くなる、あるいは良くなる要素もないため、景気は変わらない。しかし、人手不足感があり、引き合いがあってもこなしていけるかが不安材料である。
	□	金融業（調査担当）	・ 中小企業では、1度ベース賃金を上げるとその後も継続的な負担になるため、物価高に合わせた賃上げが進みにくい状況である。当面は現在の景気水準が続くとみられる。
	□	金融業（調査担当）	・ 当面は物価高や人手不足の状況が続き、景気は現状程度で推移すると予想される。
	□	金融業（営業担当）	・ 新政権の成長戦略次第である。設備投資への意欲は中小企業も高い。しかし、物価が想定より高いため投資効果が予測できず、足踏みしている状態である。
	□	経営コンサルタント（代表取締役）	・ 自社Webのアクセス数や問合せ件数に変化がないため、景気は変わらない。
	□	経営コンサルタント（社員）	・ 3月までは内部の仕事に追われ、対外活動に余り期待ができないため、景気は変わらない。
	▲	不動産業（経営者）	・ 現在の仕事内容や受注等を分析しても、この先は不景気になると予測される。
	▲	新聞社〔広告〕（担当者）	・ 大規模な紛争の増加による世界経済の悪化が懸念される。
	▲	広告代理店（従業員）	・ 新政権の効果が出てくるまでに時間が掛かると考えられ、世界情勢でも紛争終結への道のりは遠く、好材料に乏しい。そのため、3か月後の景気はやや悪くなると予想している。
	▲	その他サービス業〔コンサルタント〕（代表取締役）	・ 例年と比較して市町村からの発注が減少し、更に予算額が低くなることが予想される。そのため、受注の機会が減少し、受注しても受注金額が低くなる。入札においては、価格競争となることから、更に受注金額が低くなり、景気はやや悪くなることが予想される。
	×	繊維工業（営業担当）	・ 3月過ぎの閉鎖倒産が多いとみられるため、景気は悪くなる。
雇用		-	-

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
関連 (九州)	○	人材派遣会社（社員）	・求職者数は先付けの案件を探している傾向が強い。
	□	人材派遣会社（社員）	・求職者数の大幅な増加が見込めないため、今後の景気は変わらない。
	□	新聞社〔求人広告〕（社員）	・新年度であるため、意識に若干の期待感を持っている。
	□	職業安定所（職員）	・慢性的な人手不足が続き、賃上げで時給が上がったことで、社会保険に入らず就業時間の短縮を希望する労働者がいる。その一方で、物価高で経済的に厳しく少しでも収入を得たいと求職申込みを行う者も多くなっており、今後の景気も変わらず厳しいと予想している。
	□	職業安定所（職員）	・特定の半導体関連事業所の派遣求人数が大量に提出されているが、業界全体で増加している状況ではないため、引き続き注視する必要がある。
	□	学校〔大学〕（就職支援業務）	・米国政権の自国優先主義や米中貿易摩擦に加え、日中関係に伴う中国政府の我が国への輸出規制など、国際情勢や国際経済の不確実性が高まり、景気が上向く気配はない。
	▲	人材派遣会社（社員）	・新年度の契約更新の確認をしているが、3月で更新しない人が前年よりも1割多く、更に後任も必要ない状況であるため、今後の景気はやや悪くなる。
	▲	人材派遣会社（社員）	・4月には新卒採用時期を迎えることから、企業においては新卒人材の受入れを優先する動きが見込まれ、派遣社員の新規受注や契約更新について一部で抑制される可能性がある。
	▲	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・賃上げや社会保険加入など雇用維持をうたい、業務改善助成金やキャリアアップ助成金の対象となっている。助成金による一時的な支援だけでは長続きしないと予想している。
	▲	学校〔専門学校〕（就職担当）	・食料品やエネルギー、日用品等の価格上昇が継続し、実質的な可処分所得が伸びにくい状況が今後続くとも見込まれる。
	×	-	-

12．沖縄（地域別調査機関：一般財団法人南西地域産業活性化センター）

（-：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連 (沖縄)		商店街（代表者）	・飲食業が多くなり、小売店は厳しい状況にあるため、3か月で状況が変わるのは難しいとみている。
		家電量販店（営業担当）	・3月13日より、エアコンや冷蔵庫、テレビなどの省エネ家電にエコポイントが付与される沖縄県独自の施策が開始する。2024年度の実績より、売上が大きく伸長するとみている。
		その他飲食店〔ファーストフード〕（総務部）	・観光客数が増える時期であるため、観光客の影響を強く受ける店舗は景気が良くなる。地元客中心の店舗もゴールデンウィークを中心に売上は伸びる。その後は緩やかになると予想されるが今月と比べると売上は良くなるとみられる。
	○	一般小売店〔土産〕（営業部長）	・今後も卒業旅行客が増えるとみている。
	○	百貨店（経営担当）	・ホワイトデーや新生活需要などで販売量や来店客の増加が見込まれる。
	○	スーパー（企画担当）	・今後は卒業や入学等の新生活に伴う内祝い需要の活発化が見込まれる。また、ゴールデンウィークに向けた行楽レジャー需要の本格化が、来客数を押し上げる要因となる。物価上昇による選別消費は続くものの、ハレの日への支出意欲は依然として高く、景気は引き続きやや良くなるとみている。
	○	スーパー（店舗管理）	・物価高騰や国際情勢など不安材料が山積しているものの、円安や世界遺産の復興など観光業は確実に本年度も堅調な伸びを期待できる。来訪の機会が増えることは県全体に大きなプラス材料とみられる。
	○	その他専門店〔陶器〕（製造）	・陶器関連は春のイベントが多いため、動きが活性化する時期である。
	○	その他専門店〔書籍〕（部長）	・新政権になり、全体的に将来の希望がみられる雰囲気であるため、消費も増えるとみている。新年度は世界遺産の復興へ向けた報道等も増え、沖縄がますます盛り上がるとみている。

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
	○	一般レストラン（代表者）	・ 歓送迎会による需要増加に期待している。
	○	観光型ホテル（専務取締役）	・ 3月以降の来客数が順調に伸びていることから、先行きも期待を持てる状況にある。
	○	通信会社（サービス担当）	・ 近々発売が期待されているスマートフォンへの関心が高く、事前問合せが増えている。現行のハイエンドモデルに手を出しにくかった層にとって、手頃な価格帯の新機種投入は強力な買換え動機になる。これに合わせて来客数の回復が見込まれるほか、ケース等のアクセサリ販売や関連サービスの契約増加も期待できるため、景気は上向くとみている。
	○	その他サービス〔レンタカー〕（営業）	・ 先行きの受注状況は前年を上回り、個人と法人利用共に好調に推移している。
	○	住宅販売会社（営業担当）	・ 住宅ローン制度の改正や消費者の前向きな購買意欲がみられる。
	○	住宅販売会社（役員）	・ 売買を中心に問合せや内覧が堅調に推移しており、今後も一定の需要が見込まれる。金利動向を注視する必要があるが、足元の動きから、やや良くなるとみている。
	□	一般小売店〔酒〕（店長）	・ 早めの消費税減税対策や物価対策を期待したい。
	□	コンビニ（店長）	・ 前年や3か月前を比べても、売上、客単価、来客数に変化はみられない。
	□	コンビニ（経営企画担当）	・ 現状から変化する要因が見当たらない。また、原材料価格を商品に反映し、値上げせざるを得ない可能性があり、消費者の購買意欲が下がらないか懸念している。
	□	衣料品専門店（経営者）	・ 卒業式などの需要を期待していたが、全体的に盛り上げに欠けている。景気は悪い状態が続いている。
	□	乗用車販売店（経理担当）	・ 年間を通して需要増加が期待される時期である。
	□	乗用車販売店（営業担当）	・ 1月の初売り及び2月実績を踏まえても、現時点では業績が改善する明確な要素がみえない。
	□	その他飲食店〔バー〕（経営者）	・ 今月は単価が上昇したことである程度売上が立ったが、人の動きが少ないため景気が良くなる兆しはみえない。
	□	観光型ホテル（総支配人）	・ ゴールデンウィークも前年並みの推移となるとみている。
	□	通信会社（営業担当）	・ 良くなる傾向はみられない。
	□	観光名所（職員）	・ 春休み期間は、気温が上昇して行楽日和が多くなるとみられるため、今月と変わらない来客数が見込まれる。
	▲	コンビニ（店長）	・ 4月以降も物価高は継続し、買い控えや安価な代替品に流れるとみている。
	▲	衣料品専門店（経営者）	・ 国際情勢の変化により、石油輸入に制限が掛かり、燃料費などが高騰した場合、更に景気は落ち込むとみられる。
	▲	観光型ホテル（企画担当）	・ 2月の販売室数は前年比29%増加なのに対し、2月末時点での5月の予約室数は前年比16%増加と、プラス幅が小さくなっている。
	▲	旅行代理店（マネージャー）	・ 売上は前年並みを維持しているが収益率としては固定費の上昇もあり今後厳しくなるとみている。
企業 動向 関連 (沖縄)	×	-	-
	○	窯業土石業（取締役）	・ 受注した工事の開始が4月以降に集中するため、来期の第1四半期は繁忙になるとみている。
	○	建設業（経営者）	・ 引き合いがあるため、建築意欲の衰えはみられない。
	○	通信業（総務）	・ 春休みや観光シーズンの影響により、ホテルや飲食、小売、交通などへの波及効果が広がるとみている。
	□	食料品製造業（役員）	・ 円安による物価上昇が今後も続き、消費者の財布のひもは固いまの状況が続くとみている。
	□	広告代理店（営業担当）	・ 県内企業の販売促進活動は、積極的に動き出しているとみているが、予算規模は微減が続いている。
	▲	-	-
	×	-	-
雇用		-	-

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
関連 (沖縄)	○	求人情報誌製作会社 (審査)	・新年度に向けた保育、医療介護分野の採用活動が活発化するとみている。また、ゴールデンウィークや夏季シーズンを見据えてサービスや観光業においても、欠員補充や体制強化を目的とした求人依頼と問合せが増加する見込みであり、市場の更なる活性化が期待される。
	□	人材派遣会社(総務担当)	・景気回復の兆しが厳しいため、今後の消費税等の動きに注視する。
	□	学校[専門学校](就職担当)	・就職活動が前倒しになったことで、2027年卒向け求人数は落ち着いてくるとみられる。ただし、6月に2028年卒向けにナビサイトなどが開設されるため、学生と企業の動きは活発になるとみられる。
	□	学校[大学](就職支援担当)	・賃金が上昇しても、物価以上に上がらなければ景気が良くなるとみている。
	▲	-	-
	×	-	-